

# ばんえい

DRAFT.RACE

NO. 5



## 目 次

会長挨拶	二
競馬場紹介	二
新競馬場建設雑感	七
ばんえい競走とはどんな競走か	八
大久保さんの死を悼む	二〇
ペルとブルの購買記	二一
昭和四十九年祭典(記念)ばん馬受賞者名	二五
〈創刊五周年特集〉	
公営ばんえい競走のあゆみ	二六
旧競馬場紹介	二九
高等経理学校の校長先生	
桜岡勝蔵さんはばんえい界の先輩騎手	三五
ばんえい競馬馬主会長	
宮腰正雄さんは宮腰建設の社長さん	三六
馬と画とばんえい競馬	三七
履歴書にない私の履歴	四七
最近十ヶ年累年比較	四五
公営発足以来五年毎の成績	四八
厩舎実態調査について	四八
地方競馬実施規程の改正方向	四八
ばんえいファンの実態	五一
マスコミに取り上げられたばんえい	五三
昭和四十九年度ばんえい便り	六三
石北峠をすぎると夜の底は黒くなった	六九
昭和五十年年度番組編成要領	七二
昭和四十九年度種雄馬ランキング	七四
昭和五十年開催日程表	七五
昭和四十九年生産奨励賞受賞者一覧	七六
昭和五十年度報償費	八一
昭和四十九年度主催者別売得金成績	八二



## 厩舎生活

奥さんと馬の手入れをしていると  
いきなり坊やが飛びついてきた、  
馬にばかりかまっている親に  
不足があるかのように  
角力をいどんできたのだ  
忙しいのに困るな、といった顔で  
父親は相手になる  
奥さんはほほ笑みながら  
まあ、アオは 私にまかせて  
坊やの相手になっておやり  
と懸命に馬の手入れをつづける  
平和な厩舎生活は  
明日への闘志と力の源泉だ。



# 会報の発刊に寄せて

北海道市営競馬協議会



会長 松本 勇

昭和五十年度の会報発刊にあたり、謹んで皆様方の御健勝を心からお慶び申しあげます。

はからずも昨年十一月、前五十嵐広三市長の意志を継ぎ旭川市長として就任することになり、また本会の会長を引継ぐこととなりました。特に競馬主催市の御理解と御支援を戴きながらこの重責を全とうする所存でございますので、今後共よろしくお願い申しあげます。

本会会報も早いもので初刊以来、第五号として皆様のお手元にお届けできる運びとなりました。これもひとえに関係者各位の御支援の賜ものと深く感謝申しあげる次第であります。

さて、昭和四十九年度の市営競馬を顧りみますと、市営旭川競馬の五月三日を皮切りとし、市営北見競馬の最終十一月二十四日まで開催し、開催回数においては、道を始め関係者各位の御支援により開催途中で、農林大臣の指示に基づき北見市が一回増の特認開催を実施することができ開催回数十七回延べ一〇二日間の長期に渡り開催され、皆様方の御協力により無事終了することができました。

その間の勝馬投票券の発売総額一四五億四千八七〇万円、入場人員においても四七万七千一〇〇人となり、伸び率は、前年度対比それぞれ一四四・四%、一三一・八%と凄まじい増加を示しております。また、四市のばんえい競馬の伸びを全国的に見ても上位にランクされており、まさに隆昌の途をたどっているといえますよう。

昭和四十九年度は、帯広、北見の各競馬場が新築オープンし、旭川競馬場も昭和五十年八月

完成に向って昨年から全力を傾注し施工を推進しております。従って本年においては近代的な競馬場での開催が実現し、ファンに対しても大衆娯楽の一環として、快適な場となることであり今後ますますばんえい競馬を愛好していただくよう関係者一同努力しているところでございます。

近年、地方競馬も数多くの問題に直面し、協議されてまいりましたが、今回農林省の指示により地方競馬実施条例及び実施規則の改正が昭和五十一年度実施に向け、全国の主催者間で協議がなされ、また全道的には、五主催者間で多くの打合せの場が持たれ検討を重ねてきております。

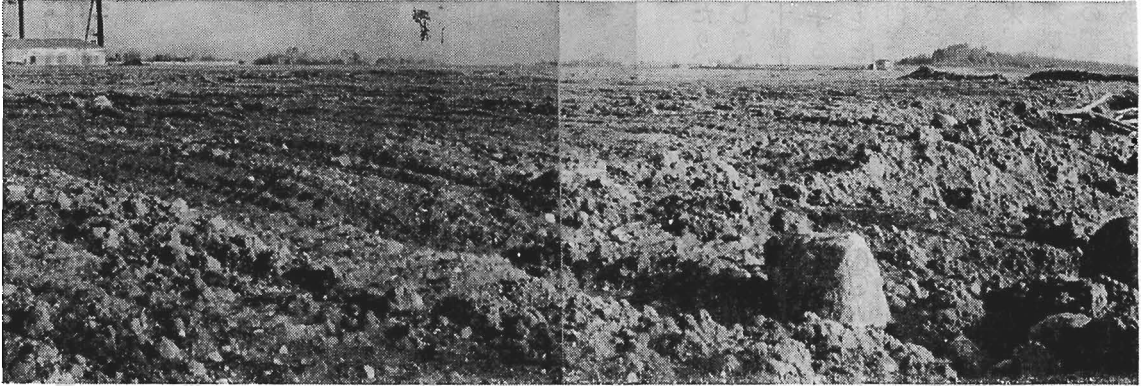
これらにともない主催者として公正確保の面から競馬事業の運営改善等に十分力を入れ、きゆう舎側に対しては、経済の向上を図るべく職能分離制度を確立し、名義貸し防止等を阻止し、またファンに対しては、競馬場の整備促進、周辺対策等の強化等に全力を注ぎ大衆娯楽としてのばんえい競馬の推進を図り激増するファンに対し、明朗な競馬を運営していくことが主催者並びにきゆう舎関係者の使命であると存ずる次第でございます。

今後さらに一層の努力を傾ける所存でございますので関係機関並びに関係者各位の絶大な御指導と御支援をお願い申しあげ会報発刊の御挨拶いたします。



# 競馬場紹介

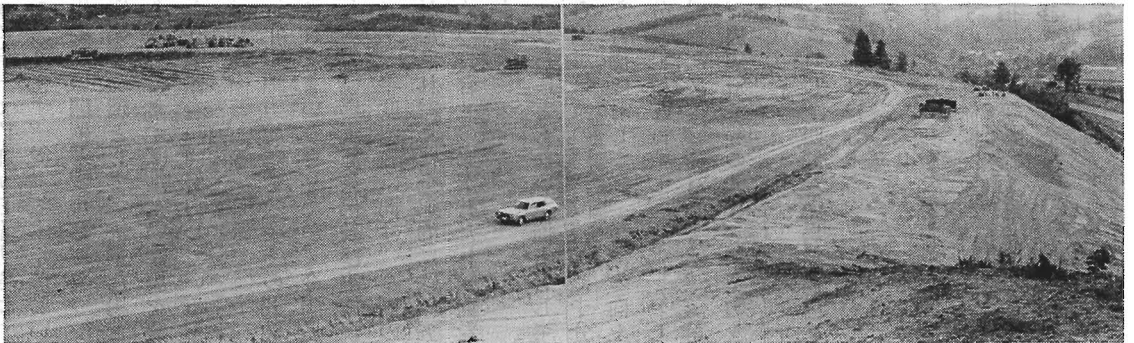
## 旭川競馬場



整地（72ヘクタール）完了の旭川競馬場

所在地 旭川市神居町上文

所有者 上川生産農業協同組合連合会



# 帯広競馬場

所在地 帯広市西13条南9丁目

所有者 十勝農業協同組合連合会



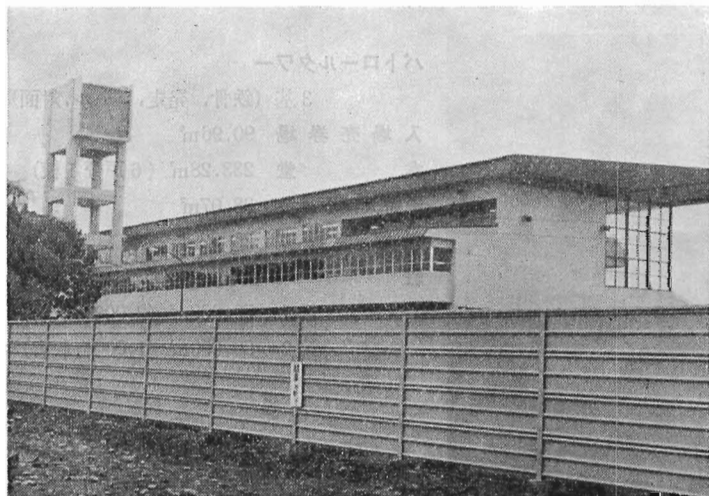
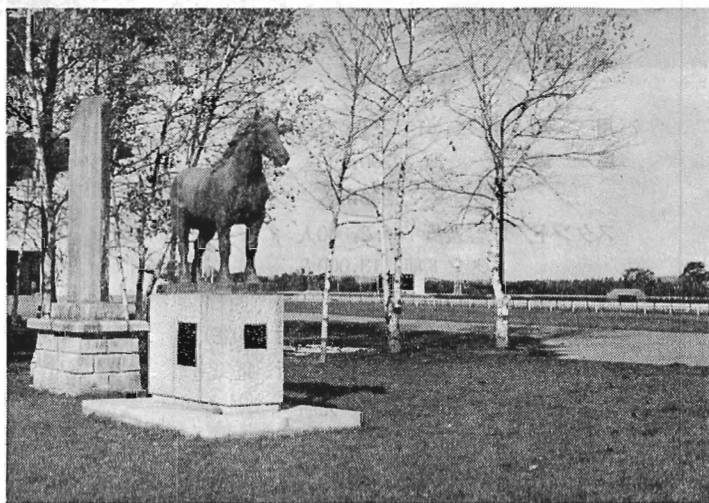
## ●構造規模

スタンド棟 鉄筋コンクリート造 3階建  
長さ 126m 最大巾 34.5m  
建築面積 4,345.68㎡  
建築延面積 8,941.19㎡  
収容人員 4,641人  
立見席 2,970人  
椅子席 1,380人  
特別席 261人  
記者席 30人  
投票、払戻、両替窓口数 433窓  
1階 248窓 2階 152窓  
3階 33窓

事務棟 木造モルタル造 2階建  
建築面積 437.4㎡  
建築延面積 847.8㎡  
事務室、賞金室、検量室、馬場管理室、場内取締員室、出走投票室、写真現像室等。

## ●その他附属施設

装鞍所、下見所、入場券売場兼警官詰所、厩務室宿舎、隔離厩舎、馬洗場、堆肥場、塀及フェンス、場内舗装電光掲示板



## ●既設施設

厩舎31棟（600頭収容）、騎手会館、浴場、ガードマン詰所、騎手調整所、食堂、採尿所

## ●走 路

1 周 1,570m  
ばん曳走路 200m

# 北見競馬場

所在地 北見市若松町306番地

所有者 北見市



## 施設の概要

用地 65.4ha (内競馬場に使用38.5ha)

馬場 平地 1,300m

ばんえい 200m

スタンド 収容人員 2,000人

スタンド前 13,000人

1階 1,682㎡

第2投票所 (53窓) 第3投票所 (30窓)

第2払戻所 (53窓) 警察官詰所, 電気室

ガードマン詰所, 倉庫, 売店

2階 2,358㎡

第1投票所 (72窓) 第1払戻所 (53窓)

場内取締本部, 観覧席, 記者席, 売店

3階 699㎡

委員長兼監督官室, 番組室, 審判室, 投票本部, 売上配当揭示室, 会議室, 総務室, 当直室, 応接室, 電話交換室, パトロール室, 放送室

前検量所 44.55㎡ (馬場管理室兼用)

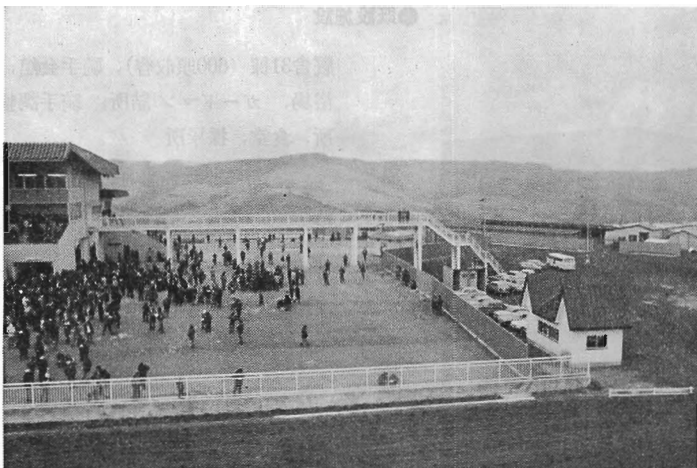
後検量所 9.90㎡

下見所 2,400㎡ (騎手控室, 出走馬確定揭示)

装鞍所 204.12㎡ (2棟, 38頭分)

厩舎 32棟 (500頭収容)

採尿所 163.03㎡ (採尿馬房6馬房)



## パトロールタワー

3基 (鉄骨, 発走, ゴール, 対面)

入場売券場 90.96㎡

食堂 233.28㎡ (6戸分1棟)

厩舎入口取締室 38.07㎡

走路審判室 25.92㎡

駐車場

第1 50,000㎡ (2,000台収容)

第2 20,000㎡ (1,000台収容)



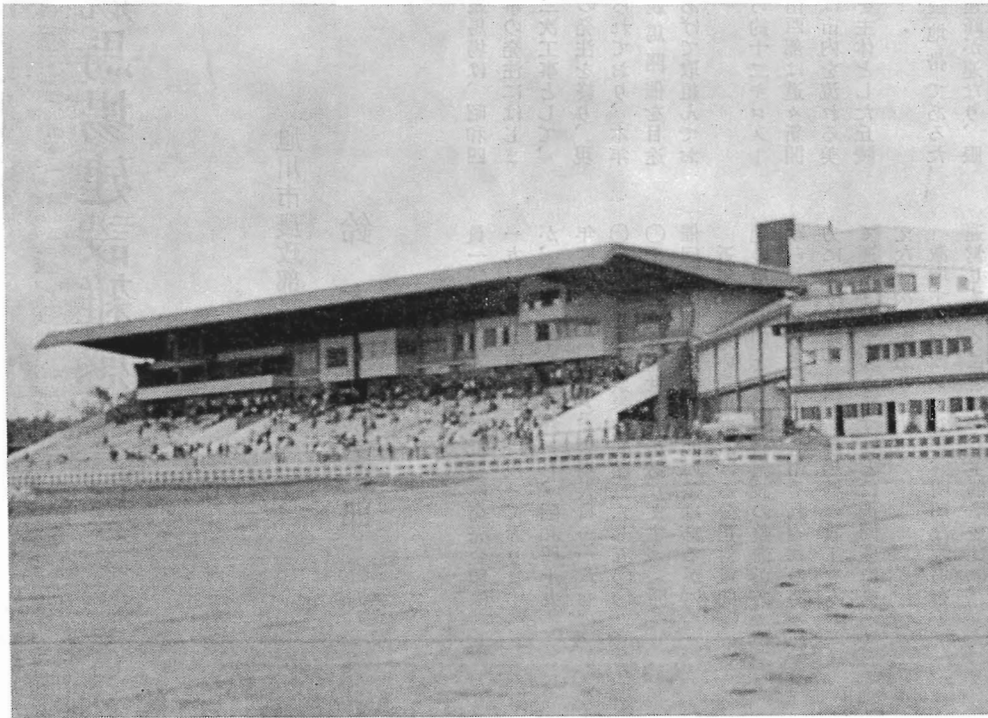
# 岩見沢競馬場

所在地 岩見沢市日の出町 444 番地

総面積 394,821平方米

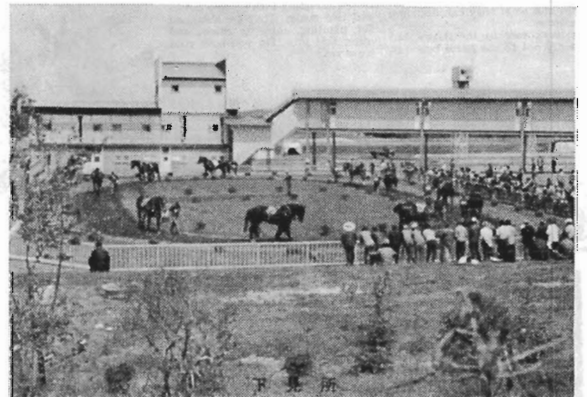
所有者 岩見沢市

常設電話 岩見沢(01262) 2局4438番 2局4239番



## 主要施設の概要

総合スタンド	鉄筋コンクリート3階建 6,398.33㎡ 5,000人収容 294窓	家畜診療所	木造平家建 1棟 62.7㎡
平地用走路	競技用 1周 1,200m 巾20m 練習用 1周 1,100m 巾10~15m	宿舎	木造平家建 1棟 79.4㎡
ばんえい用走路	競技用 直線 200m 巾24m 10コース 障害3ヶ所 練習用 直線 200m 巾10m 5コース 障害3ヶ所	浴場	木造平家建 2棟 49.0㎡
駐車場	574.62㎡ 2,500台収容	パトロールタワー	鉄骨造 平地用2基 ばんえい用1基
事務所	木造1部3階建1棟 311.3㎡	場内食堂	木造平家建 1棟 140.2㎡ 3店分
下見所	48m×30m= 1440.0㎡	厩舎食堂・売店	木造平家建 1棟 29.7㎡
出走馬揭示所	木造2階建 1棟 49.5㎡	入場券売場	木造平家建 1棟 19.8㎡
装あん所	木造堀建 1棟 123.7㎡ 25頭分		
検量所	木造平家建 1棟 49.6㎡		
検体採取所	ブロック造平家建1棟 138.1㎡ 6頭分		
騎手観覧所・倉庫	木造2階建 1棟		
厩舎	木造平家建 29棟 10,947.9㎡500頭分		



# 新競馬場建設雑感

旭川市農政部長

鈴木善次郎

待望久しかった旭川競馬場は、昭和四十九年十月スタンド工事の発注にはじまり、昭和五十年二月第二次工事として、厩舎群及び各関係施設の発注を終り、現在鎮音高く工事が進められており、本年九月十三日よりの道営競馬開催を目的に、各関係者の総力をあげて取組んでおります。

新競馬場は旭川駅から約十二キロメートルの地点に位置し、南西部は道々新開旭川線に沿い、東北部は市内を流れる美瑛川に沿った山林原野を主体とした丘陵地帯であります。

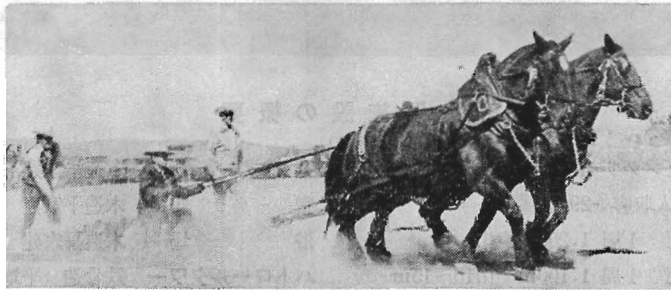
競馬場用地はこの丘陵地帯であるため、東北部には大雪山連峰が連なり、眼下には旭川市内が一望に見渡せる景観の地でもあります。

市営旭川競馬は昭和二十八年より現競馬場（旭川市花咲町）で開催され、当時は二開催で七日間の日程であり、入場人

員一〇六五六人、勝馬投票券発売金額は一九二八九千円と記録に残っておりますが、爾来二十数年を経過し、昭和四十九年度の実績によると、入場人員一八七〇三人、勝馬投票券発売額三六七五〇〇千円と全く隔世の感があります。（開催回数四回、二十四日間の差はあるが）

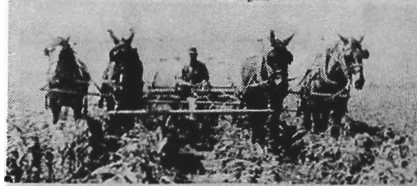
近年ばんえい競馬における公正対策問題の重要課題として、諸施設の整備があげられておりますが、各市それぞれの努力により結果を見、新競馬場の設工をみて運営されておりますことは御同慶に堪えない次第であります。

激増するファンに対し、明朗な競馬を運営していくことこそ、主催者並びに、厩舎関係者の使命であることを痛感するとき、本市における新競馬場竣工の一日も早からんことを切望して、止まないものである。

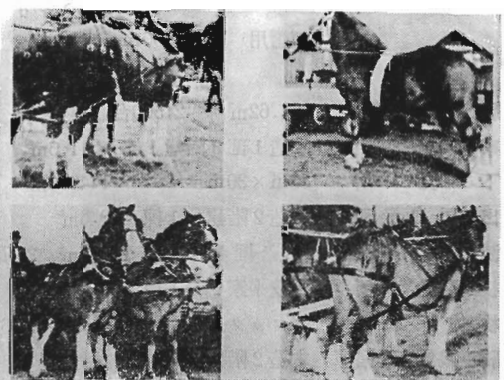


U. S. A ドラフト、ホース、ジャーナル 1975. 4 より

... we close this column with a picture of John Addengast, Ashton, Iowa cultivating with his two horses and two mules. They are also used for planting, moving roads, and other odd jobs. Do you have your team yet?



The 5 year olds Prince and Queen sown by Richard and Rachel Lafont, New Glouster, VT. When they were coming 2 yr olds they gathered all the sap from 200 buckets. (By now they must be 20 yr olds!)



**Looking for Something Better?**  
Come over to Percherons

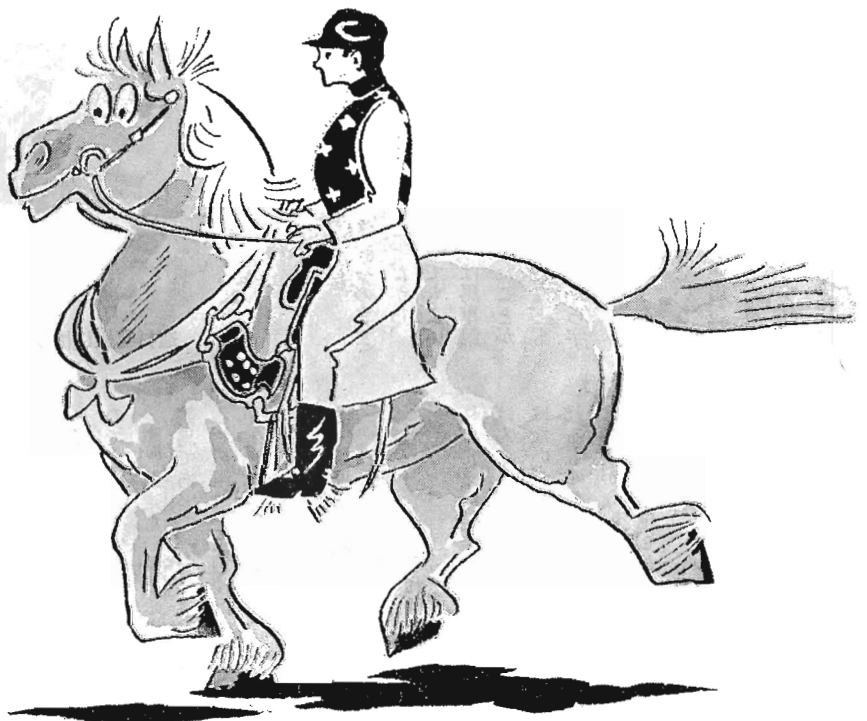
Copy of Percheron Notes \$2.00 donation

**WANTED:**

A pair of Percheron Steeds...  
...prefer...  
...prefer...  
...prefer...

# ばんえい競走とは どんな競走か (5)

内 田 靖 夫  
北海道市営競馬協議会参与  
まんが うちだやすお



1 ばんえい競走は競馬でないか

昨年六月、全国協会会長さんの招待で全道の地方競馬主催者が札幌の山荘に集まって懇談した。

道の部長さんも開会間際に出席されたが、太田会長さんは開口一番

「部長さん、ばんえいはとまるレースだから駄目だと言っておられたが、私は旭川で始めてばんえいというものを見て

あれはそんなものでない、立派な競馬だと思えましたよ」と言って、部長さんを

苦笑させていた。

部長さんはあまり「ばんえい」をご存

じないはずだから、それだけで早速納得するとは思われないが、また判っていないだけに思いなおしも早かったかもしれない。同じ席上私は久々で道会の先生にもお会いしたので、そばへ行って懇談する機会を得た。

ところが先生はハナから、ばんえいなんて君、競馬じゃないよ、昔賀茂川のほとりで、祭事に「くらべ馬」をやったのが日本の競馬の始まりだというが、ばんえいは町村のお祭りなどで、余興としてやっておればよいもの、公式の競馬というのは、おかしいよ。重いそりを引っぱって走り、障害の前でとまる、息を入れてから障害をこえる、これでは競馬として成り立つものではない。第一不正やったって判らんだろう。

どだい先生は競馬にくわしい方、右隣りには北見の市長さん、私の左には岩見沢の助役さんが坐っておられたので、競馬の専門家でない方達がそんな話をきいたらどう思われるかしらんと、いささか気になったが、立ちもできずにいると、その日の先生は久し振りの会見にご気難よろしく、益々調子が高まっていった。

私はそこそこにして、いずれこの話は別席でゆっくりさせて頂きますと打切りにしていただいたが、ばんえいに対するこのような考え方は、実は私も専門にならない前は持っていたのだから、先生の話は決して無理だとは思えない。

昨年もこの会報で一、二の批判について書いたとおり、まだまだ指導者層の中

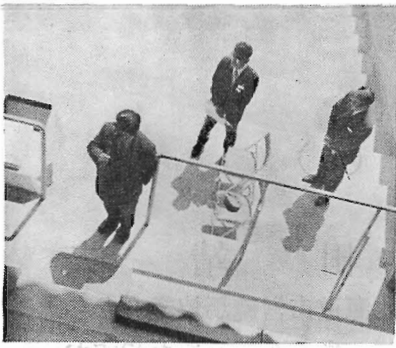


には、このような考えが残っているのは否めないことである。

その後北見市長さんは新競馬場完成のとき、馬場内から観衆に向って、「我々は馬産地としてこれからもばんえい競走を愛し、大いに育ててゆく、よろしく」と挨拶されたが、それは私にとって堂々たるものにきこえた。

ばんえいは北海道の土から生れた競馬である。

かつて戦後新競馬法の制定に際して、国会の農林委員会が競馬の目的について議論が沸騰したとき、松村真一郎委員（参議院議員、元貴族院議員、元農林次官）は競馬の施行の目的が、もし財政寄与であるなら大蔵省所管で、スポーツなら文部省で、キャンペーン対策なら法務省で所管すべきである。我国の競馬は馬産振興と、その関連産業の振興にあるのであって、その意義を忘れては競馬の大義名分はない。農林省所管たる基本精神を今



開場の挨拶をする北見市長さん

更論するのはおかしい」と喝破されたことが想起される。

## 2 競馬とは何ぞや

競馬とは一体何だろう。字句そのままで解釈すれば「馬が競う」ことだから、ばんえいは競馬にお仲間入りしてもよいと思う。そもそも競馬のおこりは馬車競走だったと、本誌創刊号に書いたことがある。その後戦車競走、騎馬競走などもあったが、みな馬を競わせるのだから字句どおり競馬と解してよいようだ。

今の世の中で「競馬」といえば、それは馬券を売ってやる競馬のことをいうのだと思う。新聞紙上を賑わす「競馬競輪」というのは、馬券車券を売ってやる競馬競輪のことをいうのである。とすればばんえいは競馬でない、ということにはならない。



造材運搬にはげむばん馬（南坂俊雄氏提供）

速歩競走はトロッティングレース、軽い駕速歩競走はソルキーとかハーネスとかいうが、これが競馬でないとは誰もいわない。何百年もの伝統あるサラブレッドレース、集まる紳士淑女、これこそ競馬であって、ドタドタ馬の農耕馬が重い荷物を引っばって走る「ばんえい」は競馬だろうか……競馬でないとするのはそんなところから来ているようだ。

これでは競馬とは既成概念で作られたスイスイ走るサラブレッドレースをいうのであると、定義づける必要がある。

障害競走も騎乗速歩も、けい駕速歩も競馬であって一向に差支えないのである。短距離を二〇秒以内で走って終るコーナーホースレースも、ばんえい競走も競馬であってよい。

## 3 競馬法に定められた競走が

公正に行われれば  
それは競馬である

ばんえい競走は競馬でなくともよい。ばんえい競走法でやっても一向に差支えはないが、一般の競馬規定でほとんどやれるものを、また別の法律で定める無駄が必要がない。ほかの競走と一緒にばんえいを規定化したことは全く合理的である。

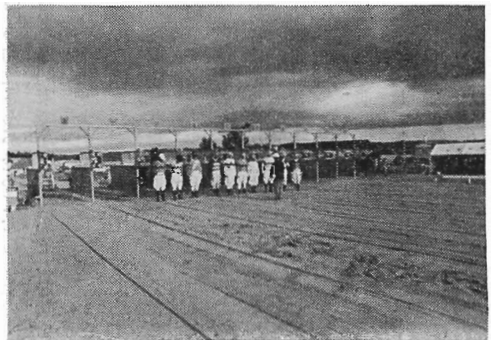
公正に行ない得るか!!

むしろこのことが

ばんえいを競馬にして貰えるか

貰えないかの界目だと思ふ

とまるレース、とまってもよいレース



レース前の規律・誓いも新たに

ス、競走中にとまっては進む、というレース、そこに不正はやり易くないか、しかもそれを見抜く技術は至難でないか。何といってもこのことが我々として一番の問題点だったから、本誌創刊以来毎号それに触れてきた。我々の研究、我々の結論を説明してきたわけである。

地方競馬全国協会が昨年行なった大規模な与論調査「地方競馬ファン実態調査報告書第三輯岩見沢ばんえい篇」の第6章1の(6)「運営の公正に関する意見」によると、やはりファンもばんえいの問題点は「そこだ」と指摘している。

我々は年を逐うて増加するファン、売上げの増大によって「ばんえい」に対する理解と信頼が高まったと解釈している。確かに主催していく者の努力と、厩舎側の自覚によってそれは間違いないと思うが、それは高まっただけで成就した

ということにはならない。

我々は平地競走と同じ水準の審判技術をもう会得したと考えてはいる。厩舎側も執ようなほどの教育と、本質的に素朴な人達の集まりであるだけに、そのような不心得者はいなくなっただと思っただい。競走の方法も不正がやれないような改善を思い切っただやっている。私達も平地競走に比較して一つも遜色のない技術を身につけた自信を持っている。

むしろ今はファンがもっている不安をどうして解きほぐしていくかに心をくだしているのである。

それは言葉よりも宣伝よりも、ただひとつ、主催者厩舎側がすべての力を競馬の公正化に結集し、全力をあげて不正絶滅の実をあげていくことに尽きるのである。

#### 4 とまるレースこそ

##### ばんえいの醍醐味

ばんえいの公正化を阻むといわれる「とまる」ということ、ばんえいの不安ばんえいの不正はそこ根源がある、との考え方はもう古い。

私も実は二十年前には同じような疑いを持っていた。ばんえい競馬のある時代の先覚であり功労者であった坂本春吉さんも「ばんえいは将来廃止すべきだ、これが盛んになって馬券が売れ出すと危険だ。八百長をやられると大騒ぎになる、そのようなことにならないうちに、いつの日か、ナルベク早い内に廃止を予



#### 49 年 岩 見 沢

告すべきだ」と言っていた。今思えばそれは全く杞憂にすぎなかったのである。

我々は大いに研究をつづけ、改善を重ね、そしてそれは絶えることなしに将来へ向って続けられていくだろう。

何百年もの歴史をもつ普通の競馬でさえも研究事項は絶ることなしにあるのだ。かつて四十一年に函館の道営競馬で大型の八百長事件があった。その冬、道は画期的な改善方針をたてた。それに対処協議会を

「知事はこの改善策の実行で不正を絶滅できるか」との質問があったが、当時の町村知事は元警視總監という経歴もあつたか

「我々は絶滅を期している、しかし犯罪というものは、対策を立てればまたその上の手口を考える者が出てくる。防止対策を実行すると共に、我々は精神的技術的指導を徹底する。決して放漫にはしないということでした了解を得たい」と答弁している。

これこそ私達担当者の代弁であって、その上の手口を考える者がないように、我々も厩舎側も「不信のカケラ」もなくするまで努力しなければならぬのだ。「とまる」ということは、普通競馬の「ひかえる ためる 馬なり」ということと全く同じである。

騎手の意志で馬をとめたか、馬が一寸一服したくてとまるかの差は素人でもよく判る。



49 年 帯 広

ばんえい競馬には時折、普通の競馬ではみられないような大歓声が湧く。それは昨年の本誌にも「どこが面白い」というテーマで詳しく書いた。

ファンは自分の買った馬がとまると、ウィップと気をもむ、相手馬がとまるとウィップと歓声をあげる。そこへまた別の馬が出てくる。とまる、出る、とまる!! そのたびに大歓声は湧きに湧くのだ。考えてみると、

とまることこそ、ばんえい一番の面白い味である、ともいえる。

それなら大いにとまるように荷物を重くしたらよいではないか、ということになるがそうはいかない。

重くなると不正とみられやすく、また不正もやりやすい。馬をそれだけ苦しめる惨酷観がある。馬具や道具もこわれやすい。

5 三つの投書

さてここで三つの投書をお目にかけてよう。先ず鷹栖町のYさん、この方はかなりご年配の老ファン、雨の日も風の日も欠かさず、ばんえいにきている古いファンである。(六月三日)

「重量を重くすると動物保護法では必要以上に強度の苦痛を与える」こととなり「虐待の定義」になると書いてありましたが、私旭川で五月三日より六月二日ばんえいを見た時に、現在では荷物があまり軽くてファンの皆さんは面白くないという人が沢山おりました。内田さん

では一分四〇秒をメドにかんがえておられるように書いてありますが、これではお客さんがだんだん少くなると思いますが。ばんえい競走であれば二〇〇米二分五〇秒から三分五〇秒かかるのがよいと思います。そうするには現在より三割方荷物を重くして三障害を急登りにすればお客さんが沢山よるこんでくれると思います。本年こんな競馬式のばんばなら北見も帯広も行くのを止めるといふ人も沢山おりました」。原文のまま 以下略

次は四月二十九日付のばんえい競走ファン者一同という差出人の投書である。

「誠に恵一御座いますがばん馬競走ファン者の要望を申し上げます。昨年は荷物の重量が大へん軽くて二〇〇米を一分三〇秒より一分五〇秒で走っているから全く競馬のようではん馬競走でないから明年競馬のりかえるという人が大へんおりました。

旭川で四月二十四日と二十五日テストがあったが本年も昨年同様に重量が軽くて面白くないという人が大へんおりました。何としても二〇〇米を三分から四分かかる重量にして減きたく存じます。

左に書いてあるようにすればファン者が大へん喜んで沢山の人が集って、馬券を買うようになると存じます。農林省のお役人様とご相談致し初日より実行致しますようお願い申し上げます。

- 二〇万以下二八〇Kを三八〇Kに
- 三才、二四〇Kを三四〇Kに
- 四、五才二六〇Kを四〇〇Kに



四〇万以下二九〇Kを四三〇Kに  
 六〇万以下三〇〇Kを四八〇Kに  
 九〇万以下三一〇Kを五二〇Kに  
 一二〇万以下三二〇Kを五六〇Kに  
 B級 六〇〇K A級七〇〇K  
 農林大臣は八〇〇Kに（原文のまま）  
 さてその次は六月二十七日放送された  
 NHKの「ばんえい競馬」を見て、その  
 迫力ある描写の影響か、ある主婦から道  
 新にあった投書である。

ばんえい競馬の馬がかわいそう

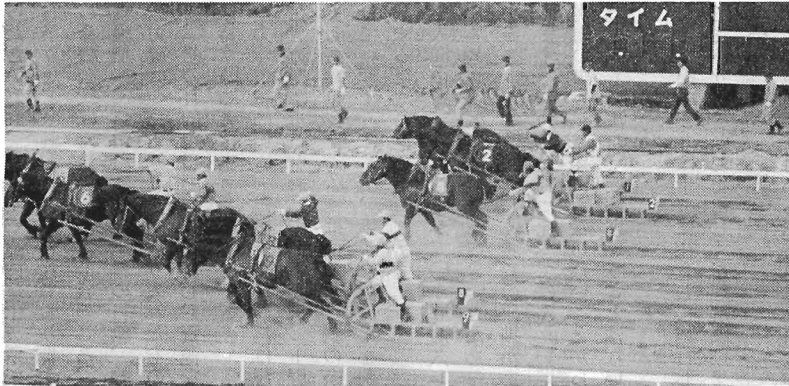
「ほっかいどう7・30」

六月二十七日のNHKに「ほっかいど  
 う7・30」のばんえい競馬（札幌ローカ  
 ル）を見て思ったことですが、普通の競  
 馬とちがって、重荷をひいて騎手から終  
 始革ムチでたたかれ、動物虐待という感  
 が強くします。人馬一体となつての真剣  
 な迫力が好きだとこの意見もあるけれど、  
 現実を冷静に直視すれば、とても馬が哀  
 れに思います。これが生産的な仕事に役  
 立つ馬力の労働ならともかくとして、単  
 なる人間の遊びのゲームに使われること  
 は馬族にとっては辛いことでしょう。

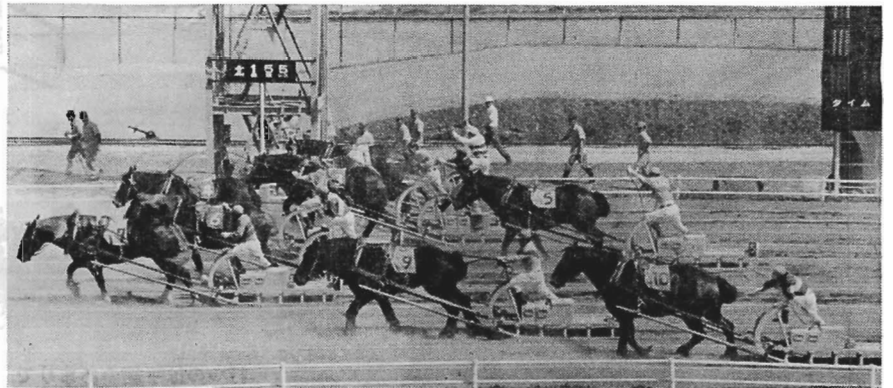
上野動物園のおサルが動物愛護  
 の上から廃止か存続かの論議が煮つめら  
 れて、六月いっぱいまで廃止と決定したそ  
 うですが、ばんえい競馬はおサルので  
 からみれば、なお一層の動物虐待としか  
 考えられません。馬の鼻息の苦しそうな  
 あえぎを聞きながら悲しくなりました。

（三笠市・河合多美子・57歳・主婦）

この三つの投書は、前者は負担重量を



ゴール 20 m 前の接戦

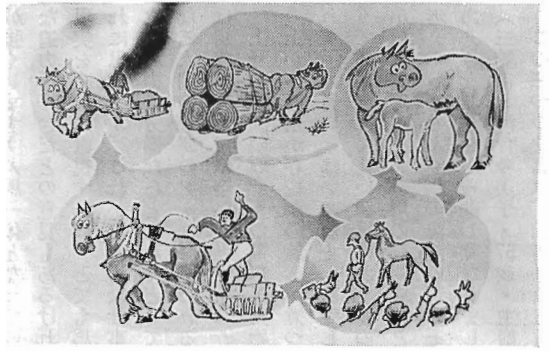


ゴール前の接戦

重くせよというのであり、後者は惨酷だ  
 というのである。これは表現の差はあれ  
 一方は重くして力くらべに重点をおけと  
 いうことになり、一方は馬をラクにして  
 一般の競馬やスポーツのように軽やかに  
 せよということになる。

このふたつのご意見は全く対照的であ  
 るが、単にこの奥さんだけでなく同じよ  
 うな批判はほかにも少なからずあるので  
 ある。かつて動物愛護協会からも抗議を  
 受けたこともあり、現に本年一月号の全  
 国協会機関紙「地方競馬」の目玉記事「  
 対談・競馬今昔物語・現代競馬に苦言を  
 提す」に農林省競馬懇談会の楠見座長さ  
 んはこう語っておられる。

「競馬の跛行性といえは、そういう問  
 題が随分あるだろうね。僕は最近テレビ  
 で北海道のばんえいを初めて見たんです  
 よ……あれをいったい競馬といえるだ  
 ろうか、競馬には違いないけれども、他  
 のものと同じ範ちゅうに入れた競馬とい  
 っているのかどうか。競馬法なら競馬法  
 で、十把一からげにしてその範ちゅうの  
 中に入れてあるんだけれど、あれはあれ  
 としてまたいいところがあるんだから、  
 何とかしないと、とにかく初めからしま  
 いまで尻をたたきつめだものね。動物  
 愛護協会の人なんか見ると何と言うだろ  
 うと思うような。とにかく初めから最後  
 まで尻をたたきつめだものね。ああいう  
 競馬というのは、何か同じ範ちゅうに  
 入れていいのかわるか、跛行性とは違  
 けれど、そういう問題もありますね」



馬産経済循環

6 ばんえいはラクなスポーツ

以上二種類のご意見について先ず奥さんのほうから、私達の考えを申し上げよう、これは八月七日の道新紙上にも次のとおりお答えしている。

「北海道新聞七月五日付朝刊「放送みてきて」の河合多美子さんの「ばんえい競馬の馬がかわいそう」の投書には少々誤解の点がありますので、ばんえい競馬を主催している四市側として、今後これを続けていこうとしているその開催趣旨を述べさせていただきます。

ばんえい競走は北海道の開拓に従事した農民生活の中から生まれました。初めは馬二頭がお互い引っぱり合うやり方で今のようになったのは明治の終りごろか

らだといわれ、現在でも道内数十カ所でお祭りなどに盛んに行なわれております。今の公式ばんえい競馬は敗戦のころ、食糧増産、耕地の拡張、肥料の自給、輸送力確保のため競馬法に取り入れたもので、その目的は馬の生産を促し、資源を保持することにあります。

力くらべに始まったばんえい競馬は現在、速度に重点をおいて荷物をグット軽くしております。ムチは使わず手綱の余分で打つようにして、馬の反射作用を刺激するだけに止めております。

人間にもマラソンとか五〇キロ耐久レースとか、猛訓とか「しごき」とかあらゆるスポーツには厳しい勝負の原則があります。普通の競馬に比べてばんえい競走馬の事故が三%にもならないことから考えても、決して残酷ということはないのです。

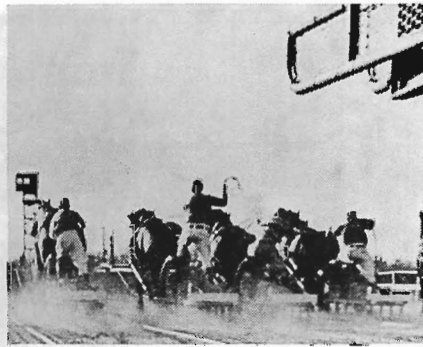
ご指摘のことは十分に注意して施行してまいりますのでよろしくご理解いただきます。

さて競馬には命から二番目に大事なお金がかかっている。騎手も馬も全力をあげて追い、走らなければならぬ。

普通の競馬ではハミ(頭にかけているくつわの一部を馬の口に噛ませている金具の部分)をガッチリと口角にかけている。これを「ハミ受け」というが、ここがユルんでいたり、きつすぎたりすると馬は走れない。騎手の命令を馬に伝える一番大事なところである。

馬が走るときは大地を蹴って空気を飛

んでいくわけだが、その馬体の伸びちぢみに合わせて騎手は、上体や尻殿を微妙にほどよく合わせて馬を推進し、かちをとり、足でしめつけたり、蹴ったりして馬を走りやすく、走る意志を高揚させる



打つのは手綱のあまりで

のである。

ところがばんえいの騎手はそりという馬の口から、かなり遠い位置から、前方にいる馬に自分の意志を伝えなければならぬ、その上重い荷物を引いていること、馬はサラブレッドなどちがいが動きや神経も鈍重であること、冬期間造材や客土などに働いている馬であることなどから、その駆込動作はかなり激しくやらないと馬をよく動かすことはむずかしい。そのため手綱のあまった部分で打つてもいいこととしたのである。

これは鞭ではない。柔かいダニャグニヤした手綱の余分(手綱の後端は、荷物にくくりつけてあるから、ムチとして使える部分は馬を馭すのに必要な部分を除いた余りである)で打つてもいいことになっている。そのたたく影響力はちょう



ど母親が子供のいたづらを戒めるために  
思わずひっぱたい程度といわれている。  
それはみみず腫れになるようなもの  
ではない。馬は冬になると被毛が長くな  
って寒さに耐える体表をつくるが、夏冬  
に係らず皮膚は人間にくらべて、比較に  
ならないほど厚い。

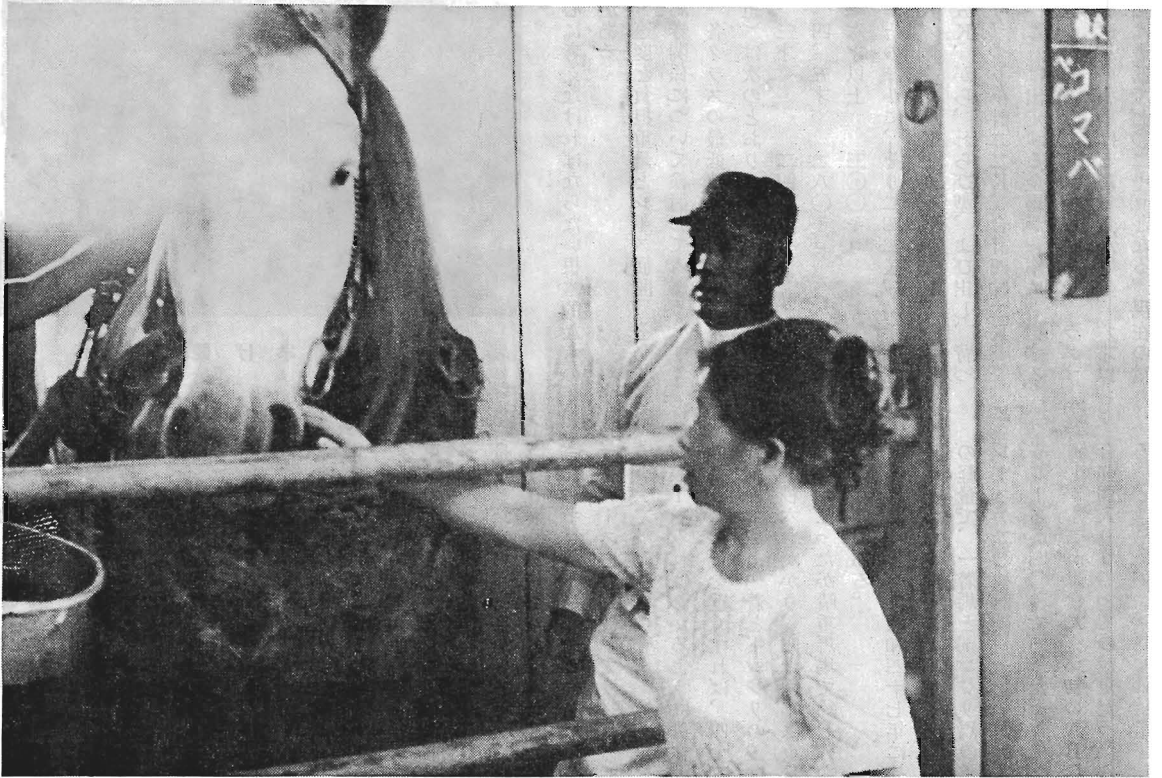
奥さんや補見座長さんが残酷でないか  
とおっしゃるが、馬を使い馴れている農  
家の人達は造材や客土で働らく時とくら  
べてラクすぎるほどラクなのだといっ  
ている。

あれほど激しく見えても馬は騎手や馬  
丁さんや家族になつき、甘え、鼻を鳴ら  
して顔をすりよせてくる。それを見ても  
その愛情にみちた家族的関係はうなづ  
けるのである。

素人の方にはただ残酷に見えるだけ  
である。普通の競馬では一主催者一年間に  
少なくとも二、三〇頭以上の死傷馬が出  
るが、ばんえい競走では外科的死傷馬は  
全く皆無である。心臓麻痺のような内科  
的疾患による事故が稀に発生することが  
あるが、それも普通競馬に比較するとズ  
ットと少ない。このことからみて他の  
競走スポーツと比較して、決して残酷と  
いうことにはならない。

奥様、ばんえいをやめたら、馬は全部  
喰われてしまつて、いなくなつてしま  
うかもしれないですよ。鰻供養とか、ふ  
ぐ供養などもやっているようですが。鰻  
もふぐも黙っています。

農林業の機械化によって馬は必要でな



いというので、どんどん減つてしまひ、  
生産しても売れないとなれば、農家は生  
産しないようになる。

機械化農業は金肥農業となり、畑はや  
せてゆく、石油危機以来馬は見なおされ  
て、生産は少しづつふえてきている。そ  
のテコになっているのがばんえい競走で  
ある。

ことは一千頭に近い出走申込みがあ  
つた。ばんえいを盛んにすればそれを目  
標に生産意欲は燃え上がる、その理由は  
簡単である。馬が高く売れるから……馬  
が好きだからである。

それではこんどはY老人とファン者一  
同様の「重量を重くせよ」というご意見  
について検討してみよう。

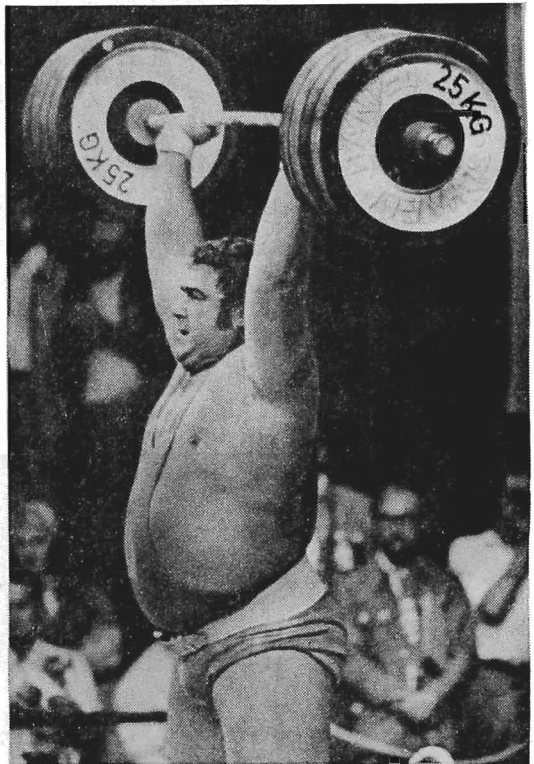
#### 7 ばんえい競走は力くらべではない

ばんえい競走の起源は力くらべであつ  
た。前人未踏のうっそうたる原始林を切  
りひらいた開拓農民達が、無聊をなぐさ  
めるために始めたドサンコの力くらべが  
馬車ひき力くらべとなりばん馬競走とな  
つた。

競馬法による公式ばんえい競走が始ま  
つたのは昭和二十二年だが、村落の力く  
らべばん馬競走をそのまま取入れたため  
積載重量は三才でさえ、一四〇貫(五二  
五キロ)、一番上の甲組で二〇〇貫(七  
五〇キロ)もしよわした。

もしばんえい競走が力くらべならば、  
アメリカでやっているようにやるべき  
だ。これは人間の重量挙げのように、よ





重量挙げ競争

り重いものを三〇米ばかり動かせば勝つのであって、勝敗は力の強さで決する。

そのような力くらへは「馬券を売ってやる公式競馬には適合しがたい」。力の強い馬が勝つということになると競走の方法を全く変えなければならぬし時間的にも不可能であろう。

ばんえいは力とスピードをマッチしたスポーツなのである。

### 8 勝敗は先きにゴールイン

したも (スピード) で決する

現在のばんえい競走は距離を二〇〇米に限定している。そこには二つの障害がある。同じ重さのものを引いて二〇〇米のコースをより早くゴールに到達した馬が勝つのである。そこに速度の興味を中

心に考えなければならぬ根本的なものがある。

速度と負担重量とレース展開、そして馬券関係について検討してみよう。

各クラスの最低積載重量(一番下級の組)は次のとおり

- 三才 二四〇キロ
- 四、五才 二八〇キロ
- 六才以上 三〇〇キロ

そのほかに、そり二四二K、騎手七三K、胴引二〇K、かち棒三〇K、引木一五K、がら、わらび型、よび出し、背づり、つり革計二二K、合計四〇二K。

これは出走する全馬が一率に負担するものである。これに積載重量をプラスすれば馬の引っぱる総重量が判る。六才以上は最低で七〇二キロとなる。現在の重

量では軽いという意見もあるが、一番軽いところでもこれだけの負担をさせているのだから軽いということにはならない。

### 9 重ければバラバラになり

軽くすればダンゴになる

重量を重くすれば一番先きに在る馬と一番あとに在る馬の差は離れていき、軽くすればその差は接近する。

少し極端な例ではあるが、ばんえいの最高峰レース農林大臣賞は毎年一番重い重量で行なわれるが、昭和四十四年の一、〇〇キロというのが最近の最高重量だったので、それから三年間の農林大臣賞の重量とタイムと、昭和四十七年に三〇〇キロという軽量でやったオールカマーレースとを比較して検討してみよう。

表1をみればわかるように農林大臣賞のように重量を重くすれば、四十五年の軽馬場でさえ一着とドンジリの差は五分一一秒六もかかり、四十六年は重量八五〇キロだったが晴重馬場で約七分も差がついたのである。

それにくらべて昭和四十七年にやったオールカマーレースでは重量三〇〇キロの軽量で、一着馬とドンジリ馬の差は三レースが二〇秒前後、一レースが二七秒一レースが四〇秒であった。

しかもこれはばんえい初のABC D混合強弱入りまじっての競走だったのである。

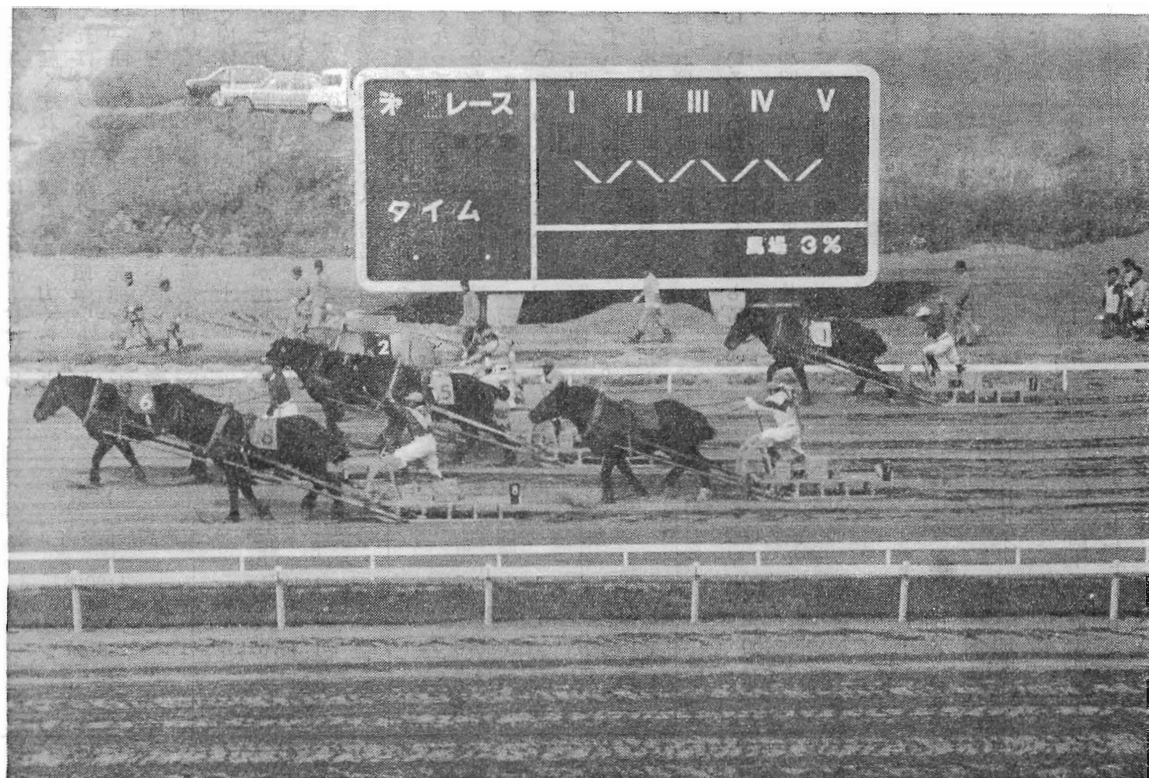
(表1)

農林大臣賞3年間成績

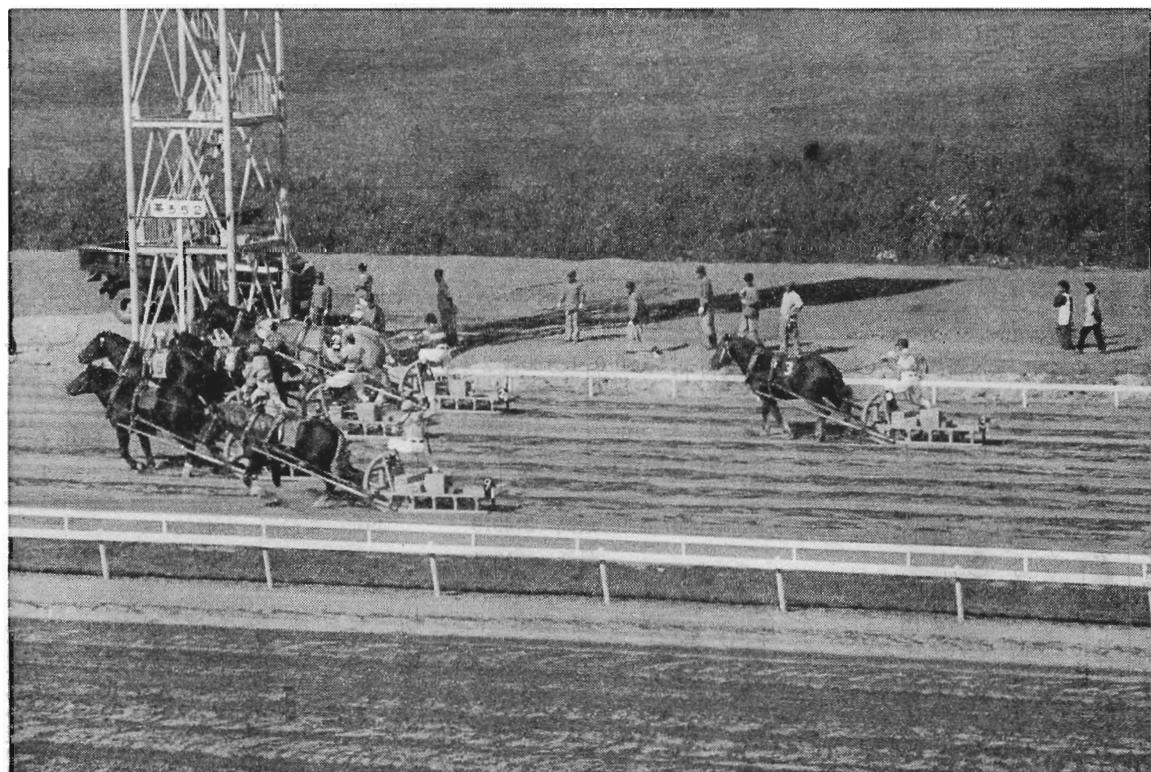
年次	重量	1着馬	タイム	最後尾馬	タイム	着差タイム	馬場
44年	1100K	ハルトカチ	6:10.8	ダイニユウシン	11:12.5	5:01.5	晴重
45	900	ハルトカチ	3:48.9	フェニックス	9:00.5	5:11.6	曇軽
46	850	シャリイチ	5:50.0	ハナタカラ	12:49.0	6:59.0	晴重

47年オールカマーレース成績(300キロ)

場所	回	日	レース	出走頭数	1着馬	タイム	最後尾馬	タイム	着差タイム	馬場
岩	2	2	6	9頭	Cハクリキ	1:36.4	Cナガヌマ	1:58.6	0:22.2	晴重
岩	2	6	6	10	Aヒッショウ	1:13.5	Bフジイサミ	1:53.5	0:40.0	晴重
北	2	3	6	9	Cウルトラゴ	1:20.3	Aバンツバメ	1:39.7	0:19.4	雨軽
北	3	2	10	10	Aタカラオー	1:13.6	Aメジロタイヨーゴ	1:33.0	0:19.4	曇軽
北	4	5	3	10	Cトカチマル	1:35.6	Bカツミネ	2:03.2	0:27.7	晴重



ゴール前 30 m の 接 戦



こんな接戦が多くなった

重量を重くすれば馬と馬の差はひらき、軽くすれば混戦となる。力くらべとすればバラバラとなり、先頭争いとなれば一団となる。ゴールまで先頭を争うレースとしなければ、新しい観客層が激増している今日、ばんえい競走はおそらく崩壊してしまうだろう。

これと同じ理屈になるのが馬場の重い軽いである、馬場が乾いてカンカン馬場となるに従って重い重量と、軽い重量の影響差は大きくなり、雨馬場雪馬場と馬場が軽くなるに従って軽重の差は小さくなってくる。

表2を見ると判るように、晴馬場で五、四〇キロの競走タイムは四分一三秒三、三〇〇キロでは二分三八秒七、その差は一分三四秒六もあるのに、雨軽馬場ではわずか三〇秒六の差にちぢまっている。馬場が重ければ重量差は大きく作用し軽ければ少ないのである。

10 いろいろな角度から検討してみよう。昭和四十七年と四十九年で比較してみよう。この兩年の積載重量は表3のとおりである。この表をみてわかるように四十七年にくらべ四十九年の積載重量は大きく減ぜられている。上のクラスの減が大きいのは現在ほとんどの馬が体重八〇〇キロ以上で、上下の能力差が接近してきたことによる。

市営競馬協会創立当時の四十三年の積載重量は

甲 六七五K

(47年)

馬場状態とタイムの関係

(表2)

積載重量	レース数	最高最低タイム差	
		最高晴重	最低雨軽
300K	23	2:38.7	1:18.1
390	34	3:26.7	1:18.8
450	16	3:49.3	1:33.6
540	15	4:13.3	1:48.5
最高最低タイム差	—	1:34.6	30.4

(47, 49, 50年)

積載重量の比較

(表3)

区分	47年	区分	49年	減	区分	50年
A	540K	オープン	380K	160K	600万上	400K
B	450	180万下	340	110	300万下	340
C	390	90 "	310	80	200 "	320
DE	300	20 "	280	20	20 "	300
4才	280	4, 5才	260	20	4, 5才	280
3才	260	3才	240	20	3才	240

1着馬と最後着馬のタイム差調 (3才)

(表4)

47年 155レース  
49年 312レース

タイム 年次	30秒以下	1分00以下	1分30秒以下	2分00以下	2分30秒以下	3分00以下	計	1レース 平均タイム
	レース	レース	レース	レース	レース	レース		
47年	28	65	31	17	10	2	78	1:01.4
49年	124	154	26	7	1	—	312	38.2

47年 最高 2:49.9 最低 13.1  
49年 最高 2:41.5 最低 6.5

って各馬の能力はさしたる差はないと判断し、上級下級の差を接近することにした。その場合重いほうに接近させるよりも軽いほうへ接近させるのが妥当と考えた結果、上級の減が大きくなったのである。

さて四十七年と四十九年の成績を比較すると表4及び表5のようになる。

この二つの表は一着馬とドンジリ馬との間隔差タイムを調べたものであるが、三才では四十七年一レース平均一分〇一秒四(全一五五レースのタイム差を合計し、一五五で除したのもの)もはなれていたのに、四十九年では三八秒二となり、(表

4) 四才以上では四十七年一分〇五秒〇に対し、四十九年は二九秒六に短縮している。(表5)

これをもみても軽いほうが接戦混戦となることがわかる。

11 どこまで軽くすればよいか

昨年は六才以上は二八〇キロ、四、五

それまでの木ぞりは一三〇キロ位であったが、四十五年に二四二キロの鉄ぞりに改正したので積載重量は約一〇〇キロを減じて

つまり四十五年までは同量だったのである。その後検討を重ねていくうち、体重による出走区分は人為的な減量をするため馬体重を正確に握らず、馬格から言

才を二六〇キロ、三才二四〇キロまで下げた。ことしは前に戻して六才以上は三〇〇キロ、四、五才を二八〇キロとし、三才はそのままとした。このへんの重量が、積載重量軽量化の限度と見られる。

我々はレース時間にして一分四〇秒（百秒）位が理想でないかと考えた。これは場所によって異なるが旭川の重馬場で、二八〇キロから三〇〇キロ位のところなのである。

一分四〇秒とは普通競馬では、速い馬で一六〇〇米の早さであり、おそい馬で一五五〇米位のタイムと同じである。現在の地方競馬では一、六〇〇米は中長距離となっている。競馬の進行上にもこれ以上のタイムはかけないほうが良い。

私達の考えた一分四〇秒とは一着タイムのことであったが、もしドンジリの馬が一着馬より二〇秒あとにくるとすればそれは二分となる。頭とドンジリの差が二〇秒以内ならばんえいでは混戦レースとなる。現在は最後尾は四〇秒以内に入らなければ差がありすぎることになっている。

ばんえい競走で一番早いタイムが出たのは四十七年岩見沢の雪馬場三七秒四であるが、このタイムは人間にすると小学校四年生位の早さなのだそうである。これでは一寸早すぎるとしても一分を割って、仮りに五〇秒前後できたとしても、それはやはりばんえい競走らしい独特のタイムである。二〇〇米五〇秒、百米換算二五秒である。

(表5) | 着馬と最後着馬のタイム差調 (4才以上)

47年 683レース

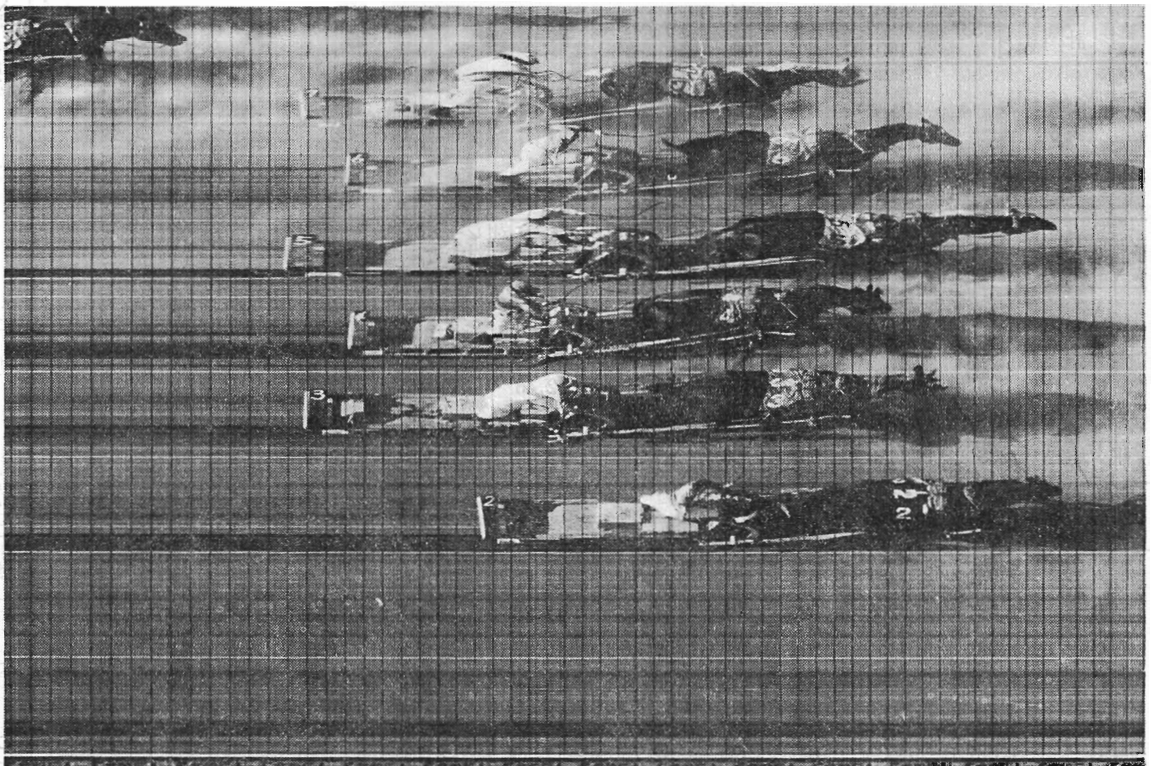
49年 719レース

年次	タイム						計	1レース平均タイム
	30秒以下	1分00以下	1分30秒以下	2分00以下	2分30秒以下	3分00以下		
47年	136	319	163	47	11	7	683	1:05.0
49	442	244	28	4	1	—	719	29.6

47年 最高 2:58.0 最低 4.2  
49年 最高 2:20.4 最低 3.6

早やすぎる。これではまるで競馬だという人もいるが、普通の競馬は二〇〇米十一秒ないし十二秒、人間は二十一秒から二十四秒、やはりばんえいらしい速度ではある。

アメリカにコーターホースの競馬があることは前述したが、これは物凄いスピードでアツという間にレースが終るので



接戦 接戦 北49~5~1~5 対面写真タワーから



あるが、ばんえいも少しスピード観をつける必要があると思う。

12 そこまで軽くして馬券はあたるか

これをふたつの角度から検討してみよう。一つは予想屋さんの勝馬予想成績から、もう一つは的中した馬券が多かったかどうかの点から、

表6は予想屋さんがうまくあてたかどうかを調べた表である。

○ 予想数とは◎○△×のしるしのこと、印の中数とは、しるしをついたもののどれかを組合せると的中している数を示している。

全体的に眺めると、四十七年に比較して重量を軽くした四十九年のほうが中率はいささか悪い。

四十九年新たに参加したEF2社を除いて、ABCD四社だけで比較すると四十七年の二・四〇%に対し四十九年は二・三二%となり、ほとんど同じである。

ただB社だけがだいたい落ちる。次に馬券配当金額についてみると(表7)のようになる。「配当金が少ない」ということは的中が多いわけだが、この兩年の千円以下の低配当レースは四十七年四四・八%に対し四十九年は四六・六一%と、むしろ四十九年の的中数が多かったのである。

このふたつの統計から考えてみると、軽くなった上に第二障害がなくなり騎手

の追い方に戸惑いがあった、予想屋さんも苦しんだのかもしれないし、接戦レースの増加によって、偶然性が多く予想がむずかしかったのかもしれない。

だが配当金からみるとそうではなく、お客さん達は「予想屋さんの予想は単に参考にするだけで、自ら冷静に判断して的中率を高めたのかも」かもしれない。

昔のばんえいを懐しむYさん、ファン者一同さん達は今の競馬は軽すぎるから面白くないとおっしゃる。

もしお説のように一番下を三八〇キロにし、オーブンクラスを七〇〇キロとしたら、馬が引っぱる実際重量は一番下で七八〇キロとなり、上は一〇〇キロ余となる(そり、騎手などの重量を加える)。

ファンの皆様が一番面白くないと思うこと、イヤがること、憎むことは「八百長」ということであろう。今の程度に軽

くすれば接戦が多くなり、どの馬にも勝つチャンスがあり、不正はやりにくくなる。

重い重量の競走はやめるわけではない。各級強豪の決戦である重賞特別競走は重い重量でやり、ばんえいの豪快なレースぶりはいつまでも保存されよう。

今回はご指摘ご批判のあったことを中心課題としてばんえい競馬を語ってみたい。

公式ばんえい競馬は創設以来日なお浅く我々にとっても判っていない点が多い。今後よろしく問題点を指摘いただきたいと思う。

(表7) 馬券配当金額別の中レース調 (47~49)

年度	47年	49年
配当金	的中レース数	的中レース数
500円以下	130レース 15.53%	164レース 15.86%
1,000円 "	245 29.27	318 30.75
1,500円 "	137 16.37	174 16.83
2,000円 "	92 11.00	107 10.35
5,000円 "	182 21.74	200 19.34
10,000円 "	38 4.54	57 5.51
10,000円以上	13 1.55	14 1.35
計	337 100	1,034 100

(表6) 勝馬予想成績調 (47~49)

昭和47年 14回83日 (1日 10.8レース 計 838レース)

予想業者名	予想数	予想数	印的中数	本的中数	レース数に対する印的中率	予想数に対する印的中率	レース数に対する本命中率	予想数に対する本命中率
A	838	4,471	543	90	64.80	12.14	10.74	2.01
B	838	4,601	573	114	68.38	12.44	13.60	2.48
C	838	4,418	549	96	65.51	12.43	11.46	2.17
D	838	4,151	523	125	62.41	12.60	14.92	3.01
平均	838	4,412	547	106	65.27	12.40	12.65	2.40

昭和49年 17回102日 (1日10.1レース 計 1,031レース)

予想業者名	予想数	予想数	印的中数	本的中数	レース数に対する印的中率	予想数に対する印的中率	レース数に対する本命中率	予想数に対する本命中率
A	1,031	5,287	617	110	59.84	11.67	10.67	2.08
B	1,031	5,235	588	68	57.03	11.23	6.60	1.30
C	1,031	5,154	611	157	59.26	11.85	15.23	3.05
D	1,031	5,086	620	145	60.14	12.19	14.06	2.85
E	1,031	5,292	643	130	62.37	12.15	12.61	2.46
F	1,031	5,583	647	90	62.75	11.59	8.73	1.61
平均	1,031	5,273	621	117	60.23	11.78	11.35	2.22

# 大久保さんの死を悼む



とってあるだろうか」と胸をしめつけられる想いで一杯になりました。

人生の無常とは、こんなにも冷酷なものなのでしょうか。日頃温厚で誰からも敬愛されている氏ゆえに一層その感を深くするものであります。

奥様を始めご遺族の皆様のご悲嘆はいかばかりかと、お慰めする言葉もございません。謹んで哀悼の意を表する次第でございます。

大久保さんとの永のお別れを前にして在りし日の想い出を二、三述べさせていただきます。

北国の永い冬も漸く終りを告げ、今まさに春の訪れを迎えようとしている時、大久保さんは再び帰らざる人となりました。

昨年以來闘病生活の中であって、常に笑顔を断やさなかつた氏が、奥様やご家族の皆様の手厚いご看護と主治医の方々の懸命のご尽力にも拘らず、黄泉の途に旅立たれようとは全く想いもよらなかつたことでもあります。

日頃は頑健そのものの氏でありましたから、半年位も静養されれば再び元気なお姿にお会いできるものと信じていただけに、ご逝去の知らせを受けた時は、驚愕の衝撃が先に立って、悲しみの実感が伴わなかつた程でありました。

市立病院のベッドから住み馴れた自宅へお帰りになって、ご自分の部屋で深い眠りにつかれたのを拜見して、氏の死が現実であることを認めざるを得なかつたのであります。そして「こんな悲しいこ

ん、谷地さん、松田さん、宮塚さん、中川さん、戸塚さん等皆さん美人ぞろいで私達の職場は、まるで春の花園のように楽園そのもので、厳しい庶務課長のしごきも仕事の苦しみも忘れさせてくれる程であったことも今は懐かしい想い出となりました。

当時町内会連合会の指導に当っておられた大久保さんは、連合会の書記としておられた菅野四十二さん、堀井長蔵さん、荒川芳信さん、渡辺孝孝さん、東浦源蔵さん、市川七兵衛さん、越智政雄さんの皆さんご年配の方々でありましたが、氏の優しい心配りにどれ程感謝されていたことか、私にとりましても尊い教訓を身をもってご指導いただいた思いで、心から厚くお礼を申し上げます。

昭和二十年八月終戦を迎え、軍隊の解散、海外同胞の引揚げ受け入れ、食糧難対策と目まぐるしい変化の中で、とりわけ食糧確保は八万市民の死活問題であるだけに、市は消費同盟を組織し、食糧対策事務局を設置しました。氏は一日当り五百俵の食糧を確保するため、日夜東奔西走全道くまなく米麦産地を飛び廻ってその重大使命を果されました。

そして市民の食生活を身をもって守り通した立派な功績にも拘らず氏は誰にも誇らしげに話をしたことは只の一度もありませんでした。

「誠実にして謙虚」これは氏が三十三年間一貫して歩まれた吏員道であったと思えます。氏の崇高な人道主義に対し深

甚なる敬意を表する次第であります。

年移り変わって、氏は農政関係のお仕事を担当され二十数年間を旭川市農業の振興に全力をそそがれ、今日の基盤確立に多大の業績を残されました。この間にあって私は昭和四十一年六月農政部長を拝命しましたが、前任者が大先輩の佐藤栄吉さんであり誠見や能力からみて、私など、身のちぢむ思いが致しました。幸いなことに大久保さんは農政部長として佐藤先輩からみっちりご薫陶を受けておられ既に部長職の力量を身につけておられましたので私としては千万人の力を得た想いがいたしたのであります。

ちょうどその年は運悪く冷害凶作に見舞われ、本当に死にものぐるいの毎日でありましたが、氏に激励されながら難局を乗り越えることができました。

特に大久保さんは、競馬事業に関して、ばんば事業の草分けで、競馬の神様として全道はおろか、全国的にも旭川に大久保ありと名声を博しております。

競馬は、一見華やかに思われますが、馬、騎手、馬主、競馬従事者の全般にわたる準備運営は筆舌に尽せない程厳しいものがあります。

しかも競馬ファンからは一点の誤解も許るされないのですが、往々にして極く一部の誤った扇動者のために、トラブルが起こることがありますが、氏は

無暴な群衆によって身体をもみくちゃにされ、時には生命の危険さえ伴うことが幾度か経験されたと言われました。

その話を聞くだけでも身のふるい上る思いがするのには遂に招かざる客と申しますか、そのトラブルに遭遇することになりました。

私は十重 八十重の群衆に囲まれて、単身の私は緊張の極に達しましたが、氏の教訓を思い出しました「相手が無暴な態度に出ても決して腹を立ててはならない。相手の立場になって懇切に話し合うことしか道を開く方法はない」と云うことであります。

数時間にわたる話し合いがつつきましたが、私にはその時間が数十時間にも思われる程の厳しいものでありました。しかし私は氏の教訓を信じ我が身を棄てる気持で話し合いを続けた結果、一人二人そして十人と次々に理解される方が増えついにトラブルを解決することが出来ました。

このことは、今なお私の脳裏に深く焼きついて忘れることが出来ません。

その後農政部長のポストは私から氏に極めてスムーズに引継がれましたが、氏こそ旭川の農政を安心してお任せできる人だと固く信じていたからであります。

氏は人を信じることは出来ても、人を疑うことの出来なかつた方でありますから、あるいは一度は氏を騙すことがあった人でも、氏のような善人を騙したことへの恐ろしさによって、二度と氏を騙すこ

とは出来なくなると思います。

大久保さんが多くの人々から信頼され敬慕されるゆえんはこのことにあると思えます。

一昨年以来旭川競馬場の移転問題解決のため、氏は、新競馬場の建設業務を専任されましたが、内外の諸情勢の極めて厳しい中であって全身全霊を打ち込まれたのであります。その道は険しく困難を極められたと聞きます。

しかし氏の誠実な人柄がこれらの難事業を一步一步解決に導き、新競馬場建設にも漸く明るみを見出した矢先に貴方は完成の喜びを見ることなく、幽明境を異にしようとは、かえすがえすも残念でなりません。

氏は我が郷土旭川をこよなく愛し、氏の生涯のうちの半生を旭川市農政の確立に情熱を燃やし、そして、とりわけ競馬事業には執念ともいえる程その生命を賭けられた尊いご意志は私達同僚が承継していくべき所存でございます。

氏の豊な人間性に接して氏を敬慕する多くの友人同僚が最後のお別れにご霊前に集まっております。

大久保さん、われわれの深い感謝と限りない惜別の悲しみを受けて下さい。

どうか安らかに永久の眠りについて下さい。(故大久保吉蔵氏葬儀における友人代表元農政部長片岡清喜氏の弔辞より)

## 「ペルとブル」の購買記

仏国産重種ベルシユロン及びブルトンの種雄馬購買を担当された、日本馬事協会中村、成田両氏が、馬事協会便りに掲載された購買記を、両氏の了承を得てその要約を掲載させていただきました。

### フランスの馬を訪ねて

成田 正美氏

昭和四十六年度、本会においてベルシユロン種一頭、ブルトン種二頭の種雄馬を仏国から輸入することになり、私がその選定のため渡仏することになった。

まず、出発に当たり種馬選定の条件をいくつか指示され、また、配置予定地の北海道の希望もいくつか聞いたので、それらを私なりに消化して現地に向う心構えができた。いくつかの条件の中で私が最後まで納得できなかった点は青毛のベルシユロンであり、うまく入手できるかどうか、いささか不安であった。

#### ブルトン共進会

八月二十四日羽田発、北廻りでパリに着くと、直ちにユニックのラ・ホントアを訪ねこちらの選定条件やら、馬検場のことなど依頼して大体のスケジュールを作ってもらい、翌朝ブルターニユ地区のモレーに車で向った。

翌二十六日午後二時からサン・テゴネツク市で開催されたブルトンの明け三才雄馬共進会は、ポステエとトレイに分けて審査が行なわれた。ポステエの出場数

は一五頭で、私のイメージのポステエよりはるかに全体のバランスがとれ、上体の発育は素晴らしく、肢細に見えるが、いずれも二五種以上あり、動きはトレイに比べ軽快であった。

さて、目指すトレイ・ブルトンは二四頭、栗毛一五頭、鹿毛四頭、粕毛五頭で、皮肉にも粕毛に良格のものが認められた。上司の指示もあり粕毛は避け、栗毛で白微の少ないものの中から選定することにした。全馬測尺したが、大半は体高一五三〜一五五種で、一五七種以上で体型の整った馬を探すのに苦労した。とび抜けて大きい一頭でも一六一種であり、年々小粒になり、今年は総じて小格であると噂されていた。

審査は、関係者五名程度で、日本のように馬を一巡して審査することはせず、大体定位置で見ている。その代り、牽き馬を真剣な眼ざしで見ている態度から馬の動きに重点がおかれていることがうかがわれた。

個体ごとの牽き馬、全頭一斉の牽き馬、最後に立馬での比較審査らしき光景が見られ、その後間もなく順位が決められた模様であった。

共進会での順位はあくまでも参考にし

て、独自の見解で前述のとおり四頭を候補としたものの、この程度の馬格がフランスにおけるブルトンの代表的なものなのかと、満ち足りぬ気持であった。

#### ランパール種馬所

ここには、七〇余頭のブルトンを主力に、セル・フランセ、サラブレッド等約二〇〇頭が繋養されていた。共進会出陣馬とはちがい全くの名馬ぞろいであったことは、私の期待を満たしてくれて喜しかった。種付は派遣種付で種雄馬一頭当り四〇〇七〇頭の雌に交配しているとのことであった。

#### サン・ロー種馬所

ここは、ベルシユロンが主力で、コブ型ノルマン、セル・フランセ、トロッタ一、軽種と八棟の厩舎に約三〇〇頭が繋養されていた。ベルシユロンに重点をおいて見たが、青毛は一頭だけで、他は芦毛とグレーブラック(黒芦毛)いずれ劣らぬ良馬ぞろいで目を楽しませてくれた。

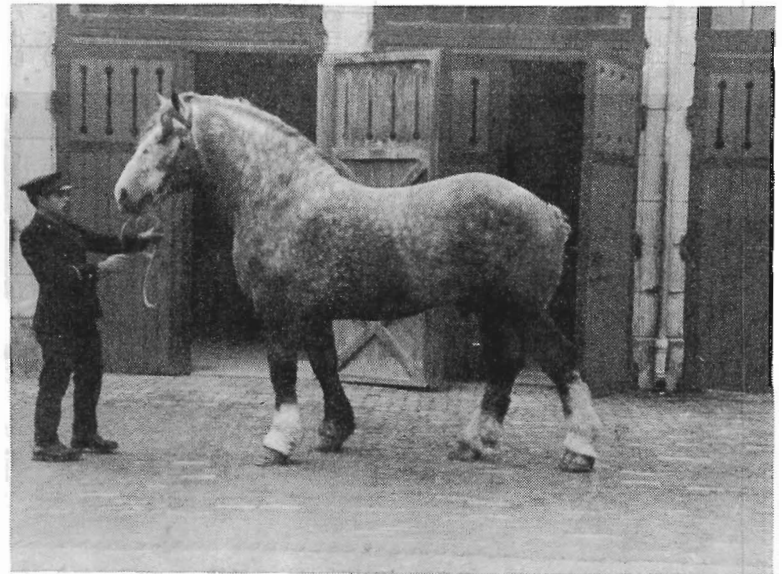
#### ノルマンディ地区

ノルマンディ地区のベルシユロン育成地帯を訪ねて南下、ノージャン・ル・ロトロのチャペル氏宅を訪問した。

青毛の明三才馬七頭のうちから、ダンデー一六八種、二二五種、三〇種とドミヌー一六七種、二一四種、三一種の二頭を候補とした。

ここを辞して、北上し最後の予定地ル・ヌボーにルポー氏宅を訪ねた。

日本では想像もつかない豪壮な邸宅、広い芝生、立派な厩舎、泥臭さなどは微



フェードル号

あり、又青毛にまますのものが見つかったこともありこれを断念し、結局ダンデーを第一候補に、ドミヌを予備馬に選定した。

ブルトンはエヌボン種馬所、ベルシユロンはパン種馬所でそれぞれ衛生検査を実施してもらったが、ブルトンのドリスが採精不能で不合格となったので、ダウ、ドウィユの二頭と、ベルシユロンのダンデーを購入することにした。

以上で購買選定の任務を終り、護送のため来仏して待機していた地全協石川氏に所要事項を引継ぎ、十月上旬マルセイユ港から船輸送することになった。

#### 仏国馬産事情

馬頭数は昭和四十二年は約九十六万頭であったが、昭和四十五年には約七十四万頭に減少している。七十四万頭を大別すると乗用馬一〇万四千頭、農用馬五十七万頭、ラバ、ロバ六万六千頭となっている。

乗用馬の内訳は、サラ系二万四千頭、速歩馬二万七千頭、アラ系六千頭、セル・フランセとその他四万六千頭である。

農用馬は総馬数の七七%を占め、内訳はブルトン三十三万頭、アルデンネ一八万頭、ベルシユロン七万六千頭、コントア一万八千頭、ブロンネ七千頭、コブ型ノルマンとその他五万五千頭である。他の品種は別にして、ブルトンが四十五万頭から三十三万頭に減り、ベルシユロンに至っては二〇万頭から七万頭に減っているが、一方、乗用馬が約二位に増

塵もない。明け三才七頭、いずれも劣らぬ良馬ぞろい。中でも一際目立ったのはドヌーブ、一六七種、二二八種、三〇種であった。しかし惜しいことには七頭全部芦毛系統であったことである。ドヌーブは現状では青勝ちで、血統書によると母馬は青毛なので選定の第一候補にと食指をうごかしたが、一応態度を保留し後日決定することにした。今もって忘れられない良い馬であった。

#### 選定馬

ブルトンについては明け三才、栗毛、体高一五七〜一六〇種、管囲二四種以上ベルシユロンについては明け三才、青毛、体高一六七種以上、管囲二六種以上を一応選定の目安にして、ブルトンはダウ、ドリスの二頭を本命に、ドウィユ、ドラゴンの二頭を予備馬に選定した。

ベルシユロンについては黒芦毛ドヌーブをあきらめきれず再びまわって吟味したが、配置先の青毛に対する強い執着も



加していることに注目すべきである。

フランスでは政府の馬産に対する保護政策と、この国特有の食肉事情にささえられ、総馬数一〇〇万頭を大中に割ることとはないであろうとの見方もあったようであるが、現実には三年間に二三%に当たる二十二万頭が減っている。

今後の見通しについて、ある人は、食肉事情だけでは費用馬の頭数を維持して行くことは困難であり、ベルシユロンは年々大中に減るであろうこと、ブルトンは品種特有の産肉性と早熟性に加えて愛馬思想の普及にささえられ大中に減らぬであろう、と言っている。

### 仏国種雄馬購買記

中村 悟朗氏

昭和四十九年度の費用種雄馬の外国購買は、未経験の重種購買に一抹の不安を感じながら、九月二十一日出発一〇月二十一日帰着でフランスに出張し、無事ベルシユロン種雄馬三頭の購買を果して来た。

#### オルヌ、ロマール地方で

ベルシユロン種の産地、育成地ベルシユ地方は、パリ―西方約一〇〇軒、ノルマンディの東となりオルヌ、ロマール地方をいう。

九月二十四、二十五日の両この地方を巡回して、三十一頭の三才、四才、五才の育成種雄馬を検査した。三十一頭の出場馬中年令区分は三才一八頭、四才一〇

頭、五才三頭であり、毛色は青が僅か三頭で他は全部芦毛であった。事前に過去の購買輸入馬の例や飼内三才馬の測尺を参考として、三才で体高一六〇〜一七〇㎝、胸囲率一三五〜一四〇の範囲の馬を適当と見当をつけて出かけたのだが、この範囲内の馬で体のびがあり、胸の深い肢もとのしっかりしたものを選定することに努めた。

出発前北海道の何人かの生産者、育成家の意見をきくと、できるだけ大きい馬で芦毛にはこだわらぬということが大勢であったが、大きい馬は一七二㎝位あるものは二〜三頭あったが胸囲率一三〇を割るようではただ大きいと言っただけは選定する気になれなかった。青毛の三頭についても満足できるものがなかった次第である。

#### ポラロイド写真測尺結果を参考にして

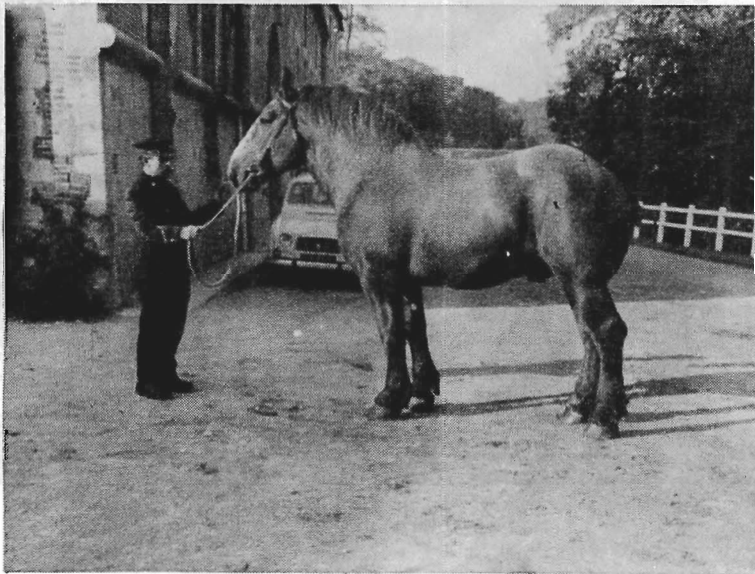
第一次として一一頭を選び、野沢松本課長の情報意見を

(仏人の談話、前年の状況等)をきいて更に五頭にしぼり、これをバン種馬所へ

衛生検査用として送った。

一〇月十四日にバン種馬所に赴き、精液検査結果の説明をきき、一頭を除き四頭合格の旨を承知した。残り四頭は選択に迷ったが、馬が若く体がつまりぎみの一頭を外すこととした。種馬所の固有種馬にはもっと良いものが何頭もいるが、選定した三頭は出場馬中の最良馬を選び得たと信じている。

日本への輸送は、地全協の足立氏に護送員を依頼、日本郵船鎌倉丸で十一月六



号 名 プ ラ ン タ ン ゲイ

日英園サザンブトン港を出航し、パナマ経由で十一月二十九日東京大井埠頭へ到着した。航海中全馬無事で到着し直ちに横浜の動物検査所で検査を受けたが、書類等の事務手続きに若干てまどり十二月二十日十勝からの迎えのトラックに載せてそれぞれ配置先に送った。本年は、前年購買馬が種付に故障を生じたので原因は何処にあるか不明だが、購買前の衛生検査の軽重化の申入れ、血統書その他の証明書の確実入手には特に念を入れた。

#### 購買馬

##### 一、馬名 フェドール

(昭和四十六年三月二十九日生)

配置先 十勝農協連(幕別町)

毛色 芦毛

血統 父ポバン 母アルエット

体高 一七二胸囲二三五管囲三〇

##### 二、馬名 ケブランタン

(昭和四十七年五月二十三日生)

配置先 ホクレン北見支所(網走市)

毛色 芦毛

血統 父カルブラツール母ボモヌ

体高一六九 胸囲二三五 管囲二八

##### 三、馬名 グリフォン

(昭和四十七年四月八日生)

配置先 釧路農協連(弟子屈町)

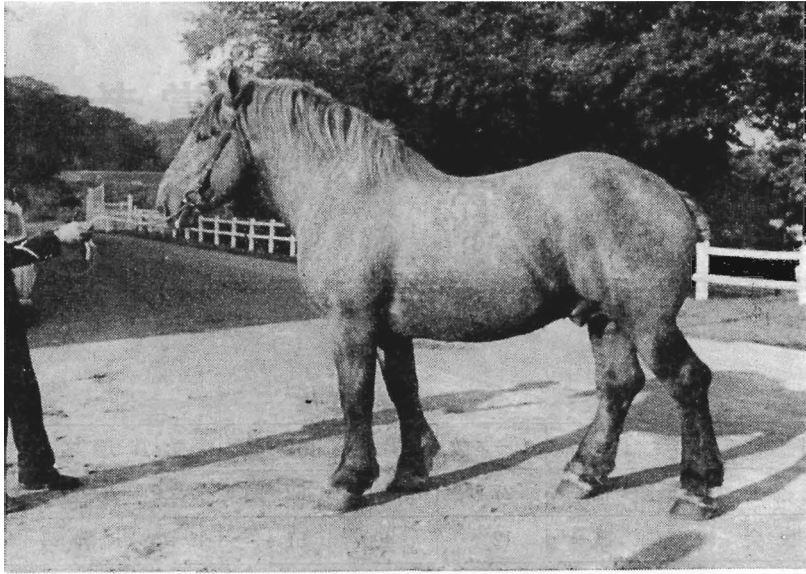
毛色 芦毛

血統 父カルブラツール 母ペラ

トヌヌ

体高 一六六 胸囲二三一 管囲

二九・五



グリフォン号

les syndicats affiliés  
a la F.E.D.E.L.



昭和 49 年

# 祭典(記念)ばん馬受賞者名

(含む申請者名)

申請団体	会長名	レース数	入場人員	出場頭数	受賞馬名	所有者名
足寄町轆曳協会	斎藤 祐一	27	2,000名	62 頭	カツヒロオーザ号	内海 克己
和寒町轆曳会	三原 誠一	12	400	51	ヒヨシマル号	八島 正志
鹿 追 町	町長 佐渡 一男	28	850	58	ヒダカコマ号	川村 学
虻田町馬産改良同志会	理事長 妻木 敏雄	22	1,600	96	ドウヤコマ号	高橋 俊雄
白糠町愛馬同志会	高橋 亀吉	20	500	60	チャンピオン号	篠本 実
上渚滑町馬産振興会	柏尾 直一	18	700	66	コウセイ号	渡辺 京子
板柳町愛馬会	北畠 勇		1,500	145	不 明	中溝建設工業
新十津川町轆曳競技会	渋川 勝石	17	1,000	53	イシマツ号	菊地 勲
置戸町轆馬競技会	栗生 貞夫	—	—	—	—	—
伊達市愛馬倶楽部	三木 博	—	—	—	—	—
佐呂間町畜産振興会	柴 元治	—	—	—	—	—
池田町轆馬愛好会	田中 弘	21	不 明	73	能 月 号	新田 牧場
美深町馬事振興会	南坂 俊雄	23	2,000	75	カナマル号	小島 勲



新十津川町ばんば大会 9月13日



上渚滑町ばんば大会 9月16日 会長賞受賞馬

▶ 創刊5周年特集 ◀

# 公営ばんえい競走のあゆみ

- 24年 旭川、帯広において、道主催ばんえい競馬を各二日間開催
- 28年 旭川、帯広、北見、岩見沢市営ばんえい競馬の発足
- 37年 騎手免許、馬登録の地方競馬全国協会(地全協)移管
- 38年 従来のU字コースから直線コースに改善(旭川)
- 39年 対面着順判定写真の採用(旭川)改正
- 40年 丁級馬能力調教検査実施
- 41年 道営ばんえい競走の中止
- 42年 地全協審判委員の派遣全馬能力調教検査の実施
- 43年 岩見沢競馬場の新設移転、北見競馬場の改増築
- 帯広、北見、岩見沢、直線コースを建設
- 開催六日制の実施
- 北海道市営競馬協議会の設立、札幌市北四条西四、労金ビルに事務所を置く
- 44年 対面着順判定写真の採用、VTRパトローラーの採用
- 競馬場移転新設に着手(北見)
- ガードマンの採用
- 騎手服色、靴の統一
- 出走馬年令を十三才以下に制限
- 既舎自衛委員会の設置
- ばんえい競走制裁基準の作成
- 45年 薬物検査の実施
- 第一回審判研修会の開催
- テンションメーターの使用
- 対面パトローラーを従来の八メートルを十五メートルに改善
- 格付区分の名称をA B C Dと改正(従来、甲乙丙丁A D B)
- 既舎管理責任者制の実施
- ワク別帽色及びゼッケンの採用
- 会報の発刊(ばんえい競走のPR)
- 46年 開催回数十二回七十二日(一回増)
- 鉄製そり、同引木、グラスファイバー製棍棒の採用
- スターティングゲートの設置
- 騎手重量袍の統一
- 調教鉄そりの整備
- 騎手試験秋季に実施
- 地全協リーディングジョッキー賞新設
- 47年 開催回数十四回八十四日(一回増)
- VTR後方パトローラーの増設
- 電光揭示の新設
- 地全協主催騎手講習会の開催
- 馬資源対策の樹立推進
- (一)四才馬レースの新設
- (二)新馬年令制限八才以下
- (三)血統証明制度確立要望
- 48年 開催回数十六回九十六日(一回増)
- 大井競馬場においてばんえいアトラクションを開催
- VTR前方パトローラーの増設
- 能力別(取得賞金別)格付区分に改正
- 既舎馬房調教師割当制の実施
- 既舎管理規則の制定
- 馬資源対策の推進
- (一)新馬年令を七才以下に制限
- (二)古馬五十年以降十才以下に制限を予告
- (三)祭典、ばん馬競走の保存奨励事業の実施
- (四)馬産奨励事業
- ばんえい競走公正化対策の樹立(進)
- 帯広馬券売上高上昇率一八八・四七%全国第一位)
- 舎管理責任者制の廃止
- 49年 開催回数十七回一〇二日(一回増)
- 新設北見、帯広両競馬場の完成
- 新設旭川競馬場整地完了
- 賞金前年比一九〇%の増額
- 帯広、北見、岩見沢第二障害を廃止
- 赤外線水分計による馬場状況湿度表示
- 騎手減量、牝馬減量の実施
- 馬産奨励生産者賞、種雄馬管理賞、授与事業発足
- 農ばん馬血統証明制度確立準備調査実施
- 帯広馬券売上高上昇率一五〇・六%全国第二位



昭和二十二年  
第四回 岩見澤競馬

輓曳競走概定番組

一、場 所 岩見澤市駒ヶ台競馬場  
 一、出場登録申込場所 空知馬匹組合 岩見澤市七ノ西六（電話一四九番）  
 一、同 締 切 十月三十日 午後四時  
 一、馬 体 檢 査 十一月一日 午前九時より正午十二時迄

第一日（十一月二日）日

番	競走種別	競走馬名	性別	年齢	斤量	賞金	負担率	出場所
一前	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	丁組ノハ
一	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	丙組ノハ
二	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	乙組ノロ
三	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	三歳馬ノB
四	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	甲組ノロ
五	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	甲組ノロ
六	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	丁組ノロ
七	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	丙組ノロ
八	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	乙組ノイ
九	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	丁組ノイ
一〇	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	丙組ノイ
一一	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	三歳馬ノA
一二	新古馬	新古馬	牝	三	50.0	1000	100%	甲組ノA

馬連主催時代・公式ばんえいの始まり

旭川近報

トラブル多い旭川ばんえい競馬

間違えば流血の騒ぎ

道側も開催に二の足をふむ  
 旭川ばんえい競馬の開催が、道民の間で大きな反響を呼んでいる。特に、開催の安全性が問題視されている。道側も開催に二の足をふむという声も聞かれる。旭川ばんえい競馬の開催が、道民の間で大きな反響を呼んでいる。特に、開催の安全性が問題視されている。道側も開催に二の足をふむという声も聞かれる。

北海道タイムズ

訴えると騒ぐ

ばんえい審判の着順判定で

ばんえい審判の着順判定で、関係者から訴えが相次いでいる。審判の公正さが問われている。関係者から訴えが相次いでいる。審判の公正さが問われている。

紛争連続5回の旭川ばんえい

北海道馬匹組合連合會地方競馬曳競走實施規程

第一條 本會の開催する地方競馬における曳馬競走（以下曳走といふ）はこの規程によつてこれを實施する。この規程に定めてない事項は總て別に定めた本會地方競馬實施規程に據る。

第二條 曳走は距離百米以上とする。

第三條 曳走は隊列を設けて行うことがある。この場合の隊列の種類は左の通としその數及び程度は開催當時の状況により委員長が適宜これを定めるものとする。

一、溝 巾 三米以上 深サ 三〇厘以上

二、繩路 厚サ 三〇厘以上 巾 三米以上

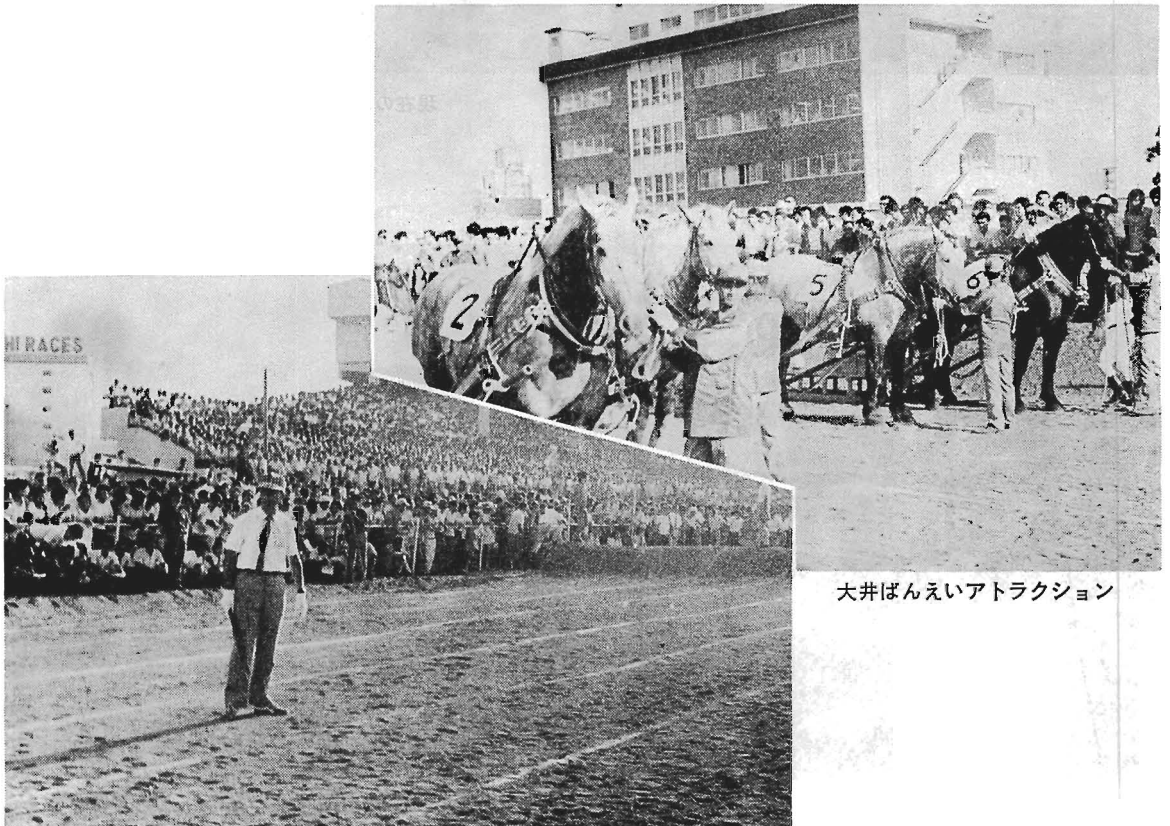
三、壁土 高サ 三〇厘以上 巾 三米以上

第四條 曳走すべき重量は別に定めてある場合を除くの外は左による。

甲組	一四〇貫（五二五斤）
乙組	一二〇貫（四五〇斤）
甲組	二〇〇貫（七五〇斤）
乙組	一八〇貫（六七五斤）
丙組	一六〇貫（六〇〇斤）
丁組	一四〇貫（五二五斤）

前項の重量には馬手及び鞍具の重量は加算しないものとする。

馬連時代の規程



大井ばんえいアトラクション

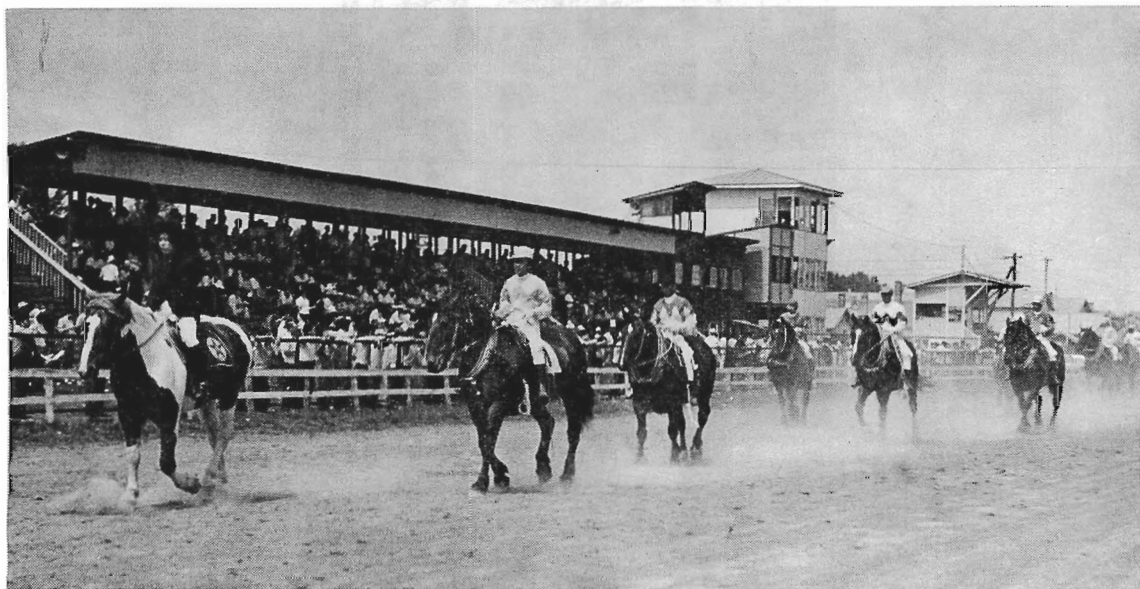
# 旧競馬場紹介

▶ 創刊5周年特集 ◀

旭川競馬場

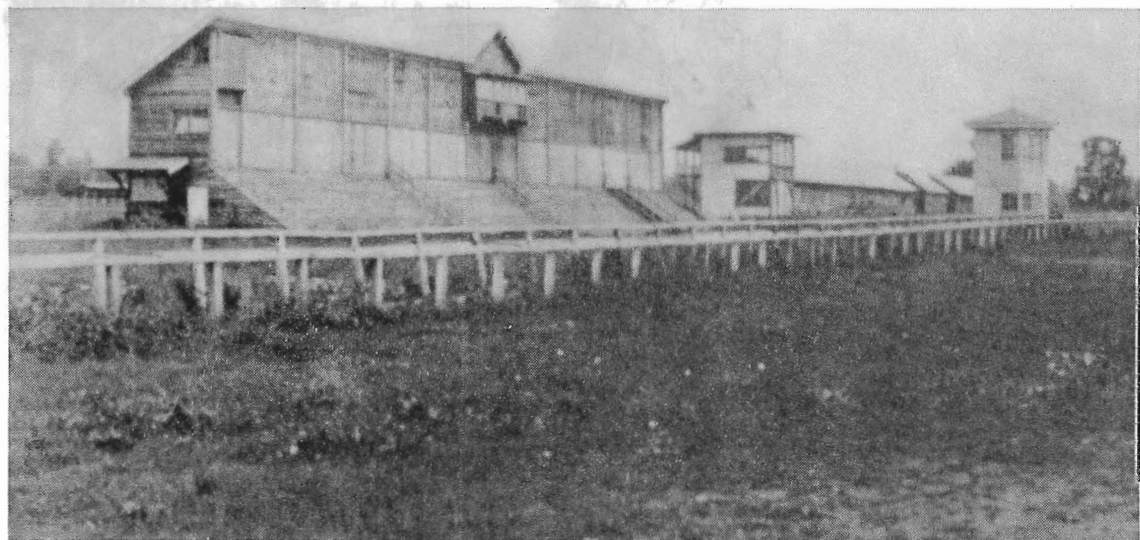
所在地 旭川市花咲町4丁目

所有者 上川生産農協連



現在のスタンド 50年夏をもって姿を消す

昭和38年秋焼失



# 帯 広 競 馬 場

所在地 現在地  
所有者 十勝農協連



スタンド



子供遊び場から払戻所、売店を見る



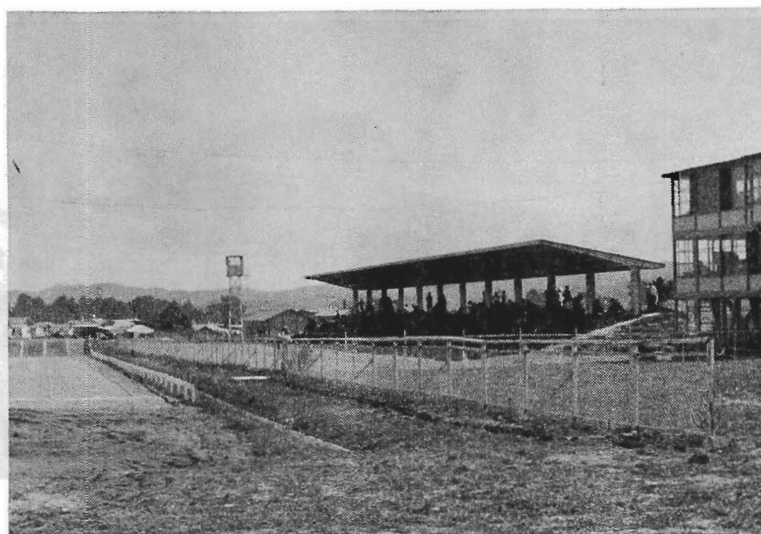
下見所



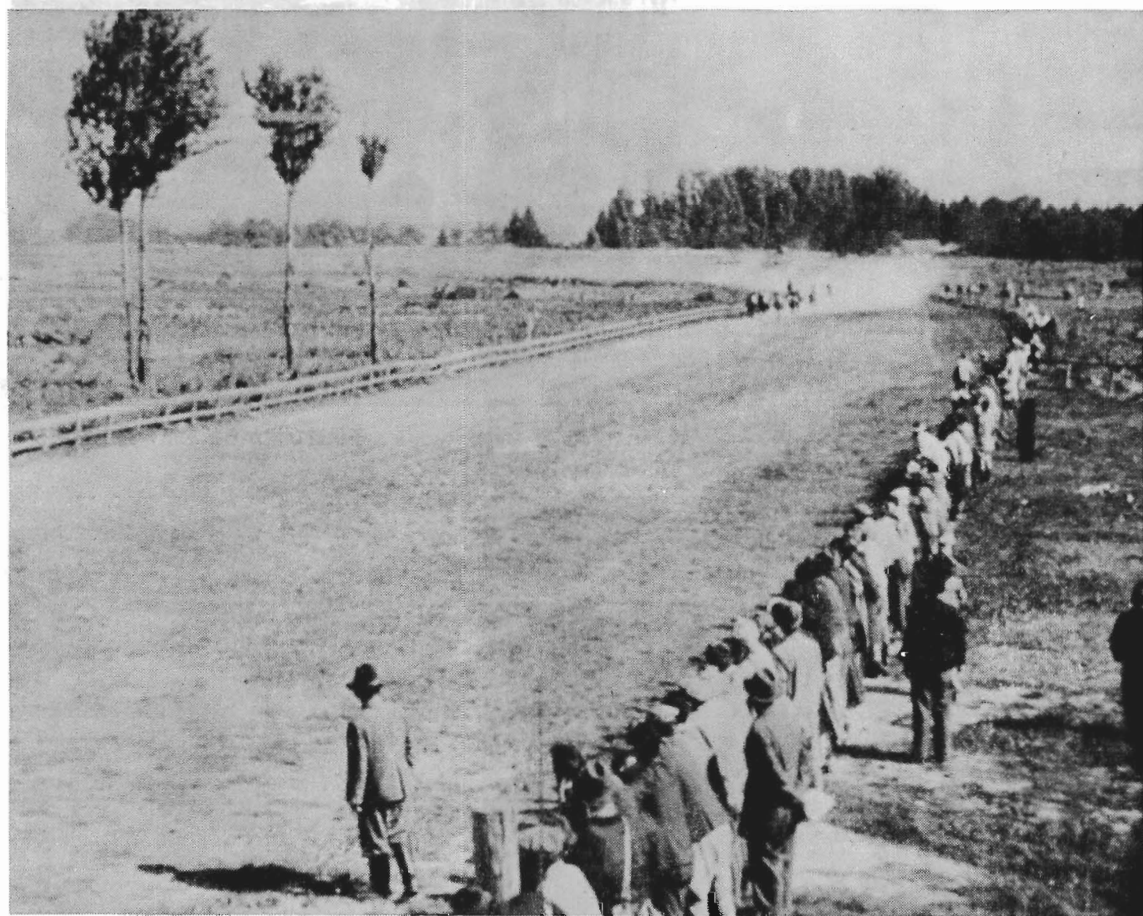
# 北見競馬場

所在地 北見市東陵町

所有者 北見市



スタンドとばんえい走路



ゴールまでの直線走路

# 岩見沢競馬場

所在地 岩見沢市利根別町駒ヶ台

所有者 岩見沢競馬倶楽部及市

昭和40年移転のため廃場



立乗禁止時代のばんえい競走



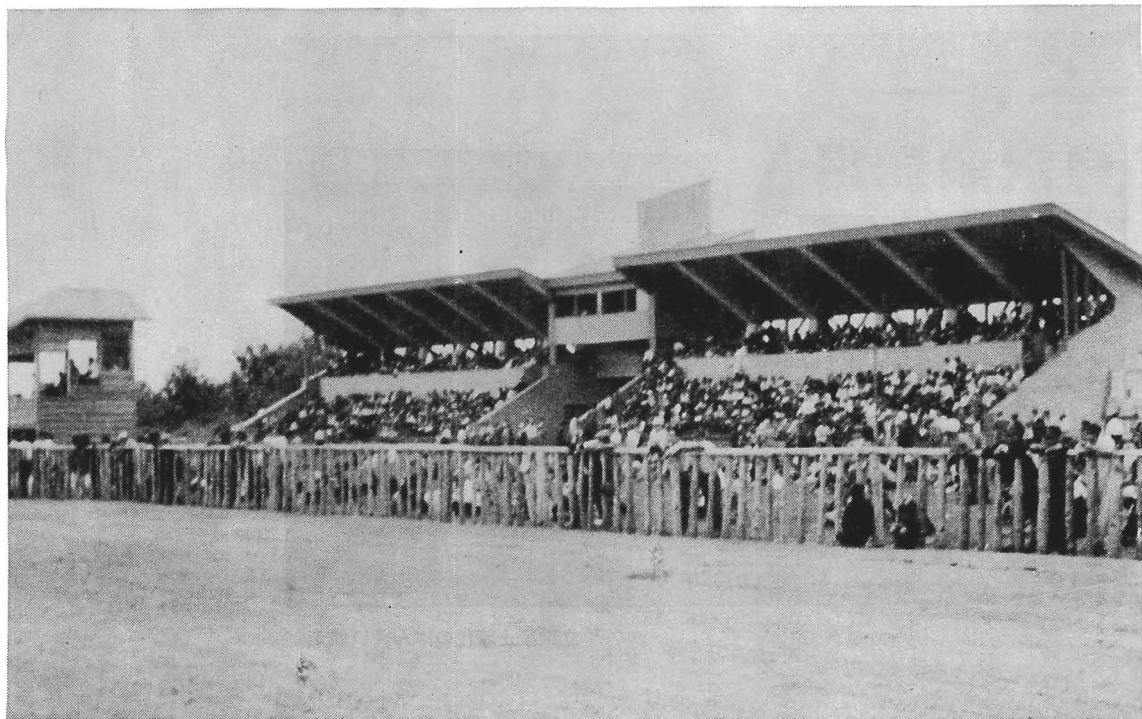
昭和40年現在地に移転，43年平地競馬再開

小樽競馬場

所在地 小樽市大浜町（銭函海岸）

所有者 小樽競馬倶楽部

昭和29年廃止



スタンド正面



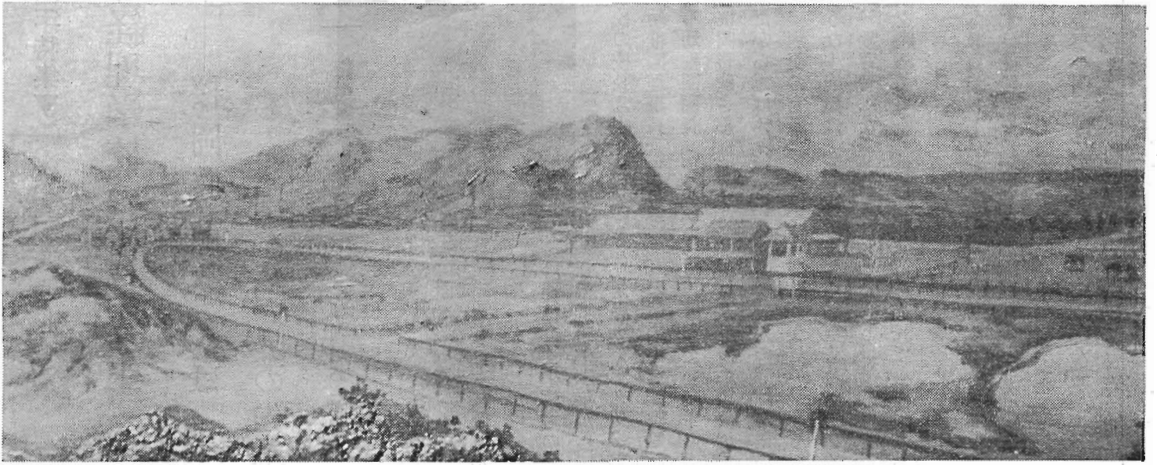
スタンド後面

# 室蘭競馬場

所在地 室蘭市東町19

所有者 室蘭地方競馬後援会所有

昭和30年廃止



海岸側からスタンド、投票場、厩舎などを望む

## 昭和49年引退馬一覧

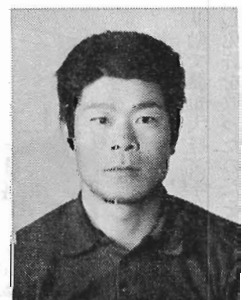
馬名	種類	性	毛色	血統	取得賞金額 (万円)											
					49年	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	合計
シャリイチ	中半	せん	鹿	ブル重半 モダイ桜	118.3	237.5	349.1	294.7	211.3	115.1	147.9	69.0	19.9	—	4.1	1276.9
トーオクオー	中半	おす	鹿	ブル重半 マシーン第一九重	156.1	143.8	78.6	78.1	39.4	44.0	24.5	33.9	43.6	40.6	38.1	720.7
パンツバメ	重半	おす	栗	ブル重系 マジョル国花	194.5	113.8	93.5	121.4	66.5	4.0	25.7	9.4	5.6	9.9	12.0	556.3
ガロン	ブル系	おす	黒鹿	ブル中半 リミエル第1ガロン	6.7	24.4	76.7	65.1	37.4	21.3	30.9	14.1	9.7	13.4	15.7	315.4
チャンピオン	重系	せん	栗	ベル重半 第15エタロン美宝	60.9	44.9	55.3	31.9	17.3	36.7	—	0.9	0.4	—	0.6	248.9

## 昭和49年度リーディングジョッキー



山田勇作

順位	騎手名	騎乗回数	1着	2着	3着	勝率
1	山田勇作	426	90	61	42	0.211
2	片平俊悦	480	61	62	64	0.125
3	木村卓司	404	55	47	68	0.136
4	淵上昭一	258	35	41	30	0.136
5	工藤正男	316	27	31	40	0.085



片平俊悦



# 高等経理学校の校長先生

## 桜岡勝蔵さんは

### ばんえい界の先輩騎手



と評判だった。

しかしかつては厩舎に住み重ばん馬を追いまくったのだから、どこか豪快な一面もある。

そもそも桜岡さんがばんえいの騎手をやったきっかけは、昭和三十五、六年頃運輸会社小柳組の経理をやったことから、三十六年から三十八年までの三年間愛馬カチザクラ、カチヒメと一緒に四市の競馬場を転戦したという。

ばんえい騎手の中には当時家庭の裕福な人が多かったが、桜岡さんもやはりその一人で、ばんえいでは赤字ばかりだったようだが、そんなことは一向に頓着なく、全くスポーツ的たのしみでやっていったらしい。

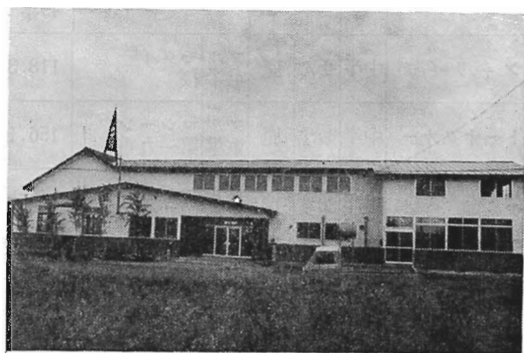
それでも桜岡さんに「何にか当時の思い出を」と質問したら

「そうですね、旭川の雨降り競馬中止事件のときに、宮越氏と共に厩舎側の先頭に立って主催者に対し競馬を開催するようががんでやってねえ、もし中止した場合は一頭につき燕麦三升出せと要求、遂にこれを実現してしまったことかな

あ」といかに面白そうにいう。燕麦三升とはばん馬の大体一食分にあたる。それ位の物は桜岡さんにとっては大したものではなかったと思うが、大勢のためには止むを得なかったことなのであろう。

桜岡さんの父君はアイヌ人に農業指導をやっていた模範農場長だった。当時大正天皇はまだ皇太子で、旭川に来たことがあった。桜岡農場長は身体の弱そうな皇太子にぜひ栄養分の多いトマトを食べさせなければならぬと、遂にその希望を達した。これは有名な話で親に負けない人間にならねばという意地が、今のようにな仕事に結びつけたのだという。

父君が近文で教員であったこと、奥さんがやはり十年余りも教職にあったことなども今の仕事を選ばせた理由の一つで



あすなる幼稚園



園児と共に



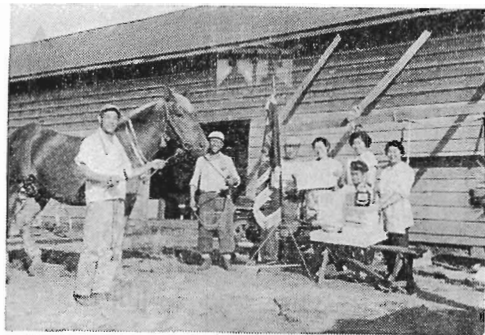
旭川高等経理学校

ある。

ガリ勉で藤短大経済学部を通信教育で卒業し免許を取ったのだそうで、大変な

旭川高等経理学校の校長（生徒数一〇〇名）さくらおか幼稚園理事長（児童数二〇〇名）あすなる幼稚園園長（児童数二四〇名）である桜岡勝蔵さんは元ばんえい騎手だったのだから、ばんえい界の異色人物中の異色、別記の宮腰さんいわせると「私のような土建屋は大した変わりばえませんが、教育者になるというのは全国の競馬人を眺めても全く珍らしい」という。

桜岡さんは風貌も教育者らしいが、また誠実温厚で、さすが経理学の教鞭をとるだけに常に論理は整然としている。今旭川競馬協力会の監事を引受けており、つい先達まで馬主騎手会の監事もやってしたが、これぞ全国一の監事さんだろう



ばんえいに出た頃 優勝記念



さくらおか幼稚園

頭張り屋であり頭も良かったのだと思う、個人の財産を学校に寄附して学校法人を設立した、寄附額は今の価額として二億円を超えるものであったという。

主な役歴

北海道各種学校連合会理事、同旭川副支部長、旭川私学振興会理事、旭川幼

稚園協会副会長、道各種学連旭川私学振興基金協合理事、旭川市幼児教育研究会理事、旭川競馬協力会監事。

▲創刊五周年特集▼

ばんえい競馬馬主会長

宮越正雄さんは

宮越建設KKの社長さん



昭和三十二年名寄の草ばん馬でパンマサツジが優勝したいきおいで、お盆の旭川ばんえい競馬に出場(当時六枠十五頭立)して優勝、五五、〇〇〇円の大穴(五く五)を出した。それまでは長部報一のホウユウが五連勝していた。

翌日の新聞に、その大口馬券を落したというファンが「どうしてくれる」と主催者に抗議している記事が出ていた。

旭川市の市街化が進み農業をやるのがむづかしくなったので、昭和三十三年貸家を三十戸ばかり建て、馬で建築資材

水田三町五反の農家であった宮越さんは「めしより馬が好き」というわけで、愛馬パンマサツジ、カイトクイチ、フジヒカリ、キングタイホウ、ジウオウなどを引つれて旭川から岩見沢、帯広を転戦して歩いた元馬主兼騎手である。

昭和二十九年から三十八年まで十年間ばんえい競馬に歴戦、青年時代からの論客だったことから常にリーダーとして先頭に立っていた。その手腕を買われて昭和四十三年から前任の谷脇光則氏の後継としてばんえい馬主会長に選ばれ今日に到っている。



宮越建設社屋



家の建前風景

等を運搬していたことが、四十一年に個人で宮越建設の許可をとり、四十三年に会社を設立するということになった。

特に建築業をやるうという意志があったわけではなく、いつの間にかこんな仕事をしていただそうで、面白い話である。

主な役歴

ナショナルチェーン店会副会長、東光市民委員会副会長、東光社会福祉協議会副会長、旭川市北部商校PTA副会長、旭川競馬協力会理事。

## 馬と画とばんえい競走

### 履歴書にない私の履歴

道新社会部のN記者から「明日岩見沢で逢いたい」という電話があった。

いつものようなばんえいの取材だと思っ  
て、資料を揃えて待っていると、翌日  
カメラマンのUさんと一緒にやってき  
た、Nさんと話しているうちに、パチパ  
チと十何枚も写真をとられたように思っ  
た。

私はもう三十五、六年も前のある日を

ふと思ひ出した。そのある日、私は当時  
天下第一流の漫画家岡本一平画伯の前に  
坐っていたのだ。

傷病兵として帰還した私は、旭川陸軍  
病院から大磯に転地し、回復の見透しが  
ついたので、横浜の兄の家でなお静養を  
続けていたのだが、歳末助けあい週間  
に、朝日新聞横浜支局は一平画伯の似顔  
絵揮毫会を計画し、一枚二〇円（今の二



万円位か)で希望者を募っていた。私は  
好機到来とばかりなげなしの二十円をは  
たいて申込み、かねて承諾のハガキを受  
取っていた。その日私は兄の家で描いた  
戦線漫画五〇〇枚を持って支局へ出かけ



戦線漫画 500 枚のひとつ

た。  
順番がやってきて一平先生の前へ坐っ  
た。先生は画仙紙に私の似顔を描きつ  
つ、なにかと話しかける。おそらく雑談  
の中で、私の自然の特徴を掴もうとして

おられたのだと思う。

「なんの、ご商売ですか」

「平さんの質問がうまいところへきた、私はすかさず

「実は私は戦地から帰還した傷病兵です。出征前は北海道庁におりましたが、長い間療養生活を送っていると、もう身体も精神的にも役人にかえる自信がありません」私は少さい時から画かきになりたいと思っていたが、家庭の事情上月給取りになってしまった。この機会に漫画家に転向したいと思い、戦線漫画を描いてみたので「あとで見てくれませんか」と頼みこんだ。

画伯は快よく承諾してくれた。応募者全部の似顔絵が終ってから私は、半年がかりで描いた戦線漫画を画伯に見て貰った。その時四、五人の記者とカメラマンが私達をとりまきパチパチと写真をとってしまった。

翌朝の朝日新聞に「岡本一平画伯に教へを乞う漫画家志望の少尉」という見出しで写真入りの記事がのった。

Nさん達の取材はいつもと違っていた「あなたはいつ頃から画を描き始めたのですか」というのが第一問であった。私は吃驚したが、三十五、六年前クロッキー研究所に通ってデッサンを勉強したこと、かけ出しの漫画家として一年半ばかり暮したことなどをお話したが、それが十一月十日の道新連載記事「主役わき役」にのった。



戦線漫画 500 枚の一こま

それに近頃はチョイチョイ画や彫塑の注文があって、その度に私の画歴をきかれる。昨年富良野市東山に建った農耕馬記念碑のレリーフを頼まれたときも「内田というケイバ屋は一体何者？」と聞かれて困ったと、発企人さんが言っていたし、その時発刊された記念誌ののっている私の紹介も真を伝へていない。

そもそも道新にのったきっかけは、私が一昨年来HBC制作部のH副部長さんや、映画のほうのSさん達に頼まれて、「ばんえいハイライト」に一口メモを書いたことからだ。

あんなものでも私にとっては大変な仕事で、描いた画稿は若干の写真を含めて二年間で二八〇枚余、原稿は一〇〇枚余に達した。何にを書くかの構想から、私流の原々稿かき、修正、原稿紙への写しがり、修正、画の下描き、線かき、彩色、仕上げと、一枚の画に、あんなものでも一〜二時間はかかるのである。

開催執務、会議の企画、資料づくり、一般事務などをやりながら、この仕事を遂行していく事は少からぬ負担であった。

特にテレビは一瞬に現われ、一瞬にして消えてしまう。かくも懸命にやってもせいぜい十秒か二十秒で雲散霧消するテレビ漫画の果かなさよ、と嘆息の出ることもあったが、先ず先ず愉快にやり遂げられたのはHBCの人達の私に対する期待と、市や市協の諸氏が私を好遇してくれたこと、「描くことが好き」であることがすべての支えになっていたからだ。

あれだけの限られた紙面に掲載されるのだから、十分にその頃の私を説明していただく事は無理ではあったが、少々誤

りと不足の点があるので、それこそ一世一代の心臓ぶりを發揮して、私のささやかな画歴を誌してみたい。



「一平先生は私の画を見て、「画はもうこれで十分だ。文章をもう少し勉強するように」と言って下さった。

私はすかさず「弟子にして下さい」と頼んだのだが

「もう教へるところないよ、聞きたいことがあったら遠慮なく、ウチへ来なさい」というワケで、それから私は青山南町の先生宅に何回もお邪魔して画を見て頂いた。

それより約二年ほど前、私は陸軍病院を出るとき漫画家志望の計画をたてた。

かつて道庁にいたときの上司齊藤千寿男氏が中心になって、大通りの「いろは」で十人ばかりの先輩同僚が、すき焼をつ

つきながら慰労をかねて、引止めの会を開いて下さったが、私はご好意にそむいて上京してしまった。勿論どうなるかもしれない漫画かきの事などは打ち明けなかった。上京後まだ籍のあった道庁に辞表を送った。当時私はもう三十歳に近かったから、のん気に勉強ばかりもしておられない。大磯の療養を早く切り上げて、戦線漫画五〇〇枚と後方部隊の戦記

を書き綴り、当時父が顧問をしていた郷土の大農場主徳川義親候（候爵、当時貴族院文教委員長）を頼って上京し、それを見せて合格したら、候爵と熊狩りに一緒に来たことのある岡本一平画伯に紹介して貰い、一挙に弟子入りしようという計画をたてたのである。

横浜の兄の家で静養している間に五〇〇枚の画を描き上げた。

さてそれを持って昭和十四年の初夏、目白の徳川邸を訪ねた。ところが候に会見する前に、五味、鈴木さんという二人の家令から、そんな大それた考えはやめろとエラク説教されてしまった。

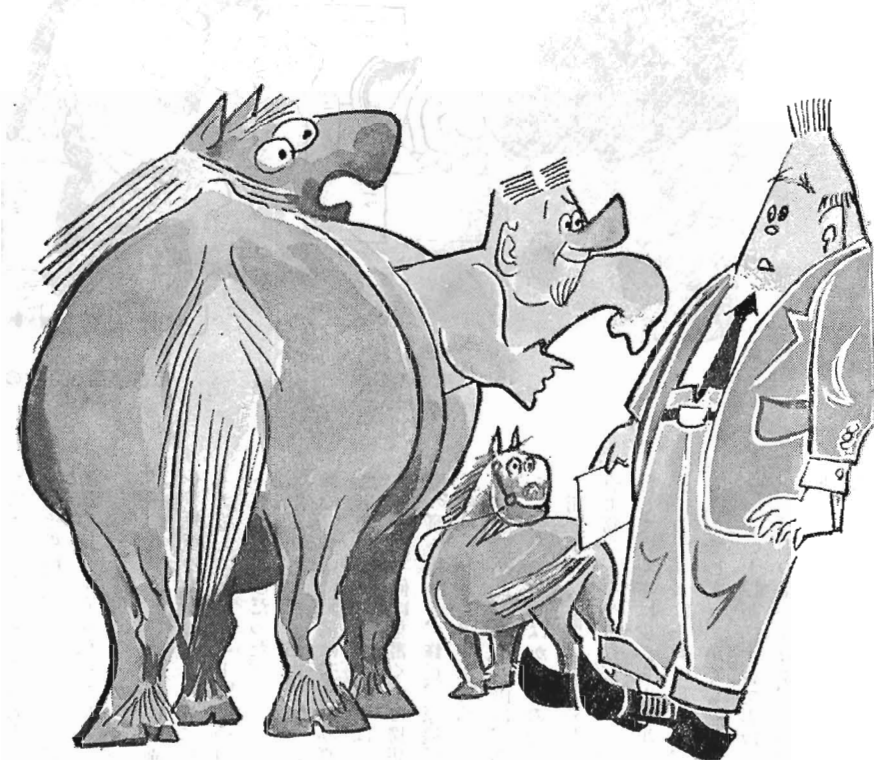
両氏は尾張弁を丸出しにして「画かきなんかはやめヤアセ」と何度も繰り返された。それでも応接室には通してくれたので、当時百万円といわれた豪邸の応接室で待っていると、コツコツと靴の音がして候爵が現われた。私は最敬礼をして来意を告げた。殿様（候爵は終戦後いち早く爵位を返上されたので以下こう書く）は画を興味深そうに見ておられたが「フム、面白い、やってみるといい」と言われた。うまい!! 合格だ、しかし一平画伯には紹介してくれなかった。

「君、苦勞しなけりやいけなさいよ、人頼みじや駄目だぞ」

それでも殿様は、一度専門家にみて貰ったらい、と隣に住んでいた長谷川路可画伯を紹介してやろうと言って下さった。邸内にはコンクリート四階建ての大きな徳川生物学研究所があった。

そこへ殿様は毎日握りめしの弁当を持って通勤されるのだそう。

いわれるままに私は、その研究室で待っていると、主任の所さんという人がやって来て又やめるやめるといふ。おそろくこんな田舎の男にかまっていたら、殿様の将来に大変な迷惑がかかることも



49 ばんえいハイライト (第10回)

馬の腹から生れたようなことをいう人

思い、忠臣振りを発揮したものと思う。所氏は「君の描く人物の目は狂相を帯び

ているよ」と画の批判にまで及んだ。その目は戦後になって漫画界を風びし



49 ばんえいハイライト (第20回)

昔は4日毎に場所が変る旅ガラス



49 ばんえいハイライト (第9回)

戦前の馬産は軍馬が目標だった

た泰三ばりのキョトンとしたあのトボケ目だったのである。

殿様の電話で長谷川画伯は下駄ばきで来て下さった。

画伯の批判は殿様や一平先生と全く同じであった。長谷川路可氏は日本美術院会員の日本画家、特にその画調は洋式で、フレスコ壁画家としても著名、イタリヤの教会に長崎のキリスト殉教者群像を描いたことでも有名、外国生活の多い方であった。画伯は「僕は今ある会社の図書館の壁画を描いている。四、五日たつてからそこえ来てみなさい」といわれた。

今は忘れてしまったが、画伯とはある大きな建物の一室で、モデルを使って高い足場の上で壁画を描いておられた。

画伯はその日、私を内幸町の毎日新聞社に連れて行き、かねて画伯とは面識のある記者に私を紹介し、大いに宣伝をしてくれたものである。

戦記と漫画、飛びつのように記者氏の眼が輝いて、ついて来たカメラマンは何度も私を写真にとった。

翌日毎日新聞三面記事のトップに二段抜きで「漫画に躍る戦線」という見出しで記事がのった。これは全国版だったので声援の手紙が十七通もきた。ここに掲げた扇子はその一つ、今はこれだけ記念に持っている。

しかし二週間ほどたつてから、毎日から電話があったので行ってみると、「画はなかなか面白いが、文章がどう

も……」とすげなく返されてしまった。誠にとりつく島もなし、私は更に計画を樹てなおさなければならなかった。

それから岡本一平画伯との出会いになるのである。私の知った先生方はあまりにも大家で距離がありすぎる、私には画かき友達がいけない、独力でいかにして漫画家になるか。

私は陸軍情報部を訪ねてみることにした。その頃の傷病兵は随分大切にされたものである。

情報部では雑誌報道係主任の鈴木庫吉少佐が快よく逢ってくれた。少佐は画を見て

「これはよい、大いにやってくれ、どこへ紹介してやるか、講談社でいいか」などと忽ち灘波さんという属官にいいつけて講談社のキング編集長に紹介してくれた。

陸軍情報部の紹介というのでキング編集長はすぐ逢ってくれた。

「兎も角見せていただきましょう」とむつかしい顔をして橋本編集長は拙作を見ていたが、結局ゆっくり見せてくれということになり、この漫画戦線記は講談社に預けることになった。これが三年もここに眠ってしまうことになるのである。そのとき既に編集長は「これは駄目だ」と腹の中で考えていたに違いない

「内田さん、ひとつさし画でも描いてみませんか」

勿論私は二つ返事で引受けた。それから四、五日たつて講談社から電話がかか



49 ぼんえいハイライト (第11回)

体重制は減量調整の不合理を生じた

り飛んでいくと、ユーモア作家海老原鶴人作「愛のケーブルカー」という原稿を渡された。

画家の夫婦がいさかいをして別居するが、子供にせがまれて乗った浅草松屋屋上のケーブルカーで再び逢い「より」を

戻すという他愛もないユーモア小説であった。

さし絵二枚、カット一枚、私の漫画家としての第一歩ともいえるべき試練であった。私は浅草の松屋へ行ってスケッチをしてから、描き上げ講談社に届けた。

あとで画稿料七円也が送られてきた。少額とはいえ、それは私の画に始めて商品価値がつけられたものであった。

ユーモア小説「愛のケーブルカー」作海老原鯛人とある横に私の本名がのっていた。本名は困ると思いつながら遂に気に入ったペンネームが見付からなかった。

私はそれから講談社の発行するいろいろな雑誌に漫画を描いた。キング、富士、現代、少年クラブ、少女クラブ、絵本など、少女クラブには「おイヤ様」というのを六カ月連載、続いて「興亜子ち



激励のひとつ (35年前)



講談社の絵本 連載

よく通ったものである。

だが……

そのうちに支那事変は泥沼の長期戦となり、第二次大戦に発展してしまった。

あらゆる物資は涸渇し、雑誌は黒ずんだザラザラした、ワラ半紙を綴ったような薄っぺらいものとなり、三流漫画家の将来はほとんど絶望的なものに思われた。

昭和十六年の秋、私は帝国馬匹協会に就職して、馬事技術員としての昔に帰った。住み家も真砂町にあった清和寮という都立独身アパートに移った。ここに掲げた講談社の封筒は、画稿依頼の最後の封筒で、記念として今迄とっておいたものである。

この寮で私は中外商業新聞社のH記者と知りあい、食堂で一杯のんだとき、三

文画家の話をしたら、エライ興味を持ってしまい、翌日早速カメラマンを連れて協会にやってきた。

H氏は仲間のIH氏、I氏、当時文理大講師だったS氏にこの話をしてくれ、四人で相談の結果、一応その戦線漫画を見せようという事になった。

もう三年も講談社に眠りつづけた私の戦線漫画が再び優秀なジャーナリストの眼にふれることになったのである。私はもうあまり期待してはならないと自分について聞かせつつ、講談社から拙作を受取りHさん達に届けた。

一週間もたつてからHさんからしらせがあった。

「大丈夫!! I記者が引受けた、厚生省の記者室へ行ってくれ」

私はひる休みを利用して厚生省へ飛んで行った。I氏は背の高いいかにも活動的な、敏腕記者のように見えた。

「あれは面白い、いけるよ、昭和書房が引受けた」

私は感激してしまった。頭をベコベコと下げて……

それから昭和書房社主肥田氏、大日本印刷丸山氏との打合せ、五〇〇枚の画用紙に画と共に書いてある文章の再検討、修正、原稿紙への写し書き、画は二〇〇枚程度に圧縮する。

その作業は十一月末から始まった。ひるは馬の仕事、夜は画の仕事、私が今もなお夜の仕事を億劫がらないのは、この頃の習慣が身についたものようである

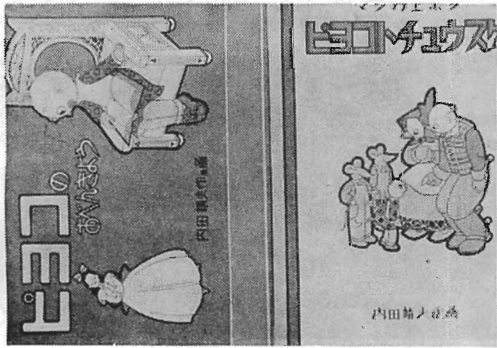




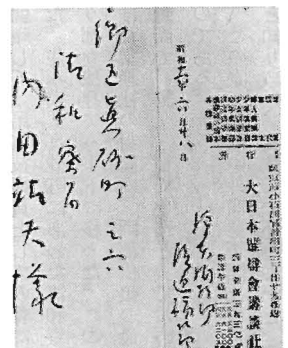
若い頃の思出 講談社の絵本

一月のなかばになると原稿完成の催促があつて、それからだんだん激しくなつた。私は追われて、疲れて風呂場の朱にぶつ倒れてしまったことさえあつた。  
三月の初め原稿三八二枚、画稿一七九枚を書店におさめることができた。  
昭和十七年六月二十日初版三千部が発売された。題名は「馬部隊」全三四二頁 定価貳円であつた。  
間もなく印税四二〇円が送られてきた。私にとってそれは生まれて始めての大金収入だつた。  
四人の恩人達を招いて小料理屋で、さやかな出版記念会をひらいた。二次会へも行ったのだがもうその頃は配給時代で、酒もビールも本数を制限されておつ

た。I氏はホステス達に「この人の将来は大したものだ」と大いに吹聴してくれたものだ。女性達は石川達三さんに似てるなどと私を苦笑させたが、それも今は昔語りである。  
I氏は戦後国会議員になって、もう二度も大臣を務めている。  
この「馬部隊」はその後四版位まで行ったように思う。四人の恩人達の期待に反してそれ以上延びなかつたのは、戦争が無気味に拡大して、ほとんどの戦友はまだ戦地から帰っておらず、早く帰つてきた私があまり戦記物で派手にやるのはどうかと思つたことが、全篇ににじみ込んだことと、やはり一平画伯が指摘したように、私の稚拙な文章に因るものであ



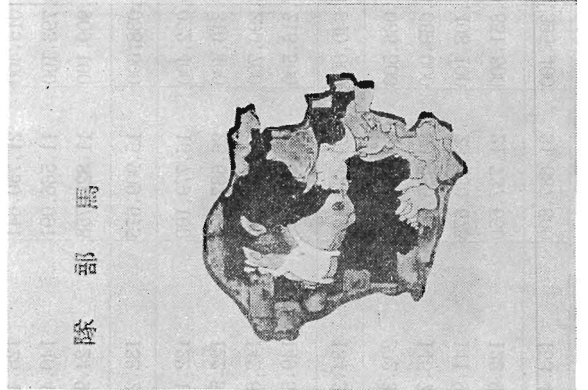
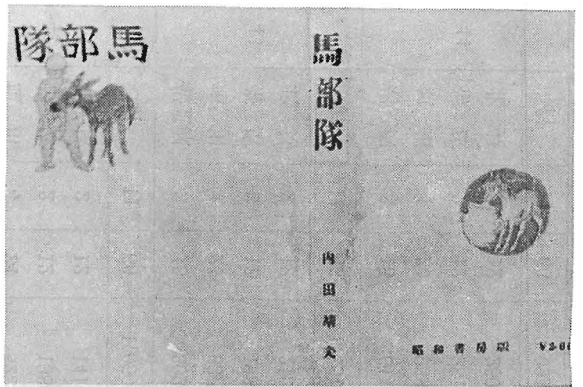
ピヨコものの一部



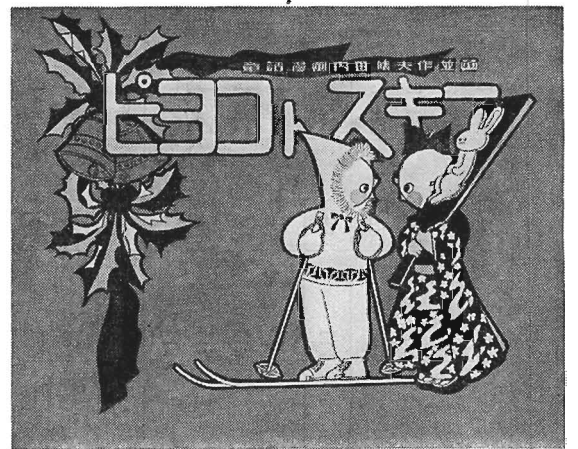
一番最後になった 画稿依頼の手紙

つたと思う。  
昭和二十年の空襲で私は家財を焼きつくしてしまい、終戦の八月十五日連絡船がわりの砲艦に乗って津軽海峡を渡り、郷里北海道に帰ってきた。その後は紙不足のため東京から北海道に支社をおいた雑誌社の漫画を少し描いたことはあるが、昭和二十三年競馬役人として道庁に入つてからは、全く画筆から遠ざか

た。ただポスターの馬の顔があまりにひどいので四年ばかりポスターをかけた事があったが、これはやはり図案なので専門外のものであつた。  
私が再び描き始めたのは、道をやめて協力会に入った昭和四十二年である。  
その前年道営競馬は未曾有の大型不正事件が起きて、懲役刑を受けた騎手十余名、馬主暴力団併せて二十四名の大量処分があつた。私はちょうど役人をやめた気やすさもあつて、漫画を視覚教育に役立たせてみようと考えた。この不詳事をしてかした連中に、いかにコトの重大さを教えこむか、八百長の犯罪性を心に焼きつけることができるか、当時の委員長亀さんも大いに賛成してくれた。  
それは暴力団の誘惑を絵と書きするといふもので、「絵にすると状況がムキ出しで刺激が強すぎる」と忠告してくれた同僚もあつたが敢えてやった。果して大親分から「見せてくれ」といつてきたが、それきり何にもなかつた。  
昭和四十三年、私は今の協議会(市協)に入った。それまでばんえい競走は人まかせばかりで、私にとって、なにも判つていなかつた。  
やつてみると判らないことや、改善すべきことが実に多い。幸いどこの市も満を持していたように次から次へと改善をやつた。  
かつて我々は「ばんえい」は将来廃止すべきではないか、フンの前で馬券を売ってやる競馬として完成することはむ



昭和17年7日刊 上が表紙 下はとびら画



づかしいのではないかと、という疑問を持っていたものだが、それは私の杞憂にすぎなかったようだ。

今もなお「ばんえいはとまるレース」だから危険だと思っている人はかなりたくさんいる。ばんえいを知らない人は実に多いのである。

理解を深めること、次から次へと説明して行く、説明したものが枯れないうちに又次から次へと説いて行く、それが今後のばんえいを発展していくコツとなるだろう。

私の下手な文章を読んで頂きたいためと、多忙な方達に手っとり早く理解して貰うため私は、私のもう一つの履歴、漫

画を利用してみることにした。

ばんえいは馬そのものである。そこには力とスピードの豪快な競走の明け暮れがあり

馬と若者の 馬と婦人の

馬と山の 馬と田畑の 馬と車の

馬と雪の 馬と緑の生活がある

慕進してくる重大ばん馬の迫力

たて髪を振りみだし 起伏をこえてく

る、物凄い躍動美、素晴らしいと私は思う。

(U)



5周年記念特集

最近10ヶ年累年比較

年度	主催者	期数	日数	売得金額	一日平均額	前年売上比率	入場人員 人	一日当 入場人員	出走頭数 隻	一日当 出走頭数	騎手 手数	賞金額	一日平均	一日当 前年比率
40	岩見沢	2	12	88,517,500	7,376,458		11,883	990	1,720	143		3,920,800	326,733	
	旭川	3	18	200,102,400	11,116,800		25,394	1,410	2,514	140		8,053,600	447,422	
	帯広	2	12	84,620,800	7,051,733		14,137	1,178	1,750	146		3,913,800	326,150	
	北見	2	8	62,415,100	7,801,887		6,383	797	1,121	140		2,495,300	311,912	
	計	9	50	435,655,800	8,713,116		57,797	1,155	7,105	142	220人	18,383,500	367,670	
41	岩見沢	3	18	180,321,100	10,017,838		20,579	1,144	2,617	145		6,211,100	345,061	105.6
	旭川	4	24	412,955,300	17,206,470		39,206	1,633	3,373	140		11,719,500	488,312	109.1
	帯広	2	12	98,873,000	8,239,416		11,345	945	1,420	118		4,285,800	357,150	109.5
	北見	2	12	113,601,300	9,466,775		11,639	969	1,702	142		4,302,500	358,542	114.9
	計	11	66	805,750,700	12,208,343		82,787	1,254	9,112	136	206人	26,518,900	401,802	109.2
42	岩見沢	3	18	247,321,000	13,740,055		24,958	1,386	2,372	132		7,466,000	414,777	120.2
	旭川	4	24	522,015,400	21,750,641		42,299	1,762	3,070	128		13,679,000	569,958	116.7
	帯広	2	12	138,793,100	11,566,091		16,912	1,409	1,480	123		5,047,500	420,625	117.7
	北見	2	12	141,909,100	11,825,758		13,140	1,095	1,637	136		4,757,500	396,458	110.5
	計	11	66	1,050,038,600	15,909,675		97,309	1,474	8,559	130	175人	30,950,000	468,939	116.7
43	岩見沢	3	18	302,022,400	16,779,100		25,856	1,436	2,048	114		10,111,500	561,750	135.4
	旭川	4	24	639,310,400	26,637,900		47,563	1,981	2,763	115		18,853,000	785,541	137.8
	帯広	2	12	198,290,700	16,524,200		22,244	1,853	1,357	113		6,422,000	535,166	127.2
	北見	2	12	212,216,500	17,684,700		17,971	1,497	1,376	115		5,895,500	491,291	123.9
	計	11	66	1,351,840,000	20,482,424		113,634	1,722	7,544	114	142人	41,282,000	625,484	133.4
44	岩見沢	3	18	611,066,500	33,948,139		38,500	2,139	1,787	99		14,968,500	831,583	148.0
	旭川	4	24	938,069,000	39,086,208		58,843	2,452	2,359	98		27,447,000	1,143,625	145.6
	帯広	2	12	281,408,100	23,450,675		27,773	2,314	1,182	98		9,973,000	831,083	155.3
	北見	2	12	260,851,800	21,737,650		22,393	1,866	1,197	98		9,880,000	823,333	167.6
	計	11	66	2,091,395,400	31,687,800		147,509	2,234	6,525	98	112人	62,268,500	943,462	150.8

年度	主催者	期数	日数	売 得 金 額	一日平均額	前年 日 当 売上比率	入場人員 人	一日当 入場人員	出走頭数 頭	一日平均	騎 手 数	資 金 額	一日平均	一日当 前年比率
45	岩見沢	3	18	848,061,400	47,114,522	138.7	48,552	2,697	1,567	87	26,827,000	1,490,388	181.0	
	旭川	3	18	906,940,800	50,385,600	128.9	49,500	2,750	1,507	84	30,474,500	1,693,028	148.0	
	帯広	2	12	301,931,600	25,160,967	107.2	27,554	2,296	1,054	88	12,637,000	1,053,083	126.7	
	北見	3	18	426,946,600	23,719,000	109.1	31,221	1,735	1,500	83	18,296,500	1,016,472	123.4	
	計	11	66	2,483,879,800	37,634,542	121.0	156,827	2,370	5,678	86	88,235,000	1,313,243	139.2	
46	岩見沢	4	24	1,209,968,100	50,415,337	107.0	68,460	2,853	2,145	89	50,492,000	2,103,833	141.1	
	旭川	3	18	1,030,617,800	57,256,544	113.6	57,000	3,167	1,536	85	41,531,000	2,307,277	136.3	
	帯広	2	12	488,016,100	40,668,008	161.6	35,320	2,943	1,035	86	13,181,000	1,098,416	104.3	
	北見	3	18	643,961,600	35,775,644	150.8	35,124	2,927	1,505	84	19,184,500	1,065,805	104.8	
	計	12	72	3,372,563,600	46,841,161	133.3	195,904	2,972	6,221	86	124,388,500	1,727,618	131.5	
47	岩見沢	4	24	1,844,434,100	76,871,146	152.4	79,032	3,293	2,104	88	56,239,000	2,343,291	111.3	
	旭川	3	18	1,372,882,800	76,344,300	133.3	69,150	3,842	1,640	91	44,919,000	2,495,500	108.2	
	帯広	3	18	923,020,300	51,380,806	126.3	55,880	3,104	1,483	82	27,688,000	1,538,222	140.0	
	北見	4	23	1,128,264,000	49,062,326	137.1	48,949	2,128	1,948	85	35,125,000	1,527,173	143.2	
	計	14	83	5,268,601,200	63,477,123	137.3	253,011	3,048	7,175	86	163,971,000	1,975,554	114.4	
48	岩見沢	4	24	3,247,456,300	135,243,388	175.9	105,115	4,380	2,066	86	80,129,000	3,338,708	142.4	
	旭川	4	24	2,479,555,300	103,314,804	135.3	93,100	3,879	2,167	90	73,863,000	3,077,625	123.3	
	帯広	4	24	2,324,097,900	96,837,413	188.4	72,000	3,000	2,051	85	48,777,000	2,032,375	132.1	
	北見	4	24	2,022,058,400	84,252,433	171.7	61,461	2,561	2,093	87	52,774,000	2,198,916	143.9	
	計	16	96	10,071,552,900	104,912,009	167.8	331,677	3,454	8,377	87	255,543,000	2,661,906	134.7	
49	岩見沢	4	24	3,875,523,700	161,480,154	119.3	104,539	4,356	2,071	86	148,505,000	6,187,083	185.3	
	旭川	4	24	3,675,103,000	153,129,292	148.2	118,703	4,946	2,163	90	115,840,000	4,826,666	156.8	
	帯広	4	24	3,499,310,000	143,804,583	148.5	110,250	4,594	2,022	84	108,865,000	4,511,041	205.1	
	北見	5	30	3,498,770,300	116,625,677	138.4	103,627	3,454	2,495	83	111,826,000	3,727,533	169.5	
	計	17	102	14,548,707,000	142,634,382	139.8	437,119	4,285	8,751	86	485,036,000	4,755,254	178.6	



公営発足以来5年毎の成績

区分	年度	開催 日数	発売総額	1日平均	前年度対する上昇率（5年毎）		人場人員	1日平均
					発売総額	1日平均		
北海道 地方競馬	24	90	134,065,800	1,489,620	284.07%	78.90%	83,893	932
	30	70	235,403,800	3,362,911	175.58	225.75	70,397	1,005
	35	82	584,933,100	7,133,330	248.48	211.11	109,811	1,339
	40	98	1,760,261,800	17,961,855	300.93	251.80	181,664	1,853
	45	96	7,650,577,500	79,693,515	434.62	443.68	436,527	4,547
	49	91	20,172,817,600	221,679,314	263.67	278.16	664,933	7,306
(市)								
岩 見 沢	28	6	10,292,800	1,715,466	%	%	4,856	809
	30	3	4,991,300	1,663,766	48.49	96.98	2,605	868
	35	6	13,634,100	2,722,350	273.16	136.58	4,508	751
	40	12	88,517,500	7,376,458	629.23	324.61	11,883	990
	45	18	848,061,400	47,114,522	958.07	638.71	48,552	2,697
	49	24	3,875,523,700	161,480,154	456.98	342.73	104,539	4,355
旭 川	28	7	19,289,000	2,755,571	%	%	10,656	1,522
	30	6	21,713,100	3,618,850	112.56	131.32	8,600	1,433
	35	10	54,239,700	5,423,970	249.80	149.88	14,240	1,420
	40	18	200,102,400	11,116,800	368.92	204.95	25,394	1,410
	45	18	906,940,800	50,385,600	453.23	454.23	49,500	2,750
	49	24	3,675,103,000	153,129,291	405.21	303.91	118,703	4,945
帯 広	28	9	19,095,600	2,121,733	%	%	6,734	748
	30	11	18,577,400	1,688,854	97.28	79.59	8,627	784
	35	12	41,668,200	3,472,350	224.29	205.60	9,798	816
	40	12	84,620,800	7,051,733	203.08	203.08	14,137	1,178
	45	12	301,931,600	25,160,966	356.80	356.80	27,554	2,296
	49	24	3,499,310,000	145,804,583	1,158.97	579.48	110,250	4,593
北 見	28	7	13,976,200	1,996,600	%	%	3,482	497
	30	2	5,008,500	2,504,250	35.83	125.42	2,225	1,112
	35	6	20,600,700	3,433,450	411.31	137.10	3,961	660
	40	8	62,415,100	7,801,887	302.97	227.23	6,383	797
	45	18	426,946,000	23,719,222	684.04	304.01	31,221	1,734
	49	30	3,498,770,300	116,625,676	819.48	491.69	103,627	3,454

# 既舎実態調査について

## 北海道ばんえい競馬調騎会

### 一、調査の目的

ばんえい競馬の既舎実態は独特の性格を帯びているのでこの実態を把握し更に社会保障に於ても非常に立遅れた形態を辿っているのをこれを解明し近代化への足掛りにするため行なった。

### 二、調査期日

昭和四十九年八月十日現在

### 三、調査の項目

調教師毎に馬頭数、厩務員は專業、家族、馬主別に開催期間中と冬期間に分け調査した。

更に失業保険（調教師、馬主を除く）

労災保険加入希望の有無に付調査した。

### 四、調査の方法

調教師毎に既舎実態調査表用紙を配付し所要事項を記入提出せしめた。

### 五、調査結果

ア、八月十日現在の状況であるためその後異動あるなど必ずしも実態に沿わない点も見受けられるがこれは調教師よりの申告を主体としており精密な再調査を行なっていないので他の調査記録と一致しない点も見受けられるがこれは整理を省略した事で理解してほしい。

イ、厩舎間に於ける專業厩務員の異動が意外に多い。これは調教師が厩務員を

代へるのか厩務員が調教師から離れて行くのか不明である。

ウ、馬主厩務員は賞金諸手当を収入源として夫婦で厩舎内に生活する者が多いがこれも專業厩務員と同様調教師間の異動が割と多い。

エ、このように異動が多いのは雇用形態が確立されていない所に原因がある。少くとも文書による契約、長期継続契約に切替えるなどの方策が必要であり関連して社会保障の立遅れが目立っているの

でこれらは今後の大きな課題であらう。

### 既舎実態調査集計表（調教師毎）

昭和四十九年八月十日現在

- 一、調教師 六六人
- 二、所属專業騎手 一六人
- 三、開催期間馬頭数 五一九頭
- 四、冬期間調教師繫養頭数 三八九頭
- 五、冬期間馬稼働頭数
  - 木材搬出 二二頭
  - 客土 一三頭
  - 計 三五頭
- 六、專業厩務員の数 三七人
- 七、專業厩務員及び專業騎手を雇用する調教師 二九人
- 八、前記の内失保労災加入希望調教師 二四人

九、前記の内失保労災加入希望厩務員及び專業騎手 四二人

十、冬期間雇用專業厩務員 一六人

十一、家族厩務員の数 四六人

十二、前記の内馬主兼厩務員の数二七人

十三、前記の内労災加入希望 一七人

十四、馬主（馬主家族を含む）厩務員の数 六九人

十五、前記の中労災加入希望者 二四人

十六、馬主厩務員は全馬馬主賞金諸手当を以て給与としている

十七、家族厩務員は賞金計算は行なっていない

十八、專業厩務員の給与調

月額給与

開催期間

冬期間

五万円（食事付） 四人 四人

六万円 一人 一人

七万円 四人 二人

八万円 四人 四人

九万円 十二人 三人

十万円 十一万円 五人 二人

十二万円 十三万円 二人 二人

十四万円 十五万円 六人 十六人

計 三十七人 六十六人

# 地方競馬実施規程の改正方向

## 昭和五十一年度から施行予定

地方競馬をとりまく諸情勢の変化に伴い、現行の規程例の条項のみでは不十分の面が多いことから、その内容の強化充実を図るため、昭和五十年年度中に改正、五十一年度施行を目的として、大中に規程例を改正すべく、農林省は検討中であるが、その基本的な考え方のアウトラインを説明すると、

規程例改正の基本方向は

現行の規程例を条例と規則の各規定に分離し、条例は極力簡素化して基本的条例のみの六条程度にとどめ、他は規則において規定し、その充実を図ることとする

るのが基本的構想のようである。

主な改正点は

一、藥物検査の規定化

現行規程例には、藥物検査とその関連事項が明確に規定されていないが、今回の改正重点事項の一つとして、規定化されることになる。

(一) 委員長の指定した馬について、藥物検査を実施することが規定上明確化される。

従って、検体採取所への引付け、繫留、検体の採取、調教師の立会等について、所要事項が規定化されることに

なる。

(二) 薬物検査陽性馬に対する措置として

- 1 馬は期間を定めて出走を停止する
- 2 調教師、厩務員は戒告以上の処分を受ける。

3 馬主、調教師、騎手及び厩務員は、その陽性になった競走の賞金、賞品、賞状及び手当までも返還することになる。

4 もし返還しない場合は、その返還があるまでその馬主の所有する全部の馬について出走を停止され、又調教師、騎手及び厩務員は処分を受けることになる。

二、厩舎関係者の公正確保上の責務

(一) 調教師の責務として

- 1 所属騎手、厩務員に対する一般の監督義務
- 2 管理馬を出走させるときの臨場の義務

- 3 名儀を他人に貸すことの禁止
- 4 名儀馬と預託契約をすることの禁止

5 預託契約の届出の義務等が明確に規定されることになる。

(二) 騎手等の兼業の禁止として

騎手又は厩務員は、いかなる名儀をもつてするかを問わず、馬主から馬の預託を受けてはならないことになる。

(三) 厩務員の雇用については

調教師は、主催者の定める「厩務員設定要綱」に基づく認定を受けた厩務員でなければ、馬の飼養管理を補助さ

せてはならない旨が規定される。

(四) 報告の義務として

厩舎関係者が、不正協定の申込、競走の公正を害する目的をもって暴行、脅迫を受け、又は財物その他の利益の提供又はその申込を受けた場合は、委員長に対する報告の義務が規定化される。

又、競走馬に危害を加えられたり、不正な処置をされた場合も同様に報告しなければならぬことになる。

以上これら公正確保上の責務に違反した場合は、厩舎関係者に対しそれぞれ制裁措置がとられることになる。

三、賞金等を受けとることができない場合の規定化

馬主、調教師、騎手及び厩務員は、次の場合、賞金、賞品、賞状及び手当を受けることができなくなる。

(一) 興奮剤等を使用した馬を出走させたとき

(二) 薬物検査陽性のとき

(三) 全能力を発揮させなかったとき

(四) 不正協定があったとき

この場合、前記一の(二)薬物検査陽性馬に対する措置の項で説明したと同様な措置がとられることになる。

## 農ばん馬主産地における馬産事情

### 1. 馬頭数と生産の推移

#### (1) 北見管内

年次	馬頭数	繁殖雌馬数	種付頭数	繁殖率	生産頭数	種雄馬数	1頭当り種付頭数
45	11,468	7,357	2,223	30.2%	1,637	36	61.7
46	8,925	5,665	1,274	22.4	1,164	26	49.0
47	7,038	4,485	1,221	27.2	656	16	76.3
48	5,837	3,328	1,312	66.1	687	14	93.0
49	5,650	3,035	1,417	47.0	636	14	101.0

#### (2) 十勝管内

45	15,682	12,836	6,317	49.0	5,273	87	73.0
46	11,013	8,902	4,367	49.0	3,559	60	73.0
47	7,977	6,573	3,344	51.0	2,256	44	76.0
48	6,614	4,805	3,077	58.7	1,806	43	71.0
49	5,665	4,560	3,057	66.5	1,819	45	67.9

## (3) 釧路管内

年次	馬頭数	繁殖種雌馬数	種付頭数	繁殖率	生産頭数	種雄馬数	1頭当り種付頭数
45	4,671	4,121	1,438	34.8%		37	38.8
46	3,744	3,244	925	28.5		25	37.0
47	2,741	2,341	839	35.8		23	36.5
48	2,050	1,700	980	57.6		29	34.0
49	2,040	1,690	1,108	65.5		31	35.7

## 2. 市場成績

## (1) 北見管内

年次	売買頭数	最高	最低	平均価格
45	776	150,000	10,000	34,347
46	409	150,000	21,000	55,423
47	172	300,000	50,000	113,334
48	184	563,000	75,000	204,130
49	149	521,000	32,000	159,107

## (2) 十勝管内

年次	売買頭数	最高	最低	平均価格
45	527	670,000	25,000	103,752
46	489	633,000	47,000	143,094
47	466	1,000,000	92,000	213,682
48	454	1,360,000	151,000	331,047
49	435	2,000,000	81,000	326,643

## 3. 共進会市場成績

## (1) 北見管内

年次	売買頭数	最高	最低	平均価格
45	20	600,000	81,000	250,750
46	28	610,000	161,000	285,500
47	31	950,000	235,000	382,387
48	27	1,810,000	360,000	606,296
49	46	3,500,000	150,000	645,652

## (2) 十勝管内

年次	売買頭数	最高	最低	平均価格
45	15	620,000	146,000	329,267
46	19	600,000	211,000	336,000
47	17	1,000,000	260,000	509,412
48	29	1,300,000	336,000	596,380
49	7	1,250,000	710,000	1,005,710



# ばんえいファンの実態

## ダイジェスト版

昭和四十九年七月六、七日の二日間岩見沢競馬場において、地方競馬全国協会が日本リサーチセンターに委託し「岩見沢競馬場ファンの実態調査」を実施したが、その報告書に基づきばんえいファンの実態の概要についてのべることにする。

### 一、各種公営競技の選好と利用状況

競輪等他種競技を好まないファンが九五%以上であり、従って公営競技としては競馬だけを見る者が圧倒的に多い。

競馬だけにしほってみると、岩見沢のばんえいファンは、中央競馬より道営競馬、道営競馬よりばんえいを好むという傾向がはっきりみられている。

しかし、九七%は道営競馬に行き、又六〇%は中央競馬又は中央場外に行くファンであり、岩見沢競馬場を利用する場合についての調査では「ばんえい中心」と答えた者が三五・二%「平地中心」が二一・八%「ばんえいと平地同じくらい」が二八・四%であり、「平地中心」のファンがかなり見られていることが注目されるので、今後如何にして平地中心のファンをばんえい中心に引きつけるかが問題である。

女性の来場者については、六三%が

「ばんえいだけ」又は「ばんえい中心」と高い比率であったことも特筆されよう。

### 二、馬券購入の実態

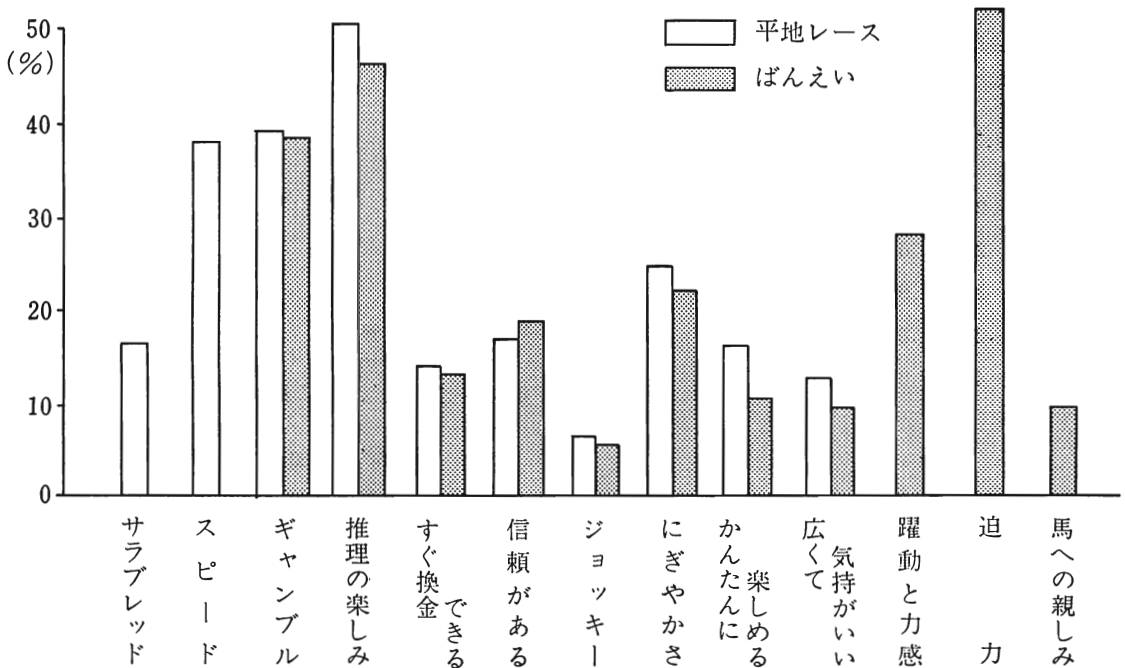
平均購入レース数は一日およそ七・五レースで、大方のファンはメインレースを中心として各自のペースによって堅実な購入態度が見られ、年令が高い程本命買又は好きな馬を買う率が高く、若い程その反対の傾向が見られる。

馬券購入の参考情報としては、競馬専門新聞による(五〇%)過去の成績、調教タイム等の理論的情報を駆使し、科学的な推理作業に熱中しながら勝馬を決めるファンが多い。

しかし、平地競馬に比較し、下見所の「ひき馬」を参考にするファンが少い(平地二三%、ばんえい五・五%)のも特色で、ばんえいは「スピード」より「力」を競うレースであり、「力」そのものは日によってそう大きく変わるものではないからであるとも考えられる。

購入資金としては、一日一万〜二万円程度(五〇%)で抑えており、予定どおりの金額以内で(四九%)一日を楽しむ安定した健全な方向にあることが推察できる。

ばんえいと平地レースの魅力の比較



三、競馬の魅力

競馬に対するファンの魅力は、多種多様な内容をもっており、このような特殊性が幅広い階層の人達を競馬ファンとして引つける原因と考えられる。

(一) 競馬の魅力は大別すると、「ギャンブル的魅力」と「レクリエーション的魅力」の二つにしばることができる。

岩見沢ファンの場合は「ギャンブル的魅力」が四五・四％と五〇％を下廻り、本州他競馬場と比較した場合（最低大井五一・四％最高上山六三・六％）大きな相違点があり、北海道ファンの特色とも考えられる。

「ばんえい」の場合は四一・七％とさらに低い率にあるが、これは公営競技の中でギャンブル的要素の低い健全娯楽につながる面があると推察できる。その理由の一つとして、北海道は日本第一の馬産地であり、馬になじみの深いことから馬に対する魅力が強く、従って相対的に「ギャンブル魅力」が低くでていると考えられる。

(二) 競馬は「推理する楽しみ」の要素が大きく、岩見沢の平地レースについては、第一位（四七・七％）にランクされている。

（ばんえい）も同様「推理する楽しみ」は高率（四二・三％）であるが、それ以上に「大障害通過のときの迫力」が第一位（五二・七％）にランクされているのもばんえい最大の特色であり当然のことであろう。

「平地」の場合、これに相当する「スピード感」は第三位（三七・六％）であることに比較すればかなり高い値である。

(三) 「ばんえい」と「平地」の魅力を比較すれば、

- (平地)
- 1位 推理の楽しみ 四七・七％
  - 2位 ギャンブル魅力 三八・八％
  - 3位 スピード感 三七・六％
  - 4位 競走馬魅力 二七・〇％
  - 5位 簡単に楽しめる 二三・六％
- (ばんえい)
- 1位 大障害通過の迫力 五二・七％
  - 2位 推理の楽しみ 四二・三％
  - 3位 ギャンブル魅力 三八・二％
  - 4位 筋肉の躍動と力感 三〇・五％
  - 5位 簡単に楽しめる 二〇・三％

となつては、1位、4位共に「競走馬魅力」に包含されるので「競走馬魅力」は平地に比較し格段の差があることは注目されることである。

たしかに一部には、スピード感の欠如がもの足りないとする平地ファンもいるが、ばんえいの見どころは「緊迫感」「豪快な力の爆裂」といった「力感」により多くのウェイトがかけられることになり、平地よりはレクリエーション魅力が高いことが明瞭に表われている。

(四) ばんえいの魅力を「ギャンブル的魅力」「競走馬の魅力」「情緒的魅力」と三つに分けて平地と比較してみると

ばんえいと平地レースの魅力比較

ばんえいの場合

ギャンブル魅力 40%	競走馬魅力 36%	情緒的魅力 24%
推理の楽しみ ギャンブルの楽しみ すぐ換金できる等	迫力 躍動と力感 等	広くて気持ち がよい・に ぎやか等

平地レースの場合

ギャンブル魅力 45%	競走馬魅力 27%	情緒的魅力 28%
推理の楽しみ ギャンブルの楽しみ すぐ換金できる等	サラブレッドの魅力 スピード感等	広くて気持ち がよい・に ぎやか等

ばんえいでは「ギャンブル魅力」は四〇％で平地より五％低くなつていますが「競走馬魅力」の方は三六％になり平地より九％も高くなつています。

(五) ばんえいの見どころ

- 1位 大障害にかかると直前にたどる緊迫感 二六・四％
- 2位 大障害登坂時の豪快な力の爆裂 二六・四％

3位 力とそれが生みだす  
スピードの調和 二三・二％

4位 ばん馬の堂々たる体軀と  
筋肉の躍動 二二・八％

5位 騎手と馬との間のダイナミックな気合の交換 一八・三％

等にランクされるが、ばんえいの魅力は、これによれば「大障害」というものに集約されており、かつそれが最大の魅力になっているようだ。

3、4位をしめている「力強い馬」に対する魅力も大きく、又平地にはみられない「騎手と馬の気合の交換」も特色のあるものである。

四、競馬ファン化の状況と現況

近年になり、とくに競馬の大衆化が顕著にみられる。新しい世代のファンの増加、日常会話の話題として競馬がとりあげられ、そして競馬場にはグループで来場することなどがそれを示している。

(一) 岩見沢競馬場ファンの八〇％は昭和四〇年以降のいわゆる「競馬ブーム期」の新しいファンであり、ホワイトカラー層の増加が目立ち、特に競馬歴が五年に満たない昭和四十六年以降のファンが約五〇％にもなるが、近年ばんえいが盛んになったことも、それは新しいファンが誕生することによって実現したものであることを考えるならば、この調査からも証明できる。

(二) 四人の内三人までがグループで来場し、岩見沢の特色としては「家族ずれ」が多いこと、又ばんえいは女性に

とって興味のある競走のせい、一七%も家族ずれで来場しているなどがあげられている。なお若い人ほどグループで来場し、年令が高くなるほど家族と競馬を楽しんでいるようだ。

#### 五、レジャー生活と競馬利用の動向

(一) 競馬ファンは競馬場以外にも多様な余暇を楽しんでおり、まさに余暇時代における現代人の典型であり、「余暇時間があればもっと積極的に競馬場へ」と考えている人が岩見沢ファンの四八%もいることは、今後とも来場回数が増加していくだろうという可能性を暗示しているといえよう。

(二) 競馬を楽しむ上での障害は「行き帰りが大変」とするもの三二%「自由時間がない」二五%とこの二つが大きな障害となっているが、交通面での解決がつけば今後週休二日制などの導入による自由時間の増加に伴い、ファン増加潜在力は、まだ根強いものがあるといえよう。

六、ばんえいに対するファンの意見  
ファンの要望は多いが、レース運営面についてのべると、

(一) レース運営に関するもの  
「シーズンをもっと永くする」「発売時間のくり上げ」「出走時間のおくれの解消」「多頭数レースの励行」「賞金引上げ」「全レースの前売り制」などが見られる。

(二) ばんえいレースに関する意見  
ばんえいは面白いとしながらも、「も

っと時間のかかる」「スピードよりも力感に重点をおいたレースを」という声が多い。主なものを例記すると、「もっと力が入るような2〜3分以上かかるレース」「荷物が軽すぎる」「馬を休ませないように」「障害をもっときつく」という意見であるが、「このようなくさいレースはいつまでも残してほしい」という意見は多い。「もっと若い騎手」との意見もある。

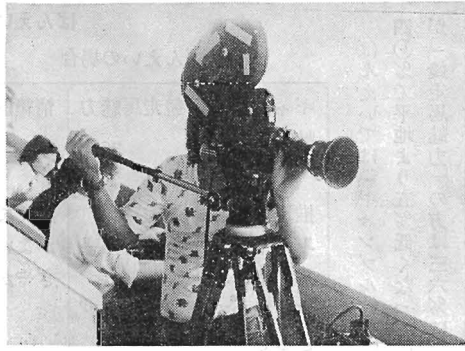
#### (三) 運営の公正に関する意見

ばんえいの性格上、しかたのない面もあるが、公正さに対する意見も多し。「いつみても八百長くさい」といった極端なものもあり「もっと真剣さが必要だ」としている。そしてときには「障害によるかけひきや、ファンの心証を害するような競走意識が不足している例」があると述べている。

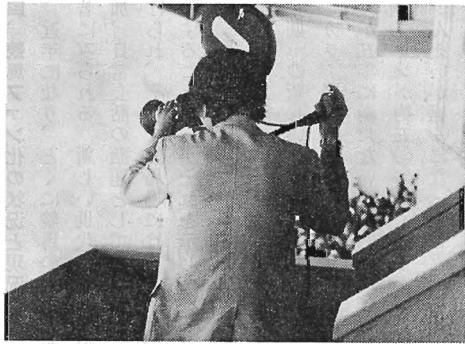
#### 七、結びに

以上、実態調査結果の概要について、ダイジェスト的にのべたが、北海道で最初のしかも「ばんえい」を対象としたところにこの調査の意義があり、「平地」との比較対象も行なわれており、今後「ばんえい」の飛躍的発展のための運営上の参考資料として大いに活用したいものである。

マスコミに取上げられたばんえい  
報道の目は東に西に



撮影風景



撮影風景

昨年の本誌編輯後記をみると、「この会報はばんえい競馬の意義と、競走の方法と、その歴史と改善の「道のり」を専門家にも素人にもわかりやすく、理解して頂くために創刊された。その理解がどこまで届いたか「マスコミに取上げられたばんえいを尺度として、創刊以来掲載してきたが四十八年の報道は多すぎて、いささか詳細すぎた感じ」とある。

ところが四十九年もマスコミが取上げてくれたばんえいは、前年にも劣らぬほどに多かった。

ここに紹介するのは筆者が見たり、きいたりしたものだけであるが、それでも前年を上回るほどだ。

1 HBCテレビ  
「ばんえいハイライト」  
前年に引きつづきスポンサーの道北振興KKは、放送時間を五分間延長して土曜日の午後十一時十五分から十五分間、五月十一日から十一月十六日まで二十八回にわたって、前週のメインレースの実況、翌日の予告、出走馬の紹介、ばんえい一口メモなどを集録して放送した。五月十一日の第一回は柴田アナウンサーと

本会事務局長の対談も入れ、一年のレース展望などを話し合った。

本会はこの資料提供を担当したが、この機会にばんえいの開催意義、独特の競走方法、改善の歴史などを紹介し、ばんえい競走の正しい理解につとめた。

視聴率は昨年三・一%を上回り、平均四・〇%、これは同時刻頃放送される競馬ダイジェスト二・〇%を大きく引き離している。なお最高の日は六・八%であった。

## 2 六月二十七日 NHKテレビ 北海道七時半「ばんえい競馬」

道新ラテ版記事から

### 「ばん馬人生ひと筋」

ばんえい競走は北海道独特のもの、サラブレットのレースのように華やかさはないが、重量感溢れる重ばん馬の競走はローカル色と、一種の素朴さがある。六月十五日の岩見沢ばんえい競走の一日を、ばんえいに人生を托した老騎手、野々宮さんを中心に中継録画で描く。

このテレビ放送は六月十五、十六、十七の三日間第一回岩見沢競馬で取材、ファンの声や、本会の事務局長と田中アナウンサーの対談なども入れ、ばんえい競走の解説を行った。

初めとあとに幕進する重ばん馬の鼻息を入れた調教風景が描かれている。物凄く迫力!! 三十分

## 3 十月二十六日 HTBテレビ

「ばんえい競馬中継」生放送

道新ラテ版の記事から



6月27日の新聞

「第三回岩見沢競馬第二日目の全公賞を中心の新馬戦、五、六、七、八、九レースをナマとVTRで中継する。さらにばんえいの発達史、普通の競馬とは違った馬券作戦、翌日行なわれる岩見沢記念の予想などをおくる」

放送はホースニュース社の前田量平、小寺雄司、本会事務局長の三人。

HTBからの依頼で本会事務局長はばんえいと普通競馬との相違点、機械と馬力、産業界馬生産との関係などを、自漫画で放送したが、放送の大部分は前田、小寺両君と原田アナの対談で占め、この放送はかなり専門的な面からの解説で、ばんえいをたのしむ人には好適な番組であった。 一時間

## 4 十一月八日 STVテレビ

「11PM」ばんえい競走

すっかりばんえい競馬の年中行事のよ



11PM 撮影風景



11PM 撮影風景

うになったSTVの11PMはことしで四年目、お馴染みの藤本義一、マリアンヌ嬢が司会する。

出演者はプロレスラー、サンダー杉山、漫才の高松しげお、装蹄師四十年のベテラン中野政夫、馬の生産者本田明二、中川敏先生、それにデンマークとノルウェーの美人が二人、歌は芹洋子という面々、11PM杯は第四回岩見沢競馬第三日十一月八日第九レース六才オープンで行なわれた。出走馬はタカラホープ、ダイニメイホウザン、ボンジー、トーオクオー、アラナミ、シゲノハラ、ミサイルキング、タカラ、ヤマトフジの九頭であったが、優勝は金山明彦騎手騎乗のヤマトフジ、11P杯の栄冠を獲得、前記出演のスター連とファンに囲まれて、万場の拍手を受けながらマリアンヌ嬢から授与された。いつも主催者側に代読して貰っていた賞状を、ことしは藤本さん自ら読んで授与した。

## 5 十一月九日 HTBテレビ

「ばんえい競馬中継」第二回目

前回と同じくナマとVTRで中継放送する。十月二十六日同社放送したものの第二弾である。

この日は早来町の橋本牧場に輸入されたアメリカカベルジャン、クライズデル種雌馬と、牧場風景の録画から始まる。

午前打合せ、午後二時からリハール、本番は三時半から一時間、この日行なわれた白雪賞のナマ放送を中心に、原田アナが開き役で、ホースニュース社の





今日はHTBロケ隊 (岩見沢)

前田、小寺両氏が、その日の第五レース以後のレース状況を説明、本会事務局長は前記橋本牧場のアメリカカベルジャン種を中心に、欧州系在来ベルシユロンとブルトンと対決する将来についての展望を述べた。

翌十日はHBCハイライト最終回の録画とがあり、この回の岩見沢はまるでテレビ週間のよう。連日テレビロケ隊が大挙して来場し、本拠に提供した会議室には大火事のように、入り乱れて地面に並ぶホースのように、何本ものケーブル電線が廊下を這い回っていた。

6 北海タイムス 競馬特集

競馬特輯「ばんえい」一週間掲載

北海タイムスは九月十一日から一週間、毎回四分の一頁の紙面を充当して特集「競馬」を連載したが、そのうち第四部として「ばんえい」を取上げた。



北海タイムス特集1週間

と、  
第一回からの写真と見出しを紹介する

(1) 九月十一日

東京っ子肝っ腑す  
世界一の道産競馬  
巨象ウマ  
大井競馬で顔見せ  
開拓の歴史と共に  
素朴な土の香り  
馬の種類

(写真) ゴールに驍進

(2) 九月十二日

軽く百億円を突破  
馬券の売上げ急上昇  
爆発的なブーム  
めざましい帯広

明朗な運営が使命  
日本一の高成長

ばんえいと競馬法

(写真) 自転車マイカーがビッシリ

(3) 九月十三日

魅力は一発がきく  
どの馬にも勝つチャンス  
奥深い面白さ  
予想は当たりにくい  
コースの状態が左右  
常時荒れムード  
馬場状態

(写真) 一発大穴にひかれるファン

(4) 九月十四日

勝負に哀歎の四〇年  
妻には気の毒と老調教師  
渡り鳥人生  
愛馬にひかれて

草ばん馬への郷愁  
家族ぐるみの移動  
夫妻でブランかけ

ばんえい走路

(写真) 愛馬の世話をする木村さん

(5) 九月十五日

カシの木も折れた  
シゴキの緩和に苦心  
残酷ムード  
農林省からおしかり

動物愛護団体が抗議  
平地レースより乗  
ねじり鉢巻

(写真) デットヒートで残酷感が出る

ようだが

(6) 九月十六日

最終障害へ息入れ



カメラは西に東に

八百長など至難のわざ  
真のダイゴ味  
4秒から9秒  
なぜ止まる  
VTRも備える  
ばんえい騎手

(写真) 最後の障害前で息入れ

(7) 九月十七日

小回りきく機械力  
物不足時代の役割は重い  
特異な存在を誇る  
46年に10万頭割る  
血統証明制度を実施  
馬産振興の旗手  
過保護時代を脱皮  
着順判定

(写真) パドックで見守る観衆、ばんえいは産業用振興に重要な役割をになっている。

北海道七時半「北見ばんえい」

工費十二億円をかけた新装の北見競馬場を背景に、北見競馬の今昔を語り、ばんえい独特の憂快なレースで画面は展開していく。

ばんえいは力と技の闘争か、平地にはみられない迫力がある。

画面はばんえいの歴史を追う。昨年まで東陵町にあった競馬場は運動公園となり、市民の憩いの場所として生れ変わる意義は大きい。

ホクレンの堀内氏と市の坂井さんとアウンサーが北見競馬を語る。北見は本道第二の馬産地であるから、馬の話、馬産振興の話となる。次いで片平騎手が登壇、競走方法の移り変わり、馬の追い方、厩舎生活などが話題となる。

ふたたび激しいレースの場面となる。歓声の中に女性ファンの黄色い声が入り乱れる。

「やった やった やったようッ」

馬券が当たったのか、飛上って喜ぶ二、三人のご婦人がうつる。

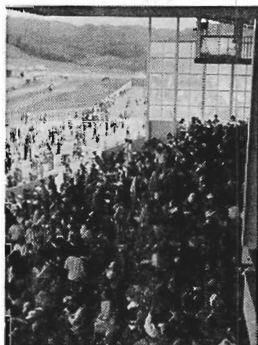
アナ「どこが面白いですか」

女性ファンA「一発の魅力だね障害のところまでナンボ早くきても、力のある馬がガンとあがるそこが魅力ね」

女性ファンB「馬が好きなんもんでね」

女性ファンC「とにかく凄いいッしょう

面白いね、どうせお祭りなんかで金使うならここへ来て見るほうがいい、運があればあたるもん」



北見スタンドの観衆

幕進する馬のひびき、騎手のかけ声、田園と馬のいななきを表現するかのような音楽の旋律、口笛……三十分

8 道新連載「主役わき役」に板東陶光師

旭川の名工板東陶光さんは十五、六年程前、市の依頼で陶製馬像を制作されたことがあるが、一昨年は祭典ばん馬優勝馬に本会から贈与する副賞の重ばん馬頭部レリーフを制作していただいた。

道新連載記事「主役わき役」は同市旭岡に工芸村を造ろうとする構想に燃える陶光氏の情熱と芸術を紹介している。

9 四月二十五日

名作「テレビドラマ」の余いん条々

道新四月二十五日のラジオテレビ版記事によれば「四十八年の文化庁主催芸術祭で優秀賞を獲得した。HBCドラマ「ばんえい」は、風景や動物の「撮影」を通じて心象表現を深めた演出が光っていたとして、同放送制作部員守谷寿男氏に期間選奨が贈られたと報じている。

これは放送批評懇談会（会長高瀬広居理事長）がその年に放送されたテレビ番組及び制作に関係した会社、個人に贈ら



板東陶光さん

れるもので、本年は第十一回ギャラクシー賞と第二十八回期間選奨作品を各五件ずつ選んだものである。

本道からは期間選奨にHBCの「ばんえい」、ギャラクシー賞にSTVの「海は見えない」の各一篇が入賞している。

10 四月三十日 日刊スポーツ

春早々、ばんえいシーズン入りを前に「ばんえい競馬の人気爆発的」の大見出しで報道

昨年度のばんえいは売上げ、入場者とも爆発的な人気、むしろ一般の競馬より面白いという人さえいるほど、こんな人気の波はことしも続きそう。道内のファンはその開幕を待っている。とスケジュール、前年成績、改正された競走方法、人気馬などを報道している。

日刊スポーツはことし旭川岩見沢のばんえい記事を掲載、各回毎にメインレースの出場馬などを紹介した。

11 五月二十六日 HBCパック

表紙カラー版に駒ヶ岳の秀峰を背景に

森町ばん馬競走を大きく掲載。パチのようなそりにコンタリート七本を積んでその上に人が乗る。中折帽をか



テレビ選奨受賞のばんえい

ぶった取者の格好も面白いが、その追込みポーズと重腕鹿毛馬は凄いい力だ。「手綱が鳴る、蹄が大地を噛む、ソリがきしむ、サラブレッドが流麗なスケート競技なら、ベルシユロン、ブルトンの軌曳は、力感溢れる大相撲だ。

開拓の歴史が生んだエゾの草競馬は、たくましくひたむきな道産子の風貌に酷似して妙である」HBCパックから。

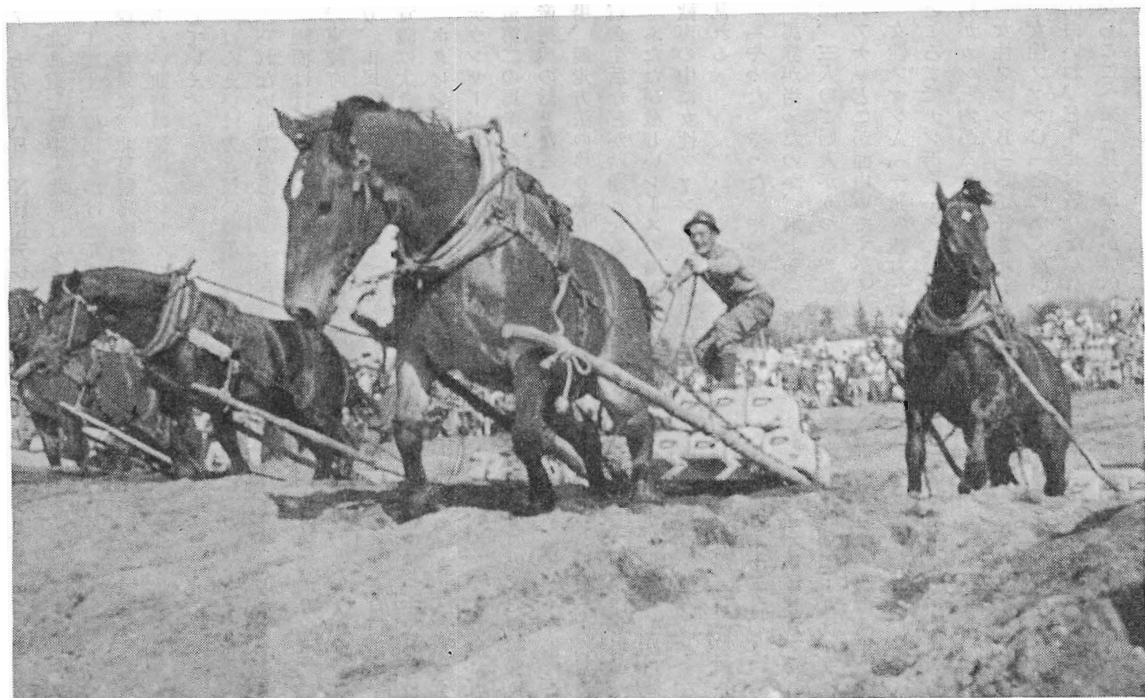
12 二月十七日 道新

「岩見沢ばんえい競馬売上げ軽く二億円」

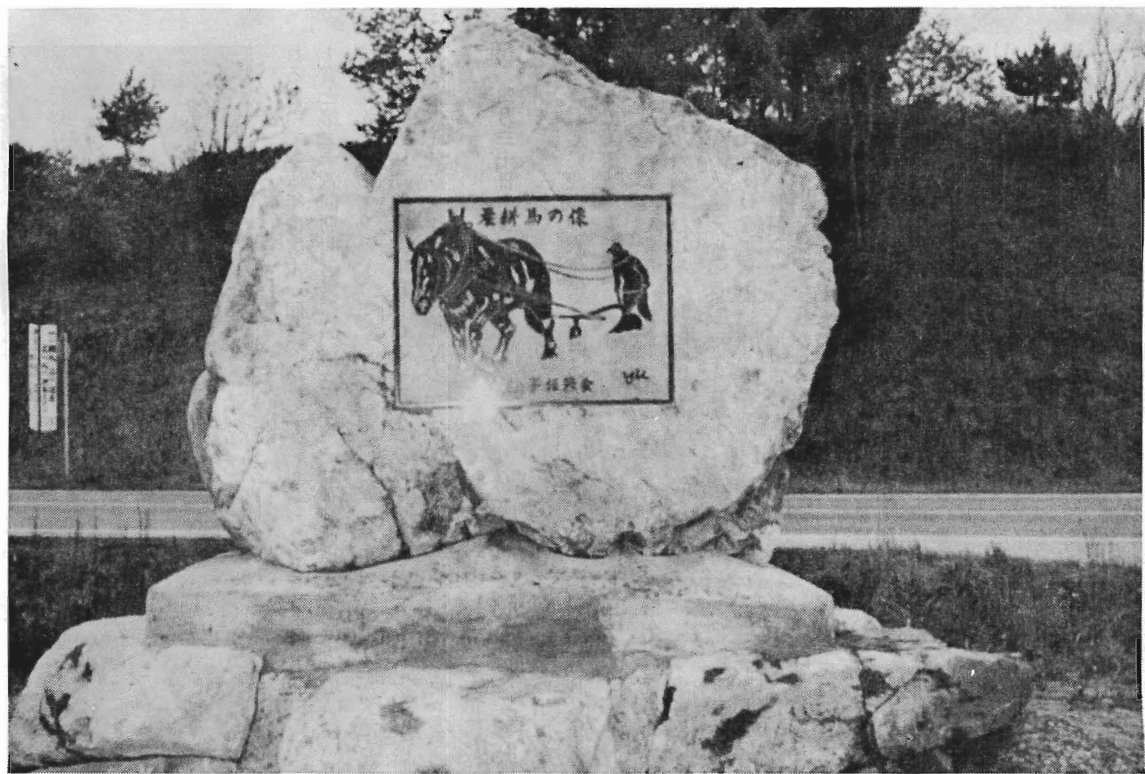
札幌圏ともいわれる岩見沢のばんえい開幕を道新六月十七日朝刊は大きく取り上げる。

「ローカル色と土のおいを振りまく岩見沢ばんえい競馬はおだやかな天候に恵まれた十六日開幕、地元をはじめ札幌旭川からもファンが押しよせ、入場人員一万一千人、馬券の売上げも軽く二億四千五百万円と記録を更新した。昨年の初日入場人員九、七〇〇人売上げ一億六千万円……」

普通競馬と違った持ち味が人気を呼んでファンは年々急上昇するばかり……。



森町のばんば競走



富良野市東山に建った農耕馬碑

この日のメインレース道新賞は今は故人の小瀬太一氏の持ち馬ニジョウホウが獲得した。

13 十一月十七日

「開拓時の功績をしのぶ 農耕馬記念碑」

変わったところでは十一月十七日の道新朝刊は、前日十六日に行なわれた富良野市東山に建立された農耕馬記念碑の除幕式を報道している。

「開拓時の功績をしのぶ」という見出しで富良野市東山に建った「農耕馬の像」を紹介。このレリーフ原画は本会事務局長の作。

14 十一月二十八日 スポニチ朝刊

「一番人気は中央競馬 ぐんぐん伸びるばんえい」

ことしのばんえい競馬全日程が終ってからスポーツニッポン紙はこのような見出しと、本道公営競技総集篇を報道した。この記事の中でばんえいに関係する部分をばっすいしてみると

「ことし一番の伸びをみせたのはばんえい競馬だ。昨年より一開催六日間日程は増えているものの、売り上げ総額で函館競輪を追い抜き、入場者でもこれにせまっている。「国内唯一」の珍らしさも手伝って、テレビ中継されるほどの人気、平地競馬の一瞬のスピードよりも、力感あふれるレースぶりが人気の秘密かもしれない。旭川、帯広は前年比50%増北見地区も30%を超えるなどまさに爆発的!!

15 十一月十二日 道新

「道営」しのぐ勢い

「人気急上昇のばんえい競馬」

十一月十二日の道新は36ポの大見出しで、ばんえいの躍進を大きく取り上げている。

記事中ゴジック括弧の見出しを見ると

帯広は道営を追い越す

貴重な財源

騎手の年収も急増

そして最後に「公害も」とある。今後

に対する警語だ。記事の一部を紹介すると、「今年は五月三日、旭川を皮切りに

スタートを切ったが帯広では、売上げ約

三十五億円で昨年の五〇%増、帯広では

サラブレッドアラブが走る道営競馬も行

なわれたが、その売上げ約三十一億円を

完全に上回った。入場人員も昨年比六六

%増、そのほかの三市も昨年比をそれぞ

れ大幅にオーバーしているが、岩見沢の

ように一日で二億七千万円もの売り上げ

を記録したところもある。

とくに目立つのは従来だと入場者は農

家の人が主流だったが、今年サラリー

マン姿も急増、都市居住者のファン増が

特徴だ。

16 四月二十五日 STVテレビ

ニュースに能力検査

旭川開幕前の激しい調教ぶりを放送

17 四月二十五日 NHKテレビ

ニュースで能力調教検査風景

四月二十四、二十五日の二日間行なわ

れた旭川の能力調教検査状況を放送

18 五月十一日 NHKテレビ

国際放送に「ばんえい」

これは国内向けではない。NHK国際テレビ放送番組に五月の旭川ばんえいを取材

19 七月五日 HBCテレビ

バック午後二時「勝二の体験」

ショッピング情報、料理コーナーと組ませ、岩見沢競馬場からばんえい競馬を、面白く豪快につたえる。三升家勝二の体験レポート

20 八月五日 NHKテレビ

「お祭りばん馬」

士別市の原っぱに大勢の観衆を集めて伝統ある士別祭典ばん馬競走の模様を伝える

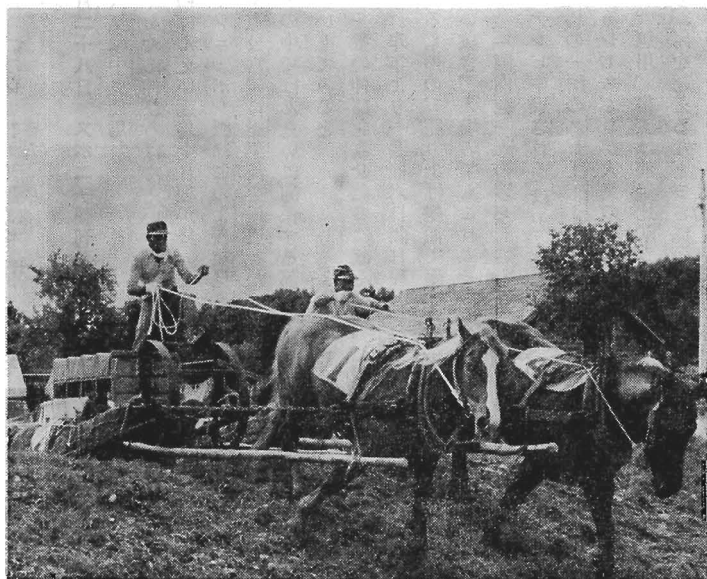
21 八月六日 NHKテレビ

「北国のばんえい」 北見新競馬場の全景から朝の調教、調教広場からスタンドへとカメラは移っていく。ここで女性ファンをとらえて談笑、婦人、少年、紳士、青年みなそれぞれのばんえい競走観がある。厩舎婦人の馬手入れまで追って報道する。十分

22 八月六日 NHKテレビ

「スタジオー二」



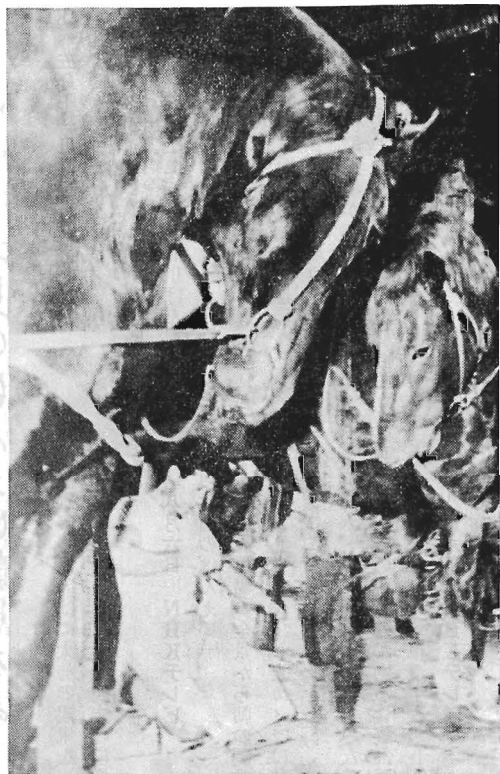


お祭りばん馬

- 北海道夏の風物、旭川ばんえい競馬で予想屋さんを紹介する
- 23 八月九日 NHKテレビニュース  
新設工事進む旭川競馬場の移転先神居上文丘の整地状況を中心にばんえい競馬を報道。
- 24 八月十日 NHKテレビ  
ニュース「夏に捨う」  
ニュースの中の「夏に捨う」の一部にばんえいを織り込む。  
六月十六日第九レースに行なわれた道新賞と、新設北見競馬場を取材、遠景か

- ら北見のスタンドをズームレンズで拡大していく撮影法はなかなかの迫力。
- 25 UHBテレビ AM七・三〇  
道新ニュースの時間に北見競馬に遊ぶ家族連れファンを中心にばんえい風景を見せる。
- 26 UHBテレビ AM一一・五五  
これもUHBひるのニュースで、ばんえいを放送、藤川騎手の敢闘ぶりをみせる。
- 27 四十九年三月三日 NHK七・二〇  
蹄鉄業三十年の太田一夫さんのレポ一

- ト、昔は一日に三〇頭も装蹄したという。今は競走馬のほかに、北大と酪農大に馬がいる位だが……
- 養豚業の山崎松次郎さんは今でも馬車でエサを集めている。街中が車でごった返していても馬はなんでもない。太田さんは私にとって、なくてはならない人だという。
- なお月刊誌「ろんだん」は口絵写真真四頁にばんえいの装蹄師千葉さんをのせている。また道新がかつて四八・一・二一の日曜版に空知栗山町の装蹄師久井馨さんを紹介したことがある。装蹄師もだんだん少なくなつて今は都会の人達には珍しい語り草となっている。
- 28 四月二十八日 NHKテレビ  
「みちのくの馬力大会」  
これは秋田で毎年行なわれるばん馬大



ばんえい競走馬の装蹄をする千葉装蹄師

- 会。今は北海道のばんえい競馬と同じように、鉄そりとなり土囊八〇〇Kを積みこむ。馱者は一人がそりに乗り、一人は地面で馬を追う。
- 秋田杉の森が周囲にこんもりと茂る広場、メインレースの一着賞は、大きな桐のタンズである。
- 29 五月六日 NHKテレビニュース  
釧路のばん馬大会を取上げる。釧路はもと神八三郎翁などもいて、全国に誇る馬産地だった。石油危機とばんえい競走の振展で最近の馬産熱は大変なもの。
- ばん馬大会はその意気を反影する。
- 30 五月八日 NHKテレビ  
朝のニュースで鹿児島島の海岸で行なわれる浜競馬を見せる。
- これは十七年前荷馬車組合が始めたのがこの始まりで、今は平素田を耕やし

ている農耕馬が出ている。

三千人の大観衆が集まる中、海軍マーチが場内に流れ、競馬は駆歩で行なわれる。まだ馬がいる、乗り手は得意満面だ

31 六月二十一日 道新  
農耕馬を空中からとらえる。

六月二十一日の道新は「二頭曳きの農耕馬を空から写して掲載、ただし説明には「消へる身」とある。

農耕馬はへって行く。しかし石油ベニツク以来馬力は見なおされている。

ばんえい競走は馬という火を消さないためにある。ばんえいを振展させて「北海道の風物」を消してはならない。

32 六月二十六日 STVテレビ  
「特ダネ登場」

背丈六〇センチ位のミニホースが登場。これはサラブレッドの変種だというのが小さいことでは世界一、馬主は大部分の人。

33 十一月二十日 NHKニュース

岩見沢ばんえい終了、売上げしめて三八億七五〇〇万円、昨年より六億を上回る。これも物価高騰の苦しさから一躍千金を夢みる人が多くなつたからか、ことは主婦の姿が目立った。

34 七月二十二日 NHKテレビ  
新日本紀行

「道産馬の通つた道 渡島半島」

この放送でNHKは「直接送像方式」という新開発の技術を使って、今迄にない美しい画質のフィルムを放送する」という張り切りようだったが、果して画面



ちかごろでは珍しくなった農耕馬がハローを引いている姿

は素晴らしく美しかった。しかしそれは道南地方の山野の細道を、薪木を背負つて小走りに駆けていくドサンコの姿が、北海道の風景によく調和して美しかったからでもある。

北海道のほとんどの道路は道産馬が造つたものだとされている。

開拓支えたドサンコの足跡、北海道が拓かれた時代、道産馬は重い荷を背に荒野を歩き山中を往來した。この道産馬の一步一步が北海道に新しい道を開いて行った。

明治二十年には、北海道に四万頭を超える道産馬がいたという。しかしその後、農業の機械化、道路の整備、馬産改良などにより、特にこの二十年で激減した。

現在、道産馬のふるさとといわれる渡島半島にさえ、わずか三百頭を数えるばかり、牧場や、木材の伐採現場にわずかに残る道産馬をたずね、北海道の広大な自然の中で、一つの時代が終ろうとしていることを伝えるとともに、馬と共に生きてきた人達の、道産馬によせる心情を描く。

35 七月二十三日 NHKテレビ

「草原のガウチョ」

アルゼンチンの大草原、日本の二倍もあるという大草原には大小十六万の牧場がある。今回は広大過ぎるアセライン牧場を紹介する。ここに五〇人の牧童ガウチョと使用人二〇人がある。

ガウチョ頭のリカルド父子の生活を中

昭和49年(1974年)7月21日(日曜日)

新日本紀行 ★NHK 第7・30



# 開拓支えたド サンコの足跡

開拓支えたド、サンコの足跡。田畑は人の心を休耕する……とワラを焼いて施肥つくりをする鳥取の土づくりに運動を紹介する。機械化金肥農業の弊害は目に見えぬおそさでじわじわと迫ってくる。

心に話は進む。二人の子供、姉と弟は馬に乗って学校に通う。それも猛烈なスピードで駆けてゆく。さすがアルセンチン牧童の子供達。三十分  
36 八月二日 NHKテレビ  
AM六・一五  
家畜なければ厩肥なし

厩肥なければ田畑なし  
田畑なければ米はなし  
休耕は人の心をも休耕する……とワラを焼いて施肥つくりをする鳥取の土づくりに運動を紹介する。機械化金肥農業の弊害は目に見えぬおそさでじわじわと迫ってくる。

37 八月八日 NHKテレビ

夜のニュースは元ばんえい競馬の馬丁さんだったという番重栄太郎さん(七〇)が取する函館の二頭立ての観光競馬車を見せる。

38 九月三十日 NHK

PM九・〇からのニュースセンターで大仙の山から丸太を運搬する馬と馬車を馬子唄を背景にして紹介する。

39 十一月八日 道新

小樽で四十六年間も石炭馬車を引き続けた名物男の庄内定太郎さんがなくなつたため、定太郎さんと十一年間も石炭を運びつづけたベル雑種春風号は、このほど円山動物園に再就職、遊覧馬車を引いて子供達の新しい人気者として再出発することになった。

遊覧馬そりは五十年二月一日からの札幌雪祭りにも五、六台が出場、シャシヤン馬そりといつて子供達に大もてだった。

40 NHKテレビ「北の職人」

馬そりには「札幌型」「ベタそり」「平そり」という三種がある。  
今でも馬そりは農作物の運搬、秋口の稲上げ、牛乳運搬、薪づくり、客土に使われている。馬そり製作所に今もなお、元気に働らく七十二才のそり作り職人を描く。

41 NHKテレビ スタジオO—O

盛岡市のお祭りに行なわれる有名なちやぐちやぐ馬と駒踊りを紹介する。あんこ娘と農耕馬を着飾りて、祭典に賑う人

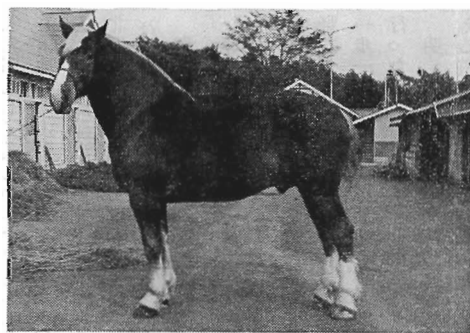
垣の中をしゃなりしゃなりと歩く。この伝統の馬祭りはいかにも日本ので楽しい。

42 九月十四日 道新

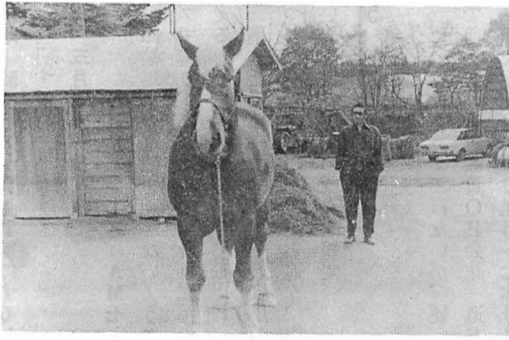
北見市が「お迎え通学」  
市営競馬場の移転でカーラッシュを呈する開催期間中、市はハイヤー、臨時バスによる通学の便を図った。これは第三回からで、初日の十三日若松小学校は三台のハイヤーで送り迎え、十八人が登下校したが低学年の子供たちは大はしやぎ。

43 「観光北海道」七月号

日刊紙「観光北海道」は早来町の橋本牧場を紹介する。場主橋本善吉さんは前々からのばんえい馬主である。年に三、四回は欧米に旅して牛馬を買ってくるという国際人。元ばん曳騎手の遠藤君が手伝いとして働いているが、彼にいわせる



サーターフィー・ケイト・オブ・レジストリー号  
ベルジン種牡 4才 早来町 橋本牧場



おとなしくひとり立って動かない  
向うは橋本善吉氏

と牧場の広さは百町歩だというのがナンボあるか判らぬ位広いのだそうである。  
ここにはアメリカベルジャンや、クライズデール、米ベルなどが、多数のサラブレッドアラブと一緒にいる。  
四才のベルジャン種サーティーファイ号は逸品である。  
橋本さんがいかにも可愛いといった笑顔で、手綱を放して、視察者達に見せる。アメリカ仕込みの扱いが、この牧場へ来てでも変わらず、知らぬ人達がグルリを囲んで動き回っても触っても足は一センチも動かない。実に温順で人に馴れている。  
橋本さんは縞馬を飼っている。先人誰しも縞馬と馬との仔は生れないというが、橋本さんは必ずやってみせるという。

広い池、たくさん庭石、庭木が植えこまれた大庭園がある。

裏のほうはるかに一六〇〇米の馬場づくりに、数台のブルドーザーが轟音をたてて右往左往していた。

44 七月十五日 NHKテレビ

三原山の観光乗馬の生活を紹介する。馬は日本和種のようにだ、今三原山の乗馬クラブに加入している馬は一二四頭という。

45 四十九年二月二十五日

「雪に埋まる部落へゆく馬」  
雪深い茂尻村山奥の寒村へ冬野菜を運ぶ二頭の馬を描く。

このあたりは日本でも雪の多い地方だ。山奥はまるで陽の当らぬ原始村のよう。淋しく怖ろしい位、冬がくると主人は出稼ぎにゆき、郵便局は閉鎖されてしまう。交通機関は馬以外にない。

46 四十九年三月三日 HBCテレビ

「兼高かおる 世界の旅」  
この日はニューキャッスル市の八百年祭を見せる甲冑をつけた多数の馬、中世紀の騎士風の服装、女性もきらびやかな古典様式の服装で馬に乗ってくる。

数方の観衆の前で武装のまま、馬が走り武術、格闘がつづく。出場する人達はサーカスやロデオの選手芸人、競馬の調教手、職業軍人、警備員だという。

三月二十三日の兼高かおるの時間はスペインの海岸闘牛を見せるが、丸っこく肥った重種馬に乗って回る女流騎士が目立った。



今日はSTV口ケ隊 (岩見沢)

47 雑誌「平凡」「少年マガジン」には  
んえい競走

四十九年春の少年漫画雑誌「少年マガジン」口絵写真ページにカラー刷でばんえい競走が掲載され、雑誌「平凡」にはんえいを織り込んだコマ組漫画が連載された。

48 五十年三月三日 NHKPM七・三〇

新日本紀行「運河のある街」  
運河のある街、また坂の多い街、それは小樽である。

牛乳屋さんの小型トラックでは急な坂道を登れないので、丘の上にある小学校に牛乳を運ぶ馬と馬そりを見せる。

49 五十年三月二十日 読売新聞

馬も入学試験、このところ雪もとけ出し、すっかり春らしくなってきた岩見沢

競馬場で行なわれた三月十九日、二十日の新馬登録検査を報道。

50 五十年三月二十六日

NHKPM七・三〇  
北見東相内古谷さん所有の重はん雌馬に仔が生れる。生れてからまだ一週間の可愛らしい子馬が、深い雪の中をまるびつつ、走る親馬のあとを追う。

古谷さんは「金肥ばかりで畑は荒れ果てている。有機質肥料を入れるために馬は必要だ。母馬は立派な重はん体型だから、この仔はばんえい用に一五〇万か二〇〇万位の値がつけられるかもしれないと目を細める。

51 五十年三月二十七日 読売新聞

「岩見沢の競馬収入 不況で低い見立 爆発的人気期待持てぬと」  
いよいよシーズン開幕、岩見沢市畜馬は、四月下旬から始まり、今年も競馬ファンをわかせるのだが、主権する市としては、不況の影響を心配して総売り上げ予想も例年より少な目に見積もって慎重を期している。」と四十七年以来的成績を分析して説明、最後に小倉畜産課長のファンサービスの基本である「公正な運営」をモットーに「今年を正念場として健全乗馬の確立に努力するしかないです」という言葉で結んでいる。

52 五十年三月二十九日

NHKニュース AM七・一五  
岩見沢のばんえい調教ぶりを紹介、シリーズも近づいて調教も力が入っている。金山騎手は調教は馬の心臓と力をき



たえ、騎手と気が合うようにするためだと説明する。

53 三月三十一日

NHKニュース AM七・一三

四輪馬車の車輪を動かさないようにロープで縛り、あいにくの雨降り泥濘の中を走る力くらべ鞍馬を紹介する。

集った馬は一二〇頭、一人は馬の口につき、一人は車のとから追う、珍らしい岩手県花巻町のばん馬競走。

54 道職員OB会誌

「道友」にばんえい

これはマスコミではないが、硬い編集で通っている道職員OB会誌「道友」の依頼で、四月二十日発行一七六号にばんえいを画入りで紹介した。

北海道にばんえい競走という珍らしい競馬がある。出場馬はみな八百キロ以上の重ばん馬だが、重いになると一屯以上もある。

今馬の仕事は冬山造材や、水田の客土が主であるが、運搬にも使われている。

力の強さをはかる単位を馬力というが、それほど馬の力は素晴らしい。雪に埋まって動けなくなった自動車を引っぱり上げることなど楽にやっけてのける。

馬は体重の三倍まで引っぱりばるといふから、一屯の馬なら三屯は引っぱりばるといふことになる。六〇キロの人間ならば一八〇キロを引っぱりることができる理屈である。

この素晴らしい豪力無双と従順性、機動性、そして蛋白資源を生産保持してい

くのが、ばんえい競走の使命である。

ばんえい競走の振展によって、出場馬は馬政史上かつてないほどに大型化している。今や世界的水準に達した重ばん馬の出現は、ばんえい二十八年の歴史がもたらした所産であろう。

兵農両全の戦前馬政は低身広軀の小回りのきく機動性が馬産の基本的指導理念であったから、このような大型ばん馬は不要であった。戦闘にも向き農耕にも向く体型は中型、小型の馬だったのである。今はばんえい競走出場を生産の目標とする者が多く、その大型化は巨大な力を必要とする冬山造材や、産蛋白質の多いものを要求する需要に向いている。現在競走馬は生産過剩気味であるが、農ばん馬は減っていく。戦前戦後を通じ

## 昭和四十九年度ばんえい便り

1 競馬監督課長來旭

農林省三井競馬監督課長は北川地方班長、古谷監督官と共に五月十一日旭川ばんえい競馬を視察された。

この日道からは農務部長以下、上川生産連からは古市副会長、市から松本助役以下が参加し、新旭川競馬場建設状況や白金牧場を案内した。

2 北見競馬場建設状況検査

農林省競馬監督課田口技官、佐野事務官は五月八、九日若松町に移転新設の北見競馬場建設状況を検査した。道競馬事

て三〇万頭もいた本道の農ばん馬は三万頭台に減じてしまった。

一朝有事の際にそなえた戦前馬政は、今また見なおす必要があるという議論は注目にあたらしい。平和国家の一朝有事とは石油危機のような輸入急減のことをいうのであろう。

月まで人間が飛んでいくような機械文明の発達したアメリカでさえ馬はふえつつある。フランスでは六〇万頭の馬を保持する政策をとっている。

馬あるところ緑がある。馬を失っては先人に申しわけがない。

ばんえい競走は産業用馬の維持改良という一半の使命を背負って素朴に、豪快に、たのしくそれを達成していくであろう。(U)

務所神田次長が同行。

3 ばんえい競走公正対策委員会の開催  
ばんえい主催四市は重大な不正事案について共同で調査し、その処置を統一するため一月三十一日公正対策委員会を設置、前年四十八年発生した不正容疑事案について、三月十日以来七月五日まで前後四回の委員会をひらいた。

4 馬事協会道支部総会で本会馬産奨励事業検討

四十八年日本馬事協会北海道支部に入会した本会は四月二十六日開催された支

## 旭川 ばんえい優勝競走



栄冠を獲得したダイイチカツエ号

5 旭川競馬に走路監視台  
鄙運管委員会において、農協側会員に対し本会の馬産奨励事業の推進について協力を要請した。

6 ばんえいダイイチはダイイチカツエ  
五月二十六日、この日は第四十一回日本ダービーが行なわれ、全国のファンの目は東京に集中していた。

同じ日こちらはばんえい四才の駿足を揃えてばんえい優勝競走が旭川で行なわれた。出走馬は九頭で、3番サロマテンリユウが一本かぶりの大本命、ちようど

東京では人気絶頂のキタノカチドキが、シード制で7枠に一頭だけおさまり、その大本命ぶりを見せていたのと好対象。



對抗馬は9番キヨモリ、3番人氣ダイイチカツエイ、5番ソウシンといったところ。レースはサロマが先頭で他馬をおさえ、楽勝かとみられたが、最後の第三障害で登坂に苦しみ、7番ナカフムサシが先きにこえる。すぐサロマも続いたが三障害こえが無理だったのか、そのあと降坂したダイイチカツエイ、ライデンオー、シントパメ、エイシヨウ、ソウシンなどと僅かの差で接戦となる。

場内大かん声のうちにサロマ、ストップまたストップ、漸次後退する。

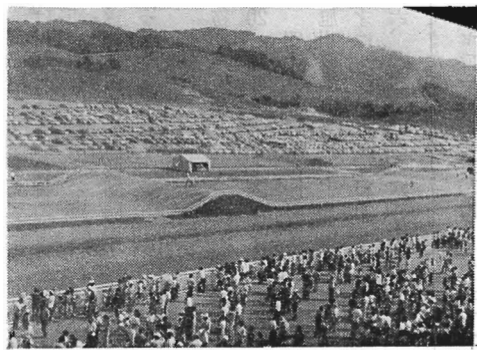
結局一着ダイイチカツエイ、二着ライデンオー、三着ナカフムサシとなり、本命サロマは七着に敗退、ちよūdとその約三十分前東京のダービーでは大本命キタノカチドキが三着に落ち三冠の夢が消えていた。

7 全国協会リーディングジョッキー賞の授与

地方競馬全国協会リーディングジョッキー賞は六月二日第三回旭川競馬第二日目の日曜日、第一位金山明彦(二八三騎乗七七勝勝率二〇・一〇四)第二位工藤正男(二〇八騎乗三六勝勝率一七・三〇七)に対し太田康二会長から親しく授与された。この授与式には全国協会の原口理事、抽山業務課長、旭川市松本助役、大久保審議員、道神田次長が列席した。

8 太田会長本道地方競馬主催者主脳を招待懇談

地方競馬全国協会太田会長は六月四日札幌市藻岩山麓のエルム荘に本道地方競



第2障害がなくなった

馬主催者主脳を招待し、現下の地方競馬と全国協会の運営について懇談した。

当日の主な出席者次のとおり。道議会議長、北見市長、道農務部長、岩見沢市助役、全国協会原口理事。

9 全国協会主催騎手講習会

全国協会主催の騎手講習会は第三回旭川競馬の中休日六月三、四日二日間市の職員会館において開催、講師は全国協会野口、浅井専門職、受講者約百名。

10 第2障害の廃止

旭川を除く三市は第二砂障害を廃止した。これはばんえい平場レースの走法が大体において、スタートから第一障害こえまでは駆歩疾走、それからややラクにして第三障害前で停止し息入れする。そこからは全力で追込みゴールに達する、という能力の配分からみて、いわゆる「馬なりに進む区間」の第一障害と第三

障害までの間に障害を置く必要はない、「とめることも少なくすべきだ」「馬の苦勞も少なくする」ということからである。

11 帯広競馬にサービセンター

帯広競馬場の所有者十勝農協連は競馬場の新築を機会に、すぐ東隣にしようしやなサービセンターを建て、その事業として場内にスポーツ施設(第一年目はポニー乗馬運動場、ゴルフ練習場)を設け、駐車場管理、甘酒サービ販売などを行なった。

12 馬衛生事業の発足

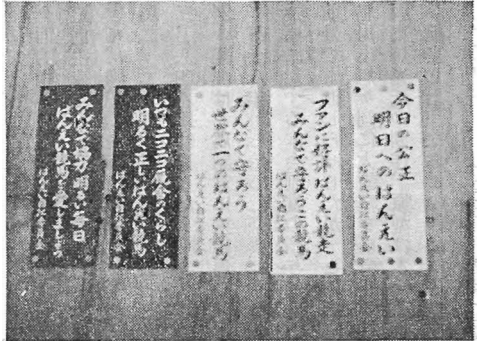
多年の懸案であったばんえいの馬診療事業は本年から、本会経営で着手、獣医師は倉本光尊氏と岡田克夫氏、いずれも旭川の在で、多年馬の診療にあたって来た経験豊かなベテランである。ことしの診療頭数は延七、一一九頭に及んだ。

13 全国協会のばんえいファン実態調査

地方競馬全国協会は七月六、七日両日第二回岩見沢競馬第四日目と第五日目に日本リサーチセンター総合研究所に委託し、ばんえい競走ファンの実態調査を実施した。その結果についてはA4版の大型冊子一二七頁に収録して報告されている。(別掲参照)

14 全国協会 新競馬場を取材

全国協会の高本総務課長は浅井課員と共に七月二十二日新装なった北見競馬場を視察し、同機関誌「地方競馬」十月号にグラビア版と記事で詳細に報告、帯広新競馬場については七月二十日取材の



調騎会の標語募集当選作

上同様九月号に掲載紹介された。

15 水銀灯に群がる優雅

北見競馬場のばんえい走路はスタートとゴールとゴールラインに三基のバトロールタワーが彩色も鮮やかに建ち、給水栓、馬けい所、始めてお目見得の軌道トロッコけん引気動車、しやれた車両重量物の格納倉庫、スタートから延びる十本のコースは第三障害からゆるい上り勾配となり、ゴール前十米から急に下り斜面となる新構想などばんえい走路としては目下のところ全道一の評判。

走路わきに立ち並ぶ五基の水銀灯は高い銀色の鉄柱から走路を照射し、真夏の夜は大小の虫が誘蛾灯のように群がり、あだかも北国の夏の夜の風物のように。

16 常呂川花火大会に「ばんえい」

第二回北見競馬後半開催中の八月三日、常呂川河畔で豪華な花火大会があっ

た。かねて同市競馬場建設に一役買った安藤建設K氏は大仕かけ花火を提供、火花散る「ばんえい」は目を被うばかりの豪華けんらんさで大観衆の歓呼を浴びた。

### 17 岩手競馬組合、ばんえい視察

岩手県競馬組合議員及び職員の一行人は八月二十四日帯広ばんえいを視察した。戦前本道と東北地方は農ばん馬生産地として著名の地、いま一トン以上の重ばん馬を目のあたりにして感慨無量もしおのようであった。

### 18 東京特別区岡田室長来場

四十八年東京でばんえいアトラクションをやったからは、すっかり大井と親しくなったばんえいには春の北見競馬場落成式に特別区競馬組合代表が出席し、十月五日帯広には管理者室の岡田室長が来

場、北見を廻って帰京された。

### 19 ばんえい馬主会調騎会の活動

A 服装の統一改善、調教師服の制定  
厩務員ズボンを統一し、厩舎内規律の向上と格調を高めるようつとめた。

### B 公正化標語の募集掲示

競馬公正化の標語を会員から募集、写真のような五点が当選した。

C 各競馬場厩舎区域に掲示板を立てて主催者の指示事項や連絡事項を掲示。

### D ばんえい騎手講習会は圧巻

十月二十四、二十五日両日北見で開かれた調騎会主催の騎手講習会の講師は、本会の鈴木次長、小路口課長ほか技術陣、圧巻は技術講習に新人騎手の唳すそり一つ一つに先輩調教師が相乗りして、追い方を指導、これぞばんえい調騎会初の好企画として好評。

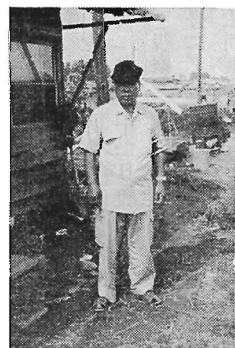
### E 自衛委員会の活動

調騎会内に設けている厩舎自衛委員会は、厩舎区域内の警備、外庄に対する防衛、調教中の事故の監視、秩序維持等を遂行するため調教師騎手で当番制をつつた。

当番は「自衛委員会」の腕章をつけ任務に当たった。

### 20 開幕第一レースから大穴続出

四十九年の競馬開幕は五月三日第一回旭川競馬だったが、その日第一レース3才はショウグン、パンヨシエと入り一六、〇六〇円の大穴、第二レースも3才でまたまたナカフキンリュウ、サカエダイヤで一、一三〇円と大穴がつづき、



厩務員服ズボン

ファンも「こんなことは一寸例がない、ことしのばんえいは荒れ模様か」と嘆声を洩らす次第であったが、第三レースは六才以上で二八〇円と落付いた。

ちなみに四十九年一番の大穴は六月十六日第二回岩見沢第一日第四レースに行なわれた4・5才級でヨシタカラ藤川、ソラチオー林となり三〇、三六〇円となったのが最高。

### 21 全国協会主催実務研究会

昭和四十二年第一回を開催した全国協会主催のばんえい競馬実務研究会はことして八回目、本年最終のばんえい競馬中休日十一月20、21、22日の三日間、北見市温根湯温泉と競馬場において行なわれた。全国協会からは原口理事、若月調査役、川村、野口、浅井専門役、主催市及び本会から二十四名が出席した。



ばんえい掲示板

八年前当時全国協会の田中参与は審判委員としてばんえい競走を支援、九月二十一、二十二両日の研究会で開口一番「約一年の執務は誠に薄氷を踏む思いだった」と述べられ、それまでの約二十年間、ばんえいは改善を重ねてきたのだが、他から見ればそんなことであった。当時指摘された事項は九課題四十五項目に及んだ。

### 22 市長選挙

ばんえい主催市の旭川では十一月、岩見沢では十月に市長選挙があった。

旭川では前助役松本勇氏が当選、岩見沢では国兼孝治氏が再選された。

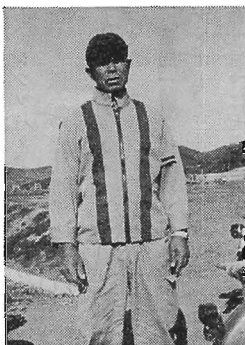
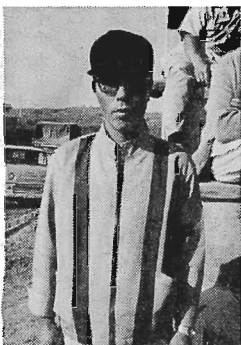
### 23 農ばん馬血統登録準備調査始まる

ばんえい主催者多年の願望であった農ばん馬の血統証明制度の一元化はいよいよ実現の明るい見通しとなった。

この実施団体は社団法人日本馬事協会となるが、協会では農林省、全国協会の全面的指導と支援によって四十九年先ず道内主産地を中心に九月から十二月にかけて、準備調査を行なった。受検馬は母馬二、二七五頭、仔馬一、五七三頭、計三、八四八頭に達した。

### 24 祭典ばん馬副賞に重鞍馬レリーフ

四十八年から始めた祭典ばん馬競走優勝馬に対する本会副賞の贈与について、前号でもおしらせしたが、この副賞品は旭川市旭ヶ岡に大雪窯を経営する陶芸家板東陶光氏の制作、原型は本会事務局長が担当した。なおこの作品は馬主会騎手会で原型そのままにちゅう造して金属製



お揃いの調教師服

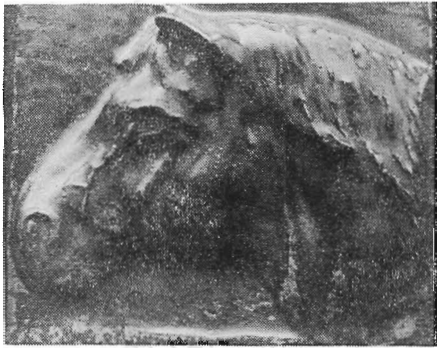
のものを作り会員一同に配付した。局長の作品は先年岩見沢市の依頼によって製作した金色ばん馬立像があり、これで作目。

25 市場価格八百万円の国産ベル

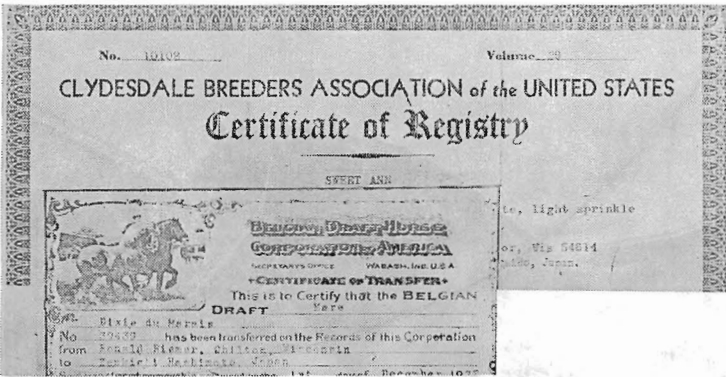
四九、一一、一二発行の馬事通信によれば「日本畜商協会の報道によると我國の国産重種系でせり最高記録八百万円が出現した。これはこのほど札幌市で開かれた共進会に出場したベルシユロン系の芳清（釧路市大久保芳信氏生産）で、せりは三百万のお台から七百四十万までせり上ったが、八百万円で主取りとなったもの、軽種馬が生産過剰で青息吐息のこのごろ重種系がばん曳競馬の隆盛に伴って最近生産界ももり上がりをもせている」と報じている。

26 アメリカ持込馬 いよいよ登場

壮瞥町のばんえい馬主森秀夫さんは四



祭典ばんば第1回副賞 重鞍レリーフ



十七年自らアメリカに渡って、ベルジン種クライズデル種を輸入してきたが三頭が受胎していた。いわゆる持込馬（受胎してきて日本で生まれた仔）は本年三才をむかえ、いよいよアメリカ系重ばん馬がばんえいに登場する。登録馬はベルジン種がマルモテカラ号、クライズデル種がマルモホープ号、マルモンサン号の三頭。

普通の競馬で持込馬は珍らしくないがばんえいでは歴史始まって以来のこと、

その成績がたのしみだが、森さんは「来年から出てくる国産馬との一代雑種がたのしみ、ことしあまり評判になつては困る」といっている。

27 ばんえいの最高峯、農林大臣賞、牝馬が制覇

十一月三日第四回岩見沢競馬第一日は文化の日。この日はばんえいの最高峰、伝統の農林大臣賞一着賞三〇万円は第九レースに行なわれたが4番ダイニミハル号（馬主鳥瀧政治氏、騎手木村卓司君）は接戦ののち堂々の優勝を成しとげた。これはばんえい史上初めてのめす馬優勝とあって大観衆の歓呼を浴びた。

この十五年間の農林大臣賞優勝馬を挙げると次のとおり。

年次	馬名	性	積載重量	タイム	競馬場
三五	ヤスヒラ	せん	八〇〇	四、四五	北見
三六	バンユウハ	おす	八〇〇	四、四二	北見
三七	キヨユキ	せん	八〇〇	三、〇三	帯広
三八	カチサカエ	おす	八〇〇	三、〇三	帯広
三九	パンユウハ	おす	八二〇	二、二七	旭川
四〇	トキミノハ	おす	八五〇	四、一六	旭川
四一	シンツノメ	おす	八五〇	二、三七	北見
四二	トキミノハ	おす	八五〇	三、三九	帯広
四三	トキミノハ	せん	八五〇	五、〇七	岩見沢
四四	ハルカチ	せん	一、〇〇〇	六、一〇	旭川
四五	ハルカチ	せん	九〇〇	三、四八	旭川
四六	シャルチ	せん	八五〇	五、〇〇	旭川
四七	シャルチ	せん	八〇〇	三、四七	旭川
四八	カッタロ	せん	七〇〇	二、三五	旭川
四九	ダイニミハル	めす	七四〇	二、二六	岩見沢

28 騎手試験

ことしの騎手試験は十月十五日から十七日までの四日間帯広競馬場で行なわれた。試験委員は全国協会西村調査役、野呂、野口、浅井各専門役、受験者一七名。

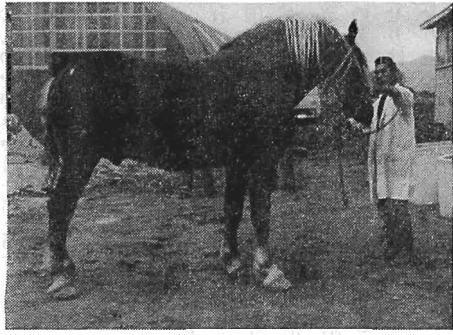
29 アメリカ輸入馬視察

十勝農協連畜産部永田次長、千葉同畜産指導課長と本会事務局局長は十月二十一日早朝帯広出発、早来町の橋本牧場と壮瞥町の森牧場を訪問、昭和四十七年アメリカから輸入したベルジン、クライズデル、アメリカベルなどを視察した。

30 売上上昇率全国第一位の帯広

四十九年度は第二位

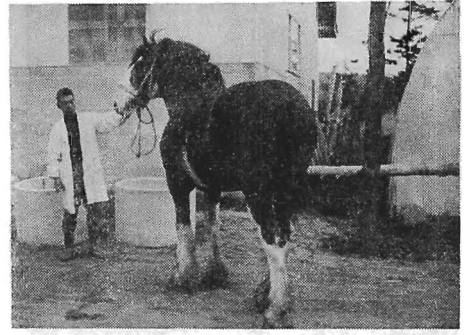
全国の昭和四十八年度の売上上昇率前



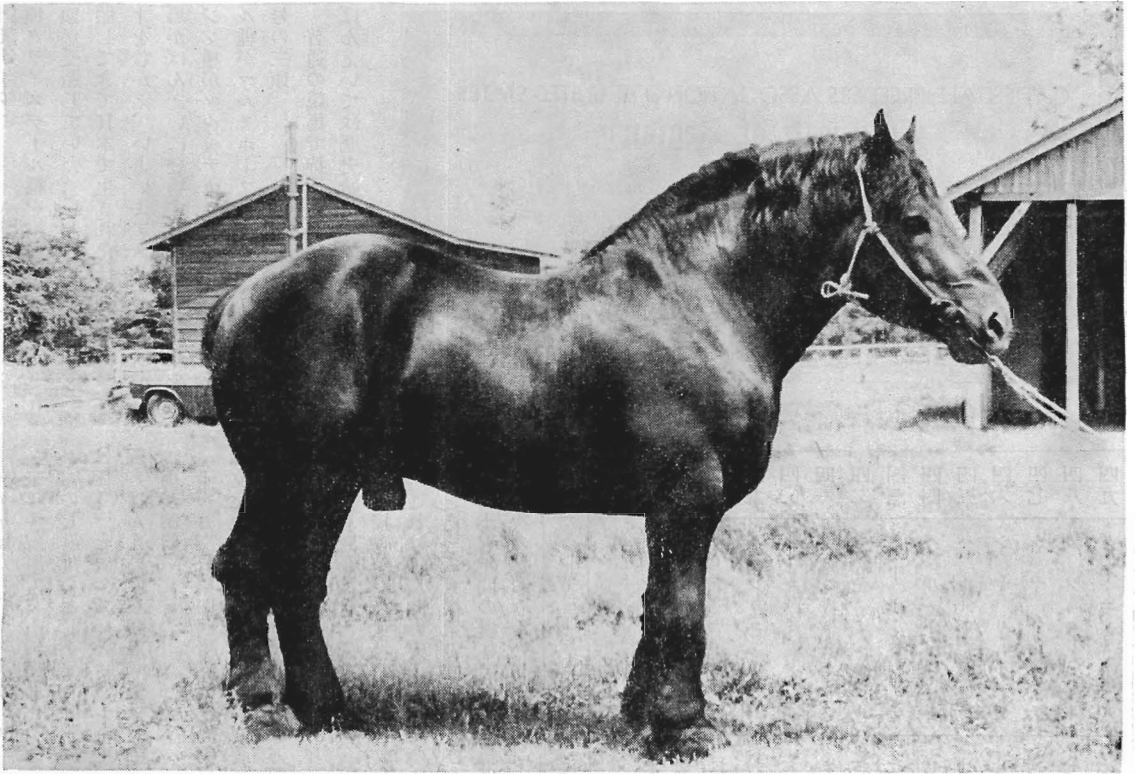
キャプテン号 ベルジン種牡  
森牧場

年比五〇%以上の競馬場は次の八カ所で  
帯広ばんえいは全国の第一位(一日平均  
売上高による)

1 帯広 一八八・八%  
2 水沢 一八六・六%



コレッシー・エンタープライズ号  
クライズデル種牡 壮賢町 森秀夫牧場



釧路種雄馬共励会最優秀賞 ベルサイユ号

3 佐賀 一七八・四  
4 岩見沢 一七六・一  
5 益田 一七六・〇  
6 北見 一七一・八  
7 中津 一五七・六  
8 金沢 一五七・四

昭和四十九年は盛岡一五七・七%に次  
ぎ一五〇・六%で第二位となった。  
道営でも札幌は一日平均五億四九、八  
〇万円となり全国第三位に進出したのだ  
からこれも驚異的。

31 本会主催実務研究会

夏は全国協会、冬は本会主催の実務研  
究会は毎年の恒例になってきたようだ。  
おらそく今後固定した行事となり、ぼ  
んえいの発展に大きな貢献をすることと  
なろう。

ことしの冬は二月六、七日の両日札幌  
で開催、全国協会からは若月調査役、野  
口、浅井、川村各専門役、光石駐在員、  
道から河村技師、主催市及び本会から一  
八名が出席。

32 釧路種雄馬管理共励会に副賞

釧路農協連は二月二十一日大薬毛家畜  
市場において種雄馬管理共励会を開催、  
出陳馬は十七頭、それに参考馬二頭の計  
十九頭、本会からは副賞を贈呈したが、  
授賞馬は次のとおりである。

最優秀賞

ベル ベルサイユ号 釧路道下 知敏

優秀賞

ベル 豊田号 釧路 大久保芳信  
ベル フラトウール号 白糠 松野 宏

ベル 二世ロッシーニ号 阿寒 長村豊司

ほかに努力賞五頭

豊田号はばんえい競走界往年の名馬トキミノルである。

なお、この授賞を契機に、本会は今後支庁管内一円を規模とする馬の共進会などに對し副賞を贈与することにきめた。

### 33 馬産奨励の反響

本会が昭和四十七年春、樹立した農ばん生産奨励事業は

出走馬年令制限と若齡馬、牝馬レースの特設

祭典ばん馬競走の保存奨励

と着々実行してきたが、その目玉事業の一つである農ばん馬血統証明制度の一元

化要望も、農林省、全国協会の認めるところとなりよいよ実現の運びとなった

もう一つの目玉事業である生産者賞と種雄馬管理者賞は四十九年度から授賞

された。その反響は意外に大きく、中には申請書や受領証の中にお礼のことばを書きこんだり、礼状を送ってきた方もい



た。そのうち三つばかりを紹介しよう。

### ◎紋別のMYさんは

申請書に書きこんで……

此の度玉錦出走に対し有難き吉報に接し夢のようです。期待をかけていました玉錦の勇姿、今一度見たい気持ちで家族一同（元氣であれと神に祈っております）出来れば持主の住所を知りたいと存じます。

（なおこの方は賞金受領書と一緒に鄭重な礼状も送ってきている。）その中に「存じがけもなき御配慮に預り家族一同ただ感謝に堪えません。有難く頂戴いたしました」とある。

いかにもその素朴な人柄と感激があふれている。

### ◎常呂のKYさんは

前略 大変な思わずの大金で有ります

のでおかげに成ます。係の皆様宜しく申し下さいお礼申し上げます。まずお礼まで。

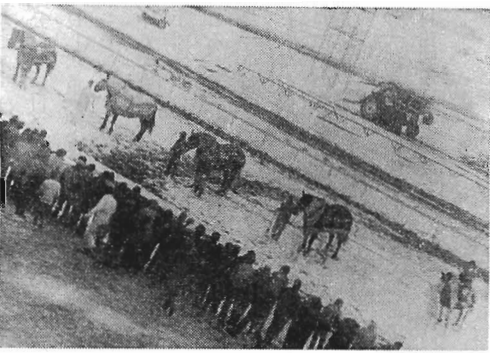
### ◎網走のKAさんは

本日御送金下さいました生産馬賞金領収致しましたので有難く御礼申し上げます。同封の領収書御送り致します。

### 34 盛大だった旭川盆踊り大会

一昨年来恒例となった「ばんえい盆踊り大会は、ことしは旭川で八月十三日夜既合まへの馬場内に櫓をたてて、調騎会主催で開催された。

その日はあいにくの雨が降つたりやんだりで会場はところどころに水溜りもできたが、幸い四時半頃から雨も上がりやぐら太鼓も高らかにのど自慢の連中が交代で美声をきかせ、既合側では家族をあげてほとんど全員が参加し、夜の深くな



雪中引退表彰式（岩見沢）



誘導係のお嬢さん

るにつけ踊りの輪も二重三重に拡がって行った。

この日はちようと本会の臨時総会があったので、各市及び本会の職員も加わり、この日ばかりは日頃のかた苦しさも忘れて、和気あいあい盛大裡に八時すぎ終了した。

### 35 引退馬の表彰

本年明け十三才の満年令で引退する馬はシャリイチ、パンツバメ、トーオクオリ、チャンピオン、ガロンの五頭。

真紅の乗馬服を着用した二人のお嬢さんに誘導されて馬場内に入場整列した五頭は、執務委員長小島助役から表彰状と記念品を授与され、「螢の光」に送られて静かに去って行った。

ことしの引退馬の中には、かつて農林大臣賞二連勝のA級の強豪シャリイチ、道南で種雄馬として余生を送るA級、パンツバメ、引退年を待っていたかのように死んだガロンなど、名馬揃いであった。

### 36 旭川、岩見沢に女流誘導馬

本誌第三号で旭川、岩見沢の重ばん馬入場の誘導係のお嬢さん方を紹介したが、ことしは又両市の乗馬クラブからき



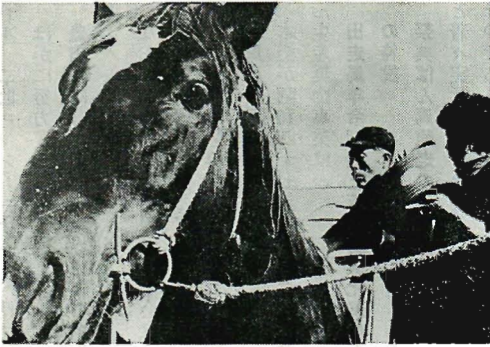


キスを拒んだ金山騎手

れいなお嬢さん達がこの仕事を担当してくれた。野牛のような重ばん馬にまたがる騎手の猛者連をコースに誘導する彼女達は美しい中にも凛々しく、場内になごやかなふんいきをただよわせた。

37 マリアン又さんのキスを拒んだ男  
S T VのイレブンP Mはばんえいの年中行事のようになった観があるが、ことはもう四年目になる。

さてことしの取材は第四回岩見沢競馬  
第四日目の十一月八日、司会者の藤本義



いつも奥さんと一諸に

一氏、マリアンヌ嬢をはじめプロレスラー、万才師、外国美人二人など大挙して現地ロケにやってきたが「11 P M杯」はヤマトフジに騎乗した金山騎手に、アンヌさんから授与された。

このあとこれも恒例になったアンヌさんの祝福のキスは、金山騎手が頑強に拒んでしまったので、アンヌさん唇の持っているところがなく明るく笑ってごまかせばファンも爆笑。

38 小瀬さんの逝去  
調教師小瀬太一氏は春以来入院加療中のところ病状あらたまらず遂に十月三十一日逝去された。小瀬師はめしより馬が好

## 石北峠をすぎると

### 夜の底は黒くなった

#### 北見最終ばんえい競馬

「国境の長いトンネルを抜けると雪国だった、夜の底が白くなった」  
これはノーベル文学賞作家川端康成氏の名作「雪国」の冒頭にある名文である。

昔若き日の川端氏が、暖かい関東から新潟へ向う列車で、長い信越トンネルを通り抜けると、暗黒の地面は白雪に被われて、あだかもそれは夜の底が白くなったように見えた、というのである。

その日十一月十四日私はS君の車に乗せて貰って北見へ向かっていった。  
大雪の中で列車は動かないかもしれな

きだと、ばんえい界に入り昭和二十四年公営発足以来のベテランである。速くて良し、重くて良しの名馬ジョウホウの馬主であり、騎手だった。ジョウホウは四十八年春一千万円の買値をつけられたが手離さず、大いに活躍を期待していたところ、第一回の旭川で急死してしまつた。小瀬氏は年間収入七百万円位の中富良野の中農でばんえいは趣味と実益をかねたたのしい生活であつたようだ。

降りしきる雪の中を車はとまったり、徐行したり喘ぎながら走る、神居古潭にさしかかったとき遂にストップ、見れば前方はかきこめるまは長蛇の列、S君は「二キロ位ありますね」と行列の長さを目測する。前のトラック運転手から、なにか事故があつたらしいと伝えてくる。

このときは道宮競馬でも長老八十一歳の大西氏、調騎会長をやつたこともある村田勝次氏が物故している。

旭川に入る前に又ストップ、長蛇の列を繰り返す。  
漸やく動き出したが、しばらく行くと右側の路肩から叩き落された車が、無惨にひっくり返っていた。やはり事故があつたのだ。降りしきる雪は強い風を呼んで吹雪になった。雪はたそがれ近い層雲峡の岸壁に叩きつけられて、狂つたように夕闇の沖天に、渦を捲いて吹き上げていた。

北見最終ばんえい競馬  
という情報があつたことと、北国のさ  
い果て北見で始めてやる十一月下旬まで  
の競馬に少からぬ心配があつたからだ。

それはかねて厩舎の連中から、北海道の屋根といわれる石北峠をこえて参加する馬の危険を訴えられていたので、現実にはどうなのか、身を似てそれを見たいと思つたこともあつた。

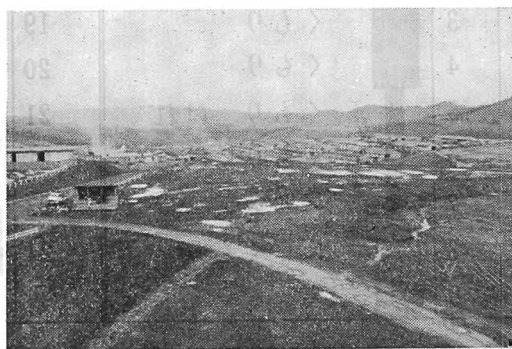
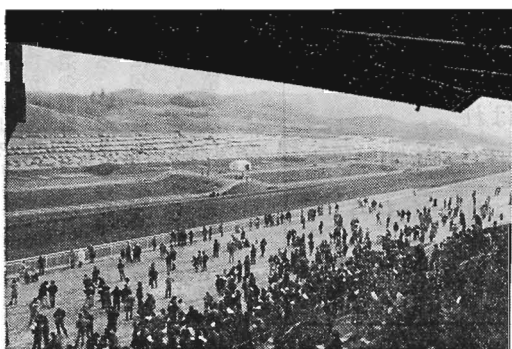
何が問題の石北峠にさしかかる。峠も雪である。走る車は少なく、時折りはあるか前方を行くのが見えかくれする位であつた。  
何年越しの大雪ダムの建設も完成したのか、工事を休んでいた。

十一月下旬の岩見沢競馬はひどい雪降りだったが、その日も又終日降り続いていた、岩見沢を通過する頃、カーラジオは「岩見沢の降雪量は一三〇センチ」と報じた。

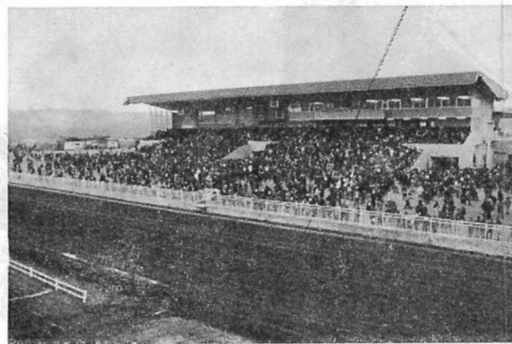
海抜一、一〇〇米余の頂上をこえる頃不思議に風が弱くなった。いよいよくだりだ。なにかホッとしたりした気分になる。「峠を越す」という言葉があるが、その意味がよく判つたような気がする。  
あたりはもうすっかり夜であつた。暗い道は車のライトに照らし出されている部分だけが明るく、風はなくなり、雪も止んだ。



大雪の新聞記事



北見競馬場風景



麓の唐松林の中を走る頃はもうスッカ  
リ雪が見えなくなった。空には数えるほ  
どしかないが、足さえ見える。

「石北峠をすぎると、夜の底は黒くな  
った」

名作雪国とは逆だが、まるでそれは峻  
烈な吹雪の世界から、いきなり春の国へ  
飛び込んだようなものであった。

窓外はホカホカと暖かく、道南育ちの  
私にとってそれは、大変な不思議であっ  
た。小説「雪国」の新潟には名妓駒子が  
待っていたのだが、我々には北見の競馬  
場に四百頭からの駿足が無事到着して待  
っていた。三頭の馬が車への積み下ろし  
と車上滑走で外傷を負ったほかは皆元気  
だった。それは石北峠を越す特別な原因  
によっておきた外傷ではない。

翌十五日ひるすぎ、小春日和のように  
暖かい馬頭観音さまの前で、厩舎側の連  
中と打合せや講習会をやったが、オーバ  
ーを着る者もなく、勿論鼻の頭も赤くな  
らず、ホカホカと暖かい青空の下で、み  
んな南国の競馬場にでもきたような顔を  
していた。

翌十六日から四十九年悼尾のばんえい  
競走、第五回北見競馬はいろいろな問題  
を含めて華々しく開催された。

ばんえい始まって以来の十七回百二日  
の開催、北限の競馬場の十一月下旬開  
催、年度途中特認開催など、将来ばんえ  
いの発展に係わる多くの課題を含めて：  
：北見市のカン当った。

中休日の十九日に十センチばかりの降

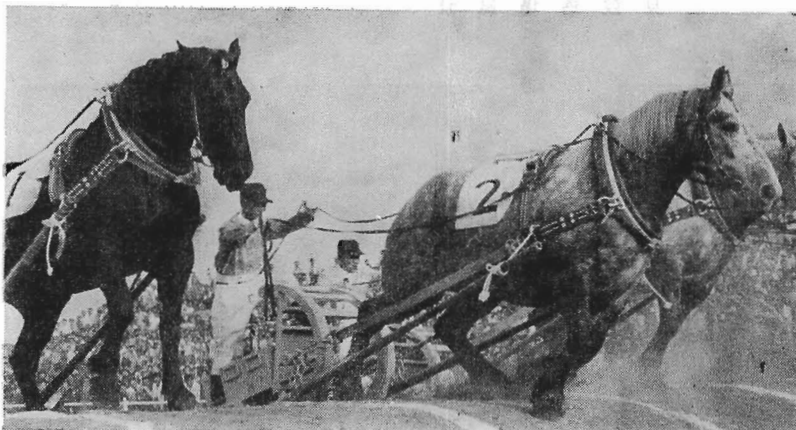
雪があり、三日目と四日目に雨が降った  
ほかは、晴快晴とつづき、お客さんは陸  
続としてあとを絶たなかった。駐車場は  
車で溢れた。

十一月下旬の晴天北見競馬は無事平  
穩、売上高も最高記録で終わった。終了の  
日、賞金支払口に集った厩舎の連中の中

から「東京に足を向けて寝られねエネ」  
という声がかきこえた。

北海道の競馬には冬という休催期四カ  
月がある。いつもこの終了の日は和やか  
な空気に包まれる。それは八カ月の激闘  
ときびしい厩舎生活から解放されて家郷  
に帰る安堵の顔だ。冬来りなば春遠から

10/25	くもり	夜雨	10	雪
26	くもり		11	大雪30cm
27	小雨		12	くもり 小雪
28	くもり	雨	13	はれ 雪
29	くもり		14	雪 吹雪
30	くもり		15	はれ
31	雨	くもり	16	はれ
11/1	雪		17	はれ
2	小雪	くもり	18	雨 くもり
3	くもり		19	雪10cm くもり
4	くもり		20	はれ
5	くもり	はれ	21	はれ
6	くもり	はれ	22	雨 くもり
7	はれ		23	はれ くもり
8	雨	くもり	24	はれ くもり
9	雪			



じ、サテ明年も元気で逢おう。(U)  
昭和四十九年北見ばんえい売上げ高  
第一回 七月 五億九七、〇〇万円  
第二回 七月 六億〇三、六五万円  
第三回 八月 六億六七、〇六万円  
第四回 九月 七億七四、七六万円  
第五回 九月 七億七四、七六万円  
十一月 八億五六、二一万円  
十月二十五日岩見沢第三回から十月二  
十四日北見第五回までの天候

# 昭和50年度番組編成要領

## 1. 出走馬の種類

重種，中間種（除軽半血種）とする。

## 2. 出走馬の資格

次の各号の全部の条件をそなえていること。

(1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬。

(2) 新馬，明5才以下

古馬，明13才以下（再登録馬は血統証明書に地方競馬全国協会の認印のある馬）

(3) 馬 体 重

3 才	650kg	以上の馬
4 才以上	700kg	

(4) 馬体検査，能力調教検査に合格した馬

## 3. 出走の制限及び拒否

(1) 外国産馬は出走できない。

(2) こ疾の程度が重く，又は外観上みにくい馬は出走を拒否する。

(3) 薬物検査で陽性となった馬は，出走を拒否されている期間出走を拒否する。

(4) 出走取消をした馬は，その間の残余期間出走を拒否する。

(5) 尋常てい鉄を使用しない馬は，出走できない。

(6) 競走上のへき馬及び失明馬（片眼馬を含む）は，出走を拒否する。

(7) 委員長が公正確保上出走させることができないと認めた馬は出走を拒否する。

## 4. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

(1) 1競走における出走頭数は10頭以下とする。

(2) 出走投票の結果，1競走の出走頭数が5頭以下の場合はその競走を取り止め新たに競走を設けることができる。ただし，偶発的事故又は疾病等により出走を取消し，又は競走除外，発走除外を命じた場合を除く。

## 5. 負担重量

(1) 騎手の負担重量は73kgとする。

(2) 馬の年令重量

3才馬は240kg，4，5才馬は280kg，6才以上は300kgとする。

(3) 牝馬は競走において10kg減量する。

(4) 普通競走において，委員長の指定する騎手と通算勝利回数により減量する。

## 6. 競走の区分

(1) 取得賞金により，それぞれ編成，1年令別に次のとおりとする。

3 才 3才馬のみの編成とする。

4，5才 4，5才馬の混合編成とし，通算取得賞金240万円以上の馬は，6才以上の競走に編入する。

6才以上 6才以上の混合編成とする。

## 7. 負担重量及び加増重量基準

(1) 3 才 馬

負担重量は240kgとし，本年取得賞金120万円未満は20万円につき10kg，120万円以上は40万円につき10kgの加増を行なう。



(2) 4, 5 才

3才時よりの通算取得賞金により、下記の負担重量とする。

取得賞金	240 万円未満	210 "	180 "	150 "	120 "	90 "	60 "	30 "
負担重量	350kg	340	330	320	310	300	290	280

取得賞金240万円以上の馬は6才以上に編入する。編入するときは、同額賞金クラスに編入し、競走において10kgを減量する。

競走経歴のない5才馬は、6才以上の負担重量300kgに格付し、競走において年令による減量を行なわない。

(3) 6才以上

昭和47年以降の取得賞金により、下記の負担重量とする。

取得賞金	600 万円以上	600 万円未満	500 "	400 "	300 "	200 "	100 "
負担重量	400kg	400	380	360	340	320	300

(4) オープン馬

昭和48年以降の取得賞金600万円以上の馬をオープンとする。

600万円以上の取得賞金にたいし、200万円につき10kgの基礎加増を行なう。

本年取得賞金にたいし、100万円につき10kgの加増を行なう。

8. 希望編入

基準によらずに希望で編入できるのはオープンのみとし、番組編成会議で決定する。編入できるのは、第3回旭川競馬終了までとする。

9. 競走において一般に高重量となるときは全馬の重量を一率に減することができる。

10. 取得費金額は特に記載のない限り前回までの合計とする。

11. 騎乗回数制限

1日の騎乗回数は6回を限度とする。ただし委員長の騎手変更命令の場合はこの限りでない。

(1) 騎手変更

騎手変更をした騎手は、理由の如何を答わず翌日の騎乗は認めない。

12. 騎手の減量について

委員長が指定する騎手は次のとおりとし、普通競走において当該騎手は10kg（積載負担重量）を減量する。

(1) 数え年30才以下の騎乗専門騎手で、15勝以下のもの。

(2) 減量期間は委員長の指定した年度より3年間とする。

(3) 騎乗経歴のある騎手についてはその通算成績とする。

(4) 減量騎手は出馬表に☆で表示する。

13. この要領に定めるものの他番組編成上必要な事項については番組編成会議で別に定める。



## 昭和49年度種雄馬ランキング

### 5才以上

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ペル	オナシス	12	38	29,209,000	カッターロー, ダイニミハル
2	ペル	ベルヴオンシェー	12	19	10,487,000	ミサイルキング, ボンシー
3	ペル	丹風	5	15	10,091,000	ハヤツネ, ワカテンリュウ
4	ブル	ケルネウエーズ	3	13	9,644,000	タカラコマ, ワイルドキング
5	ブル	オラテール	3	10	9,638,000	カゲコマ, タカラオー
6	ペル	映昭	4	13	9,472,000	ハヤブサ, パラト
7	ブル	鉄鯉	11	17	6,067,000	ハルアラシ, リンシュウ
8	ペル	ゴジエール	10	15	5,750,000	ライマンオー, ツルヒメ
9	ブル	陳倂	3	7	5,043,000	カネイサミ, ロンジ
10	ブル	キプロク	3	9	4,346,000	アラナミ, ユウハタ

### 4才

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	中半	豊盃	2	7	5,554,000	サロマテンリュウ, コマサカエ
2	ペル	オナシス	2	8	3,255,000	ノヘジトップ, カメダマル
3	ペル	アプレス	3	8	2,536,000	ブラックパンサー, アパシリコマ
4	重半	恵清	2	8	2,198,000	シンツバメ, フジハヤ
5	ペル	ウオール	2	3	1,766,000	ダイイチカツエイ, ユガネフジ
6	ペル	映昭	1	2	1,626,000	ソウシン
7	ブル系	モンティ二世	1	8	1,582,000	ヒカルハナシ
8	ペル	銃信	1	1	1,509,000	ナカフムサシ
9	ペル	2世オデオン	1	1	1,344,000	ライデンオー
10	重系	宮川	1	2	1,275,000	トヨカツ

### 3才

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ペル系	丹西	4	20	9,608,000	タンリュウ, レイショウ
2	ペル	晏栄	7	14	7,379,000	カツエイ, ダイニバンシュウハ
3	ペル	アプレス	8	14	7,328,000	ブルーキング, ビヒロコマ
4	ブル	鉄鯉	6	20	5,887,000	テツワカ, テツリュウ
5	ペル	タンプー	1	9	5,847,000	ハクリュウ
6	ペル	ベルウオンシェー	7	7	4,198,500	ハツキントップ, カネマル
7	ブル	キャンペロ	2	5	4,165,500	トカチアサマ, イワミテンリュウ
8	ペル	第2ロッシーニ	2	7	3,543,500	キングパワー, コウショオー
9	中半	呂竜	2	7	3,368,000	キヨニシキ, キヨユキ
10	ブル	メルキュール	1	5	3,016,000	マジン



昭和 49 年

生産奨励賞受賞者一覧

(3月末日現在)

受賞者名	住所	種雄馬管理者賞				生産者賞			授賞額 万円	賞金 交付方法
		種雄馬	生産した出走馬名			生産した出走馬名				
			馬名	血統馬名	生年月日	馬名	血統馬名	生年月日		
松野 宏	白糠町	ヴォールル	ダイイチカツエイ コガネフジ	修 旭 栄 山	46. 4. 1 46. 4. 17				6	釧路農協連 經由
長村 豊司	阿寒町	英 勝	カゲハヤ	松トツブ	46. 4. 30				3	"
佐藤 美義	標茶町	ブリジヤドウ	シヨウユウ アカギ	勝 優 轟 駿	46. 4. 20 46. 5. 10				6	"
厚岸町農協	厚岸町	パテイロン	カツフジ	優勝	46. 5. 9				3	"
道下 知敏	釧路市	ベルサイユ	カグ フラ フクマツ	三 光	46. 4. 30				3	"
斎藤 良作	標茶町	松 栄	イチモンジ カネヒサ	栄 竜 栄 光	46. 4. 30 46. 5. 1	イチモンジ カネヒサ	栄 竜 栄 光	46. 4. 30 46. 5. 1	16	"
大久保芳信	釧路市	オウホ	ダイサン アンテン	金 星	46. 5. 14				3	"
池谷内 サダエ	厚岸町					カツフジ	優 勝	46. 5. 9	5	"
江崎 一郎	白糠町					コガネフジ	栄 山	46. 4. 17	5	"
佐藤 昌明	阿寒町					カゲハヤ	松トツブ	46. 3. 30	5	"
宮崎 修人	白糠町					ダイイチ カツユイ	修 旭	46. 4. 1	5	"
未柄 丈夫	標茶町					シヨウユウ	勝 優	46. 4. 20	5	"
伊藤精一郎	白糠町					ダイサン アンテン	金 星	46. 5. 14	5	"
小柳 一郎	中標津町	鋭 信	ナカフムサン アサヒミノル	豊 光 翠 月	46. 4. 26 46. 5. 5	アサヒミノル	翠 月	46. 5. 5	11	根室生産 農協連
田中 健治	根室市	知 良	カゲハヤテ	玉1号	46. 5. 24				3	"
秋山 実太	中標津町					ナカフムサン	豊 光	46. 4. 26	5	"
阿部 義光	根室市					カゲハヤテ	玉1号	46. 5. 24	5	"
高橋 一男	天塩町	東 亜	ダイニチグサ	サクカイシトツブ	46. 4. 22				3	天塩酪農協
早坂 賢治	天塩町	第三安楽	タツフジ	男 山	46. 5. 10				3	"
小川 政吉	幌延町	モンテイ二世	ユウラク	優 楽	46. 4. 25				3	"
台川 貞夫	天塩町					ダイニチグサ	サクカイシトツブ	46. 4. 22	5	"
高橋 時男	天塩町					タツフジ	男 山	46. 5. 10	5	"
虻田町農協	虻田町	第一世 ゴジエール	ヒカル キンシロー	第二世ゴジエール	46. 4. 18				3	虻田町農協 經由
前田 正雄	豊浦町					ヒカル キンシロー	第二世ゴジエール		5	豊浦町農協
北村鉄太郎	池田町	キブロク	ダアリングダリ キブオーザン	星 光 光 栄	46. 4. 20 46. 4. 10					池田農協
			ホクトオーザ	春 風	46. 4. 7					"
		パトリンヤ	ダイイチボンユウ マツハライン	北 満 パメリー	46. 4. 12 46. 4. 10	ダイイチ ホンユウ	北 満	46. 4. 12	20	"
坂本 建一	池田町					ホクトオーザ	春 風	46. 4. 7	5	"
村瀬新左衛門	池田町					ダアリン グダリ	星 光	46. 4. 20	5	"
山根 勝美	池田町					キブオーザン	光 栄	46. 4. 10	5	"
音更町農協	音更町	ロツシーニ	ヒカル ナミオカ	五 月	46. 5. 20				3	音更農協

受賞者名	住所	種 雄 馬 管 理 者 賞			生 産 者 賞			授賞額 万円	賞 金 交 付 方 法
		種 雄 馬	生産した出走馬名		生産した出走馬名				
			馬 名	血統馬名	生年月日	馬 名	血統馬名		
北川佐次郎	音更町	晏 栄	ミスサカエ ヒカルハヤテ	東 姫 46. 5. 13 勝栄二世46. 3. 28				6	音更農協
川端 正清	音更町				ミスサカエ (メス)	東 姫 46. 5. 13		7	〃
米沢 掌志	音更町				ヒカル ナミオカ	五 月 46. 5. 20		5	〃
小枝 重市	浦幌町	宝 勝	エイシヨウ ミスコハマ	栄 勝 46. 4. 25 桜 梅 46. 4. 6				6	浦幌農協
衰野 恒夫	浦幌町	アルフォル	カネサイチフジ ソラチオー ハツヤマ	エクセレント一世 46. 3. 14 栄 山 46. 4. 18 初 山 46. 5. 3				9	〃
岩井 幸一	浦幌町	公 連	ヤスヒカリ	金 公 46. 5. 1				3	〃
内山重次郎	浦幌町	立 連	サンカンオー	晏 進 46. 5. 1				3	〃
河原 誠貫	浦幌町				ハツヤマ	初 山 46. 5. 3		5	〃
長浜 平夫	浦幌町				ヤスヒカリ	金 公 46. 5. 1		5	〃
佐藤 重夫					タモツハイ	宝 連 46. 5. 5		5	〃
田中 常平	浦幌町				エイシヨウ	栄 勝 46. 4. 25		5	〃
野口 元助	浦幌町				ソラチオー	栄 山 46. 4. 18		5	〃
横山 一馬	浦幌町				ミスコハマ (メス)	桜 梅 46. 4. 6		7	〃
豊田 駒雄	浦幌町				カネサイチフジ (メスのみ)	エクセレント一世 46. 3. 14		2	〃
清水農協 馬産振興会	清水町	コリラン	ジヤルダン	春 風 46. 4. 20				3	清水農協経由
紀井 茂夫	清水町				ジヤルダン	春 風 46. 4. 20		5	〃
青木 広康	上士幌町	オミクロン	ミクロン	第二オミクロン 46. 5. 1				3	上士幌農協
八木谷善太郎	上士幌町				ミクロン	第二オミクロン 46. 5. 1		5	〃
横山松太郎	池田町	朗 夕	カモイイチ	朗 春 46. 4. 15				3	十勝利別農協
大村 雄三		新 明	ボンシーマル	花 咲 46. 4. 5				3	〃
坂本弥五郎	池田町				カモイイチ	朗 春 46. 4. 15		5	〃
山下多次郎	新得町	新 良	タイラップ	第2ボンシエー 46. 5. 3				3	新得農協
長野 茂	足寄町	オナス雄	タケイサミ	べんてん46. 4. 7				3	足寄農協
野口 正雄	足寄町	オスエクラ	ラクエー	太 陽 46. 5. 18				3	〃
只野 幸一	足寄町	ソイツク	ダイハヤテ サカエタカラ	北の海 46. 3. 28 大 鵬 46. 4. 10	サカエタカラ	大 鵬 46. 4. 10		11	〃
高橋 敏	足寄町	ナデーヤ	ササカツ	山 嵐 46. 4. 23				3	〃
金岡 重文	足寄町				タケイサミ	べんてん46. 4. 7		5	〃
上妻 勇喜	足寄町				ダイハヤテ	北の海 46. 3. 28		5	〃
石垣 政雄	足寄町				ササカツ	山 嵐 46. 4. 23		5	〃
中山 潔	足寄町				オホツク	堆 宝 46. 4. 10		5	〃
友安 政止	音更町	詠 旭	カチタカラ ワカタカ	清 栄 46. 5. 5 詠 輝 46. 5. 4				6	木野農協経由
高橋 光雄	音更町				ワカタカ	詠 輝 46. 5. 4		5	〃
清都 清	音更町				タカライマイ	第二サンブール 46. 5. 1		5	〃

受賞者名	住所	種 雄 馬 管 理 者 賞			生 産 者 賞			授賞額 万円	賞 金 交 付 方 法	
		種 雄 馬	生産した出走馬名		生産した出走馬名					
			馬 名	血統馬名	生年月日	馬 名	血統馬名			生年月日
吉井 助一	音更町						カチタカラ	清 栄 46. 5. 5	5	木野農協經由
武内 二郎	豊頃町						ヨシタカラ	勇 46. 4. 20	5	豊頃農協經由
松井 繁義	豊頃町						ニシナカ サカエ	鉄 雄 46. 4. 3	5	"
十勝高島農協	池田町	第三オデオン	ファストバワ フブキ	トキイサミ 46. 4. 5 オデ姫 46. 4. 12					6	十勝高島 農協經由
鈴木 正春	池田町						フブキ(メス)	オデ姫 46. 4. 12	7	"
北山 時雄	池田町						ファスト パワー	トキイサミ 46. 4. 5	5	"
佐々木義弘	更別村	端 祥	ゲツリユウ	月 花 46. 4. 26					3	更別村 農協經由
関山 幸昭	更別村						ゲツリユウ	月 花 46. 4. 26	5	"
大樹町農協	大樹町	試 稔	コマガタ トマフジ	新 宝 46. 5. 18 山 46. 5. 15					6	大樹農協經由
十勝農協連 湧洞牧場	大樹町	銀 庭	トラマル トヨタカラ	利 勝 46. 4. 24 銀 宮 46. 2. 10			トヨタカラ	銀 宮 46. 2. 10	11	"
中井 正勝	大樹町						トマフジ	錦 山 46. 5. 15	5	"
高橋 正	大樹町						コマガタ	新 宝 46. 5. 18	5	"
幕別町農協	幕別町	ウルバン	トヨハル トカチニシキ ホウエイオー イダテン	盤 豊 46. 5. 10 栄 比 46. 5. 10 豊 栄 46. 5. 12 盤 宝 46. 4. 10						幕別農協經由
"		ロイヤル	タキヒメ	第一清流 46. 4. 10					15	"
駒島畜産 振興会	幕別町	パンコ	アポロマル タカラヒデ	春 駒 46. 5. 5 陳 宝 46. 3. 30					6	"
小笠原 茂	幕別町						イダテン	盤 宝 46. 4. 10	5	"
棚橋 吉一	幕別町						タキヒメ (メス)	第一清流 46. 4. 10	7	"
長崎 正雄	幕別町						アポロマル	春 駒 46. 5. 5	5	"
万藤茂太郎	幕別町						タツマキ	初 光 46. 4. 27	5	"
佐藤 芳枝	士幌町	アリスト	タカザクラ	高 桜 46. 4. 16					3	士幌農協經由
土屋 修三	士幌町	スタービドウ	ソウヤホープ	福 寿 46. 4. 7					3	"
半谷 好松	陸別町	西 鋭	オホツク	堆 宝 46. 4. 10					3	陸別農協經由
乾川 学	芽室町	協 烈	ソラチキング	第 6 イザーク 46. 4. 17					3	芽室町 農協經由
南部 文夫	本別町	映 昭	ソウシン	映 勇 46. 4. 10					3	本別農協經由
佐藤 七郎	本別町	第32エタロン	ホエーレイ	国 山 46. 5. 10					3	"
森 春蔵	本別町	政 福	タモツハイ	宝 連 46. 5. 5					3	"
小林 盛	本別町						ソウシン	映 勇 46. 4. 10	5	"
細岡滋太郎	帯広市						ホエーレイ	国 山 46. 5. 10	5	"
渡辺 輝男	網走市						タマノコシ	錦 風 46. 5. 5	5	個人交付
衣笠 薫	網走市	ケルネヴェス	カツタカラ フジノオー	初 勇 46. 4. 28 恵 竜 46. 5. 24						
		アプレス	ワイルドビクトリー シオニシキ	宝 汐 46. 4. 25 汐 錦 46. 4. 15						
			タマノコシ ニュータイガ	錦 風 46. 5. 5 春 駒 46. 4. 16						
			ブラックパンサー アパシリコマ	天 都 山 46. 5. 10 宝 勢 46. 5. 10					24	個人交付



受賞者名	住所	種 雄 鹿 管 理 者 賞			生 産 者 賞			受賞額 万円	賞 金 交 付 方 法	
		種 雄 馬	生産した出走馬名			生産した出走馬名				
			馬 名	血統馬名	生年月日	馬 名	血統馬名			生年月日
高瀬 武雄	紋別市	2世オデオ	ライデンオー コハマ	玉 錦 宝	46. 4. 2 46. 5. 3			6	個人交付	
釣島 武	遠軽町	竜 暁	キヨモリ ヤマトトツ	第一力 桜星	46. 4.18 46. 5.10			6	〃	
管伸 太郎	清里町	賀 宝	トガタ ベニチカラ	力 正 紅	46. 4. 1 46. 5.20			6	〃	
武田 長吉	網走市	オナンス	ハジトツ リンダア	豊 藤 第2勝利	46. 4.26 46. 4. 5					
〃	〃	〃	ヒカルライデン オナンスオー	金 剛	46. 4.30 46. 4.15			12	個人交付	
藤本 芳郎	美幌町	イスラエル 2世	トールパロン	豊 勝	46. 5. 3			3	〃	
高橋喜次郎	湧別町	豊ナオス3世	フクジュ	福 寿	46. 4. 5			3	〃	
岡山 久雄	苫小牧市	豊 円	タイガホース ブルトーザ カゲツ テンリュウ	山 桜 大 力 豊 谷	46. 4.20 46. 4.15 46. 5. 2			9	〃	
村田 徳美	網走市	宝 嘉	キタノホープ	第1栄	46. 4.18			3	〃	
三浦 政且	紋別市	ブデン	カチセイコー	春 駒	46. 4.18			3	〃	
柏木 実	紋別市	朗 暁	アサヒホープ	流 星	46. 4. 4			3	〃	
三上 秀雄	穂別町	第一 ニジュリヤ	バイセン	牛 若	46. 3.24			3	〃	
原 鴻司	雄武町	恵 清	シンツバメ	白 流	46. 5.18			3	〃	
三浦 勇	佐呂間町	豊 杯	コマサカエ サロマテンリュウ	宝 生 勝 進	46. 5. 5 46. 4.10			6	〃	
井上 定雄	津別町					マツヤマ	マツヤマ	46. 4.10	5	〃
阿部 亘	興部町					カチセイコー	春 駒	46. 4.18	5	〃
久保 豊	東藻琴村					リンダア (メス)	第2勝利	46. 4. 5	7	〃
佐々木清春	網走市					ブラック パンサー	天都山	46. 5.10	5	〃
楠目 藤男	網走市					ワイルド ビクトリー	宝 汐	46. 4.25	5	〃
高石 正助	網走市					アバシリコマ	宝 勢	46. 5.10	5	〃
田中 三郎	佐呂間町					サロマトツ	サロマドツ	46. 5.13	5	〃
筒井 弘義	遠軽町					キヨモリ	第一力	46. 4.18	5	〃
富永 浜次	北見市					カツタカラ	初 勇	46. 4.28	5	〃
藤枝 勝行	紋別市					コハマ	勇 宝	46. 5. 3	5	〃
三好 安美	美幌町					フジノオー	恵 竜	46. 5.24	5	〃
三好 敏	美幌町					トールパロン	豊 勝	46. 5. 3	5	〃
国文 常吉	佐呂間町					ホシハタ	知 里	46. 4.16	5	〃
山本 巧	網走市					ノヘジトツ	豊 藤	46. 4.26	5	〃
松浦 太郎	上湧別町					フクジュ	福 寿	46. 4. 5	5	〃
森野 政義	日高町					ロツケ	玉 勇	46. 3.15	5	〃
山中 重春	小清水町					ボルガ	八 光	46. 4.10	5	〃
山本 要一	網走市					キタノホープ	第1栄	46. 4.18	5	〃
吉岡 和市	網走市					ニュータイガ	春 駒	46. 4.16	5	〃

受賞者名	住所	種雄馬管理者賞			生産者賞			受賞額 万円	賞交付方法
		種雄馬	生産した出走馬名		生産した出走馬名				
			馬名	血統馬名	生年月日	馬名	血統馬名		
大谷 勝之	門別町	立 啓	ロツケ アサヒシロ	玉 勇 46. 3.15 第2立啓46. 4.20				6	個人交付
牧野 綾	佐呂間町				コマサカエ	宝 生 46. 5. 5		5	〃
山中 正芳	紋別市				ライデンオー	玉 錦 46. 4. 2		5	〃
佐藤 吉朗	幕別町				ホウエイオー	豊 栄 46. 5.12		5	〃
小路谷美雄	網走市	知 染	サロマトツブ ホシハタ	サロマトツブ46. 5.13 知 里 46. 4.16				6	〃
沢田 力春	雄武町				シンツバメ	白 流 46. 5.18		5	〃
内藤竹次郎	佐呂間町				サロマ テンリュウ	勝 進 46. 4.10		5	〃
下山 静江 (建治死亡のため)	小清水町				ベニチカラ	紅 力 46. 5.20		5	〃
原 綾子 (重監死亡のため)	幕別町	丹 西	タツマキ キヨシ	初 光 46. 4.27 丹 雄 46. 5.12				6	〃

### 一屯座談会

(49年度) 一トン以上

司会者

「皆さん、よくいらつしやいました。今日はひとつ、一屯以上の方はかりに集って頂いて、本誌創刊五周年記念の座談会をやるうってエわけです。」

「一番でかいのはカツタロー関かな、カツタローさん、こちらへいらつしやい」

「イヤ、どうも、あまりでかいふといといわんで下さいよ、きのうも中央のカブラヤオーのほうがスマートだなんていわれて、腐ってるんですよ」

「腐ることないですよ、あなたが一番力が強いついていわれてるんだもの、カブラヤオーよりもてるって評判ですよ」

ダイニミハル  
「そうですね、あたしのこと考えてごらん下さいよ、今日集った中でもあたしがカッちゃんの次に重いんだから、女横綱なんていわれて恥しいわ」

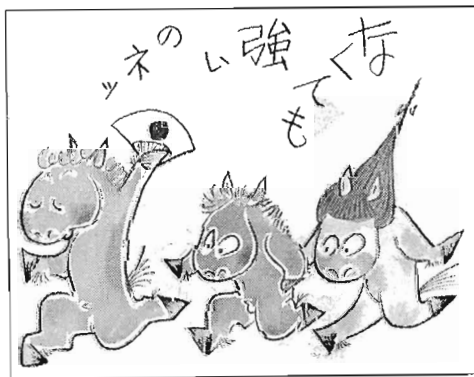
タマカゼ  
「そうですね、一屯以上21にんのうち、女はあたとミハルちゃんタイちゃんの三人だけよ、あまりジロジロ見ないでよ」

メジロタイヨロ  
「でも君達は偉いよ、ミハルちゃんは農林大臣賞で男みんな負かしちゃったんだから、賞金九百万円も稼いでさ。タマちゃんだって五百七十万円もとったんだからな。あつしなぞは日方は三番目だが、万年前頭だよ」

タイホウ  
「あたし、娘(五才)のくせに一屯以上もあるのよ、あたしこそ腐りたいわ。お父さんはミハルちゃんと同じオナシスなんだけど、ミハルちゃんが生れる頃は人間のオナシスみたいに精力絶倫だったから、強い娘さんが生れたんだわ」

「マア、元気でやりましようや。ところで女なのはどうしてタマカゼとか、タイホウなんて名前つけたの」

「Hねえ、タマっていうのは珠玉という意味よ」



司会者

「ハハハ、女性のために大いに頑張っで下さい、ばんえい蹄馬は北海道馬産という大きな使命をこなしていますからね。女の方にたくさん出てください。大いに気概を上げていただきましよう、女性強し、北海道の馬産は女性の活躍がなければ成り立ちません。」

さて本日ご出席の方々をご紹介しまし  
よう。騙の方が一番多く、しかもなか  
か強いですね。

おす 6頭 最高メジロタイヨージ  
○四六疋  
せん 12頭 〃カッターロー 一〇〇〇疋  
めす 3頭 〃ダイニミハル一〇五二疋  
49年度出走馬五〇五頭の性別は表のと  
おりで、めす馬は全体の十六%です。

おせ 計	一五	三才	計
すん 計	一七 一六	四、五 才	一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九
	一 二 三 四 五	六才 以上	二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五

# 昭和50年度 報償費

(一) 馬主に関するもの  
賞金

(二) 競馬番組で示した金額  
出走手当 二万八千円  
次に該当する馬の馬主に対して支給  
する。

ア 競走に出走したとき  
イ 特別報償金の受給資格馬  
着外手当  
重賞競走 三万円  
特別競走 一万円

一着賞金六〇万円以上 二万円  
〃 六〇万円未満 一万円  
特別報償金  
次に該当する馬の馬主に対し支給す  
る。

(三) 出走投票の結果、その競走の出走  
頭数が五頭以下のため競走が取り止  
めになり出走できなかったとき  
その競走の五着賞金相当額、但し  
二万円を限度とする。(調教師賞、  
厩務員賞においてもこれに準ずる。)

イ 競走除外、発走除外等で同わくの  
ため除外になったとき  
その競走の三着賞金相当額。(調  
教師賞、騎手賞、厩務員賞におい  
てもこれに準ずる。)

ウ 天災その他やむを得ない理由によ  
り開催当日に競走を取りやめたとき。  
その競走の賞金と着外賞金の合計  
額を出走予定頭数で按分した範囲の  
額。

(四) 輸送手当 七千円  
競馬場毎に一回以上出走した馬(特  
別報償金受給資格を有した馬を含む)  
の馬主に対し、当該競馬場毎に支給す  
る。

二 調教騎手に関するもの  
調教師賞  
調教專業騎手  
一着 二万円  
二着 一万六千円  
三着 一万一千円  
四着以下 七千円

調教兼業騎手  
一着 七千円  
二着 六千円  
三着 五千円  
四着以下 三千円

競走に出走し決勝線に到達した馬  
の調教專業騎手及び調教兼業騎手  
に対し支給する。但し当該競走に  
おいて戒告以上の処分を受けたと  
き及び委員長が支給することが不  
適当と認め期間を定めて支給を停  
止したときは支給しない。

## 三 騎手に関するもの

### 騎手賞

- 一着 一万円
- 二着 八千円
- 三着 六千円
- 四着 四千円

競走に出走し、決勝線に到達した  
騎手に対し支給する。但し、当該  
競走において戒告以上の処分を受  
けた場合は支給しない。

## 四 厩務員に関するもの

### 專業厩務員

- 一着 一万円
- 二着 八千円
- 三着 六千円
- 四着以下 四千円

### 兼業厩務員

- 一着 四千五百円
  - 二着 四千円
  - 三着 三千五百円
  - 四着以下 二千五百円
- 出馬確定した馬の厩務員に対し支  
給する。但し当該競走において戒  
告以上の処分を受けたもの及び委  
員長が支給することが不適当と認  
め期間を定めて支給を停止したと  
きは支給しない。

## 昭和49年度 主催者別売得金成績

### 市 営

主 催 者	期別	売 得 金 額	1 日 平 均	賞 金 額	入 場 人 員	1 日 平 均
旭 川 市	1	823,141,000	137,190,167	26,260,000	31,252	5.208
	2	698,726,100	116,454,350	26,360,000	21,095	3,515
	3	811,860,200	135,310,033	30,240,000	23,630	3,938
	4	1,341,375,700	223,562,617	32,980,000	42,726	7,121
	計	3,675,103,000	153,129,292	115,840,000	118,703	4,945
帯 広 市	1	850,827,500	141,804,583	24,925,000	30,120	5,020
	2	965,727,300	160,954,550	26,200,000	31,170	5,195
	3	750,015,600	125,002,600	28,740,000	22,560	3,760
	4	932,739,600	122,123,267	29,000,000	26,400	4,400
	計	3,499,310,000	145,804,583	108,865,000	110,250	4,593
北 見 市	1	597,065,000	99,510,833	20,900,000	22,969	3,828
	2	603,653,800	100,608,967	21,126,000	18,541	3,090
	3	667,068,700	111,178,117	21,880,000	19,494	3,249
	4	774,763,700	129,127,283	21,920,000	22,210	3,701
	5	856,219,100	142,703,183	26,000,000	20,413	3,402
計	3,498,770,300	116,625,677	111,826,000	103,627	3,454	
岩 見 沢 市	1	1,116,526,500	186,087,750	32,820,000	32,588	5,431
	2	839,030,000	139,838,333	36,700,000	23,878	3,979
	3	801,213,300	133,535,550	36,525,000	20,922	3,487
	4	1,118,753,900	186,458,983	42,460,000	27,151	4,525
	計	3,875,523,700	161,480,154	148,505,000	104,539	4,355

### 道 営

競 馬 場	期別	売 得 金 額	1 日 平 均	賞 金 額	入 場 人 員	1 日 平 均
岩 見 沢 市	1	1,454,280,200	242,380,033	35,900,000	74,837	12,472
	2	1,203,351,000	200,558,500	42,400,000	41,964	6,994
	3	1,081,049,000	180,174,833	44,775,000	34,159	5,693
	4	1,566,421,000	261,070,166	45,900,000	47,330	7,888
	5	1,502,917,200	250,486,200	50,300,000	45,841	7,640
	6	1,777,186,600	296,197,766	60,400,000	49,483	8,247
	計	8,585,205,000	238,477,916	279,675,000	293,614	8,155
帯 広 市	1	606,811,600	101,135,266	40,800,000	26,104	4,350
	2	742,445,800	123,740,966	49,500,000	28,627	4,771
	3	810,765,800	135,127,633	49,700,000	30,375	5,062
	4	935,161,400	155,860,233	52,500,000	29,433	4,905
	計	3,095,184,600	128,966,025	192,500,000	114,539	4,772
札 幌	1	3,002,307,000	500,384,500	69,900,000	92,394	15,399
	2	3,595,362,800	599,227,133	74,600,000	105,839	17,639
	計	6,597,669,800	549,805,816	144,500,000	198,233	16,519
函 館	1	675,441,400	112,573,566	57,000,000	22,276	3,712
	2	579,936,800	96,656,133	48,475,000	17,338	2,889
	3	536,496,400	89,416,066	56,500,000	16,700	2,783
	4	71,191,000	71,191,000	6,900,000	2,233	2,233
	計	1,863,065,600	98,056,084	168,875,000	58,547	3,081

昭和49年主權特別金取崩

市 券

日 平 日	入 取 人 員	金 額	日 平 日	金 額	期 間	種 類
8.208	31.252	39,380,000	127,190,197	823,141,000	1	市 債
3.212	21.092	39,360,000	116,124,320	698,729,100	2	
3.938	23,630	39,240,000	122,310,933	811,899,200	3	
7.121	42,229	39,280,000	223,222,917	1,241,222,700	4	
4.242	118,203	112,840,000	122,129,222	2,027,103,000	計	
2.020	30,120	21,622,000	141,804,283	220,227,200	1	市 債
2.122	31,120	29,200,000	160,224,220	992,227,200	2	
3.220	22,220	22,240,000	122,002,220	220,227,200	3	
4.200	20,200	20,000,000	122,122,220	220,227,200	4	
4.222	110,220	102,222,000	142,804,222	2,422,210,000	計	
3.222	22,222	20,000,000	62,210,222	220,227,200	1	市 債
3.220	12,221	21,222,000	100,222,220	992,227,200	2	
3.242	12,242	21,220,000	111,122,117	992,227,200	3	
3.201	22,210	21,220,000	122,122,222	220,227,200	4	
3.202	20,212	20,000,000	122,122,222	220,227,200	5	
3.224	102,222	112,222,000	112,222,222	2,422,210,000	計	
2.221	32,222	22,222,000	122,022,220	1,122,222,200	1	市 債
2.222	22,222	20,222,000	122,222,222	220,227,200	2	
2.222	20,222	20,222,000	122,222,222	220,227,200	3	
4.222	22,222	22,222,000	122,222,222	220,227,200	4	
4.222	102,222	112,222,000	122,222,222	2,422,210,000	計	

市 券

日 平 日	入 取 人 員	金 額	日 平 日	金 額	期 間	種 類
12.122	12,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	1	市 債
2.222	12,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	2	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	3	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	4	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	5	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	6	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	計	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	1	市 債
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	2	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	3	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	4	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	計	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	1	市 債
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	2	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	3	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	4	
2.222	22,222	22,222,000	222,222,222	1,222,222,200	計	



昭和50年4月

札幌市北区北10条西4丁目畜産会館2階（TEL）代表742-5345